exacqVision®

ネットワークビデオレコーダー
ユーザーマニュアル
バージョン9.2

本書の情報は予告なく変更されることがあります。
© Copyright 2006-2018, Exacq Technologies, Inc. All rights reserved.

Exacq Technologies は、Exacq Technologies, Inc. の商標です。他の商標および商号は、商標および名称を主張する団体またはそれらの製品に言及するために本書で使用されます。Exacq Technologies, Inc. は、自社以外の商標および商号の独占的所有権を拒否します。

Exacq Technologies は、この資料についていかなる種類の保証も行いません。これは、商品性および特定目的への適合性の明示的保証を含みますが、それに限定されるものではありません。Exacq Technologies は、ここに含まれる誤り、または本マニュアルの提供、履行、あるいは使用に関連した付随的または間接的損害に対して責任を負わないものとします。

Exacq Technologies, Inc.
11955 Exit Five Parkway, Bldg 3
Fishers, IN 46037 USA

バージョン9.2の新機能

- 関連付けウィンドウ
- [パスワードの変更]ウィンドウ
- カスタムアイコン ウィンドウ
- [Enterpriseパスワードの変更]ウィンドウ
- レポートの生成
- 補助コマンドをカメラに送る
- [検索]ウィンドウのVideoPush
- [ビデオウォール] ウィンドウ
- [自動エクスポート] ウィンドウ

Chapter 1. システムのインストール 11
ハードウェアおよびソフトウェア要件 12
サーバー ソフトウェアのインストール 13
クライアントソフトウェアのインストール 13
クライアントおよびサーバーアーキテクチャ 15
システムのインストールチェックリスト 15
Chapter 2. ご利用の前に 16
exacqVision ソフトウェアの概要 17
サーバーへのログオン 17
メインウィンドウ 18
exacqVision クライアントウィンドウについて 19
exacqVision ヘルプ 19
ログファイルのコンパイル 20
Chapter 3. システム構成 21
システム構成の概要 22
[システムの追加] ウィンドウ 22
システムの手動追加 23
検出されたシステムの追加 23
システムリストの更新に関する自動検索の構成 24
システムリストの ESM との同期 24
[システムの構成] ウィンドウ 25
[システム] タブ 25
ライセンスのインポート 26
[日付/時刻] タブ 26
[ネットワーク] タブ 27
ネットワーク接続の構成 28
追加DNSアドレスの追加 29
Una システム 29
[Active Directory/LDAP] タブ 30
ディレクトリサービス設定の変更 31
[ウォッチドッグタイマー] タブ 31
[ハードウェア監視] タブ 32
[更新] タブ 33
リモート更新 34

exacqVision サーバーソフトウェアのリモートでの更新 34
［発信接続］タブ 35
システムのネットワークの範囲外のサービスへの接続 35
システム上での複数の接続の構成 35
［帯域幅］タブ 36
帯域幅制限プロファイルの作成 37
［セキュリティ］タブ 38
ユーザーロックアウト試行回数制限の設定 38
ユーザーロックアウトリセット時間の設定 38
非アクティブロックアウト時間の設定 39
アクセススケジュール 39
新しいアクセススケジュールの作成 39
アクセススケジュールの変更 39
セカンドレビューアー機能の構成 40
［IP カメラの追加］ウィンドウ 41
［IP カメラの追加］ウィンドウの表示 41
［IP カメラリスト］ペイン 41
カメラの手動追加 42
［IP カメラ情報］ペイン 42
［IP カメラの検索］タブ 42
検索によるカメラの追加 43
［IP カメラのアドレス指定］タブ 43
［カメラインポート］タブ 44
exacqVision サーバーへのカメラのインポート 44
カメラの IP アドレスの変更 44
［カメラ録画］ウィンドウ 45
複数のカメラへの構成設定の適用 46
アナログカメラ録画 46
複数のカメラへの録画設定の適用 46
［カメラ設定］ウィンドウ 47
マルチストリーミング 48
［カメラ設定］タブ 48
［表示］タブ 49
［ビデオ］タブ 50

カメラ画像のトリミング 51
モーションマスクとビデオマスク 52
モーションマスクの作成 52
ビデオマスクの作成 52
［録画］タブ 53
［モーション］タブ 54
［容疑者追跡］タブ 55
容疑者追跡のセットアップ 56
［機械的 PTZ］タブ 57
補助コマンドをカメラに送る 58
［デジタル PTZ/魚眼］タブ 59
［スケジュール］タブ 60
録画スケジュールの作成 60
解析タブ 61
［PoE ポート］ウィンドウ 62
［PoE ポート］ウィンドウの表示 62
［セキュリティ統合］ウィンドウ 63
セキュリティ装置の追加 63
セキュリティ統合の状態の表示 64
キーワードの無効化 64
［シリアルプロファイル］ウィンドウ 65
シリアルプロファイルの作成 67
シリアルデータ文字列検索のルールの作成 67
［シリアルポート］ウィンドウ 68
［UART］ペイン 68
［IP］ペイン 70
［音声入力/出力］ ウィンドウ 71
［トリガー入力］ウィンドウ 72
［アラーム出力］ウィンドウ 73
［ビデオ出力］ウィンドウ 74
［ビデオ出力］ウィンドウでのツアーの作成 74
［ストレージ］ウィンドウ 75
［ドライブ］タブ 75
ビデオの保存期間の設定 76

［拡張］タブ 77
S シリーズシステム上でのストレージドライブの構成 77
［ハードウェア］タブ 78
ハードドライブの準備 79
［ネットワーク］タブ 79
［通知］ウィンドウ 80
［電子メールメッセージプロファイル］タブ 80
電子メール通知プロファイルの作成 82
［電子メールサーバー］タブ 83
送信 SMTP メールサーバーの構成 84
［Web サーバー］タブ 84
テキストメッセージ通知の作成 85
［自動エクスポート］ウィンドウ 86
自動エクスポートプロファイルの作成 89
CD、DVD、またはドライブへのデータのエクスポート 89
［イベントリンク］ウィンドウ 90
イベントリンクの作成 91
［イベント監視］ウィンドウ 94
イベント監視プロファイルの作成 96
［ライブ］ウィンドウでのイベントプロファイルの表示 97
［スケジュール］ウィンドウ 98
［スケジュール］モード 98
［曜日］タブ 98
すべての機器のスケジュールの作成 100
［ソース］タブ 100
単一の機器のスケジュールの作成 100
［アーカイブ］ウィンドウ 101
［ターゲット］タブ 102
アーカイブ用のドライブの構成 102
直接検索 103
［タスクスケジュール］ペイン 103
サーバー上のアーカイブタスクのスケジュール 104
［アーカイブ］ウィンドウの［スケジュール］タブ 105
サーバー内のすべての機器のアーカイブスケジュールの作成 106

サーバー内の単一の機器のアーカイブスケジュールの作成 106
関連付けウィンドウ 107
カスタムアイコン ウィンドウ 109
カスタムアイコン ウィンドウを開く 109
関連付けのカスタムアイコンを作成する 109
[ユーザー] ウィンドウ 110
システムへのユーザーの追加 112
システムへのユーザーグループの追加 113
[ライブ]ウィンドウと[検索]ウィンドウのユーザー許可をカスタマイズする 113
ユーザーの優先度レベルの変更 114
[ユーザー] ウィンドウの [セキュリティ] タブ 115
ユーザーにパスワードを変更する権限を与える 115
ユーザーにパスワードの変更を強制する 116
一時ユーザーの作成 116
ユーザーへのアクセススケジュールの割り当て 116
[パスワードの変更]ウィンドウ 117
[システム] ウィンドウ 118
[装置] ウィンドウ 120
[クライアント] ウィンドウ 121
ソフトトリガーのショートカットの作成 123
[ジョイスティック] ウィンドウ 124
[インジケータ] ウィンドウ 125
[グループ] ウィンドウ 127
新規グループの作成 128
[マップ] ウィンドウ 129
カスタムマップの作成 130
[ビュー] ウィンドウ 131
ビューの作成 132
[ツアー] ウィンドウ 133
新規ツアーの作成 133
[レイアウト] ウィンドウ 134
カスタムビデオパネルレイアウトの作成 135
[ビデオウォール] ウィンドウ 136
カスタムビデオウォールを作成する 136

ビデオウォールを削除する 137
［システム情報］ウィンドウ 137
システムのログの検索 139
レポートの生成 139
Chapter 4. ［ライブ］ウィンドウ 140
［ライブ］ウィンドウの概要 141
［ライブ］ウィンドウを開く 141
［ライブ］ウィンドウの機能 142
ビデオパネル 143
［ライブ］ウィンドウでのクイック検索の実行 143
グループの表示 144
マップの表示 144
ビューへのアクセス 145
［ライブ］ウィンドウでのビューの作成 145
［ライブ］ウィンドウでのブックマークの作成 145
［ビデオプッシュ］ウィンドウ 146
［ビデオプッシュ］ウィンドウを使用した情報の送信 148
［ライブ］ウィンドウ内の PTZ カメラ 148
［ライブ］ウィンドウ内のデジタル PTZ カメラ 149
ライブビデオ上でのズーム 150
［双方向音声］ウィンドウ 150
音声の送受信 150
exacqReplay を使用したビデオの再生 151
［exacqReplay］ウィンドウ 151
イベント監視 153
［ライブ］ウィンドウ内でのイベントの監視 153
［ソフトトリガー］ウィンドウ 154
Chapter 5. ［検索］ウィンドウ 155
［検索］ウィンドウの概要 156
［検索］ウィンドウの機能 157
タイムライン検索 158
タイムライン検索の実行 158
サムネイル検索 158
サムネイル検索の実行 158

リスト検索 159
リスト検索の実行 159
ビデオ再生 160
ビデオ再生と販売時点管理（POS） 160
ビデオ再生でのイベントモーションの特定 160
スマート検索 161
スマート検索の実行 161
マップ検索 162
マップ検索の実行 162
ビュー検索 162
ビュー検索の実行 162
イベント検索 163
イベント検索の実行 163
[検索]ウィンドウのVideoPush 163
[検索]ウィンドウでVideoPushを使用してビデオを送信する 163
ブックマーク 164
[検索] ウィンドウでのブックマークの作成 164
ブックマーク検索の実行 165
ケース検索の実行 165
シリアル検索 165
シリアル検索の実行 165
キーワード検索 166
キーワード検索の実行 166
解析オーバーレイ 167
解析メタデータ検索の実行 167
ファイルのエクスポート 168
ビデオファイルのエクスポート 168
エクスポートプレーヤー 169
[ディスクの書き込み] ウィンドウ 171
[ファイルマネージャー] ウィンドウ 172
Chapter 6. Enterprise 管理 173
Enterprise 管理の概要 174
[Enterprise システム] ウィンドウ 174
[Active Directory/LDAP] タブ 174

［発信接続］タブ 175
［手動フェールオーバー］タブ 176
［タイムサーバー］タブ 177
［セキュリティ］タブ 178
サーバーのユーザーロックアウト試行回数制限を設定する 178
サーバーのユーザーロックアウトのリセット時間を設定する 179
サーバーの非活動ロックアウト時間を設定する 180
サーバーの新しいアクセススケジュールを作成する 180
サーバー上のパスワードセキュリティを強化する 180
［Enterprise カメラ］ウィンドウ 181
［Enterprise ストレージ］ウィンドウ 182
［Enterprise 通知］ウィンドウ 183
通知プロファイルとサーバーとの関連付け 183
送信 SMTP メールサーバーの構成 184
［Enterprise ユーザー］ウィンドウ 185
LDAP 統合を利用したユーザーまたはグループの作成 186
LDAP 統合を利用しないユーザーまたはグループの作成 186
ユーザーアカウントの無効化 187
exacqVision Enterpriseでの一時ユーザーの作成 188
exacqVision Enterpriseのユーザーへのアクセススケジュールの割り当て 188
［Enterpriseパスワードの変更］ウィンドウ 189
システムのパスワードの変更 189
［Enterprise Web パネル］ウィンドウ 190
Web サイトの追加 190
Web サイトナビゲーションスタイルフィルターの追加 191
Chapter 7. テクニカルサポート 192
Chapter 8. 規制通知 194
Chapter 9. 保証 196

Chapter 1. システムのインストール

ハードウェアおよびソフトウェア要件

表1 exacqVision システムのインストールに関するハードウェアおよびソフトウェア要件に関する情報を示しています。

名前	要件
サーバー	最小サーバー要件については、https://www.exacq.com/products/vms_requirements.html を参照してください。
	サーバーオペレーティングシステムと exacqVision ソフトウェアを専用のミラーリング済みオペレーティングシステム上にインストールします。
	本ストレージシステムは、サーバーのパフォーマンスを制限することがあります。本ストレージシステムは、すべてのカメラからの最大読み取りおよび書き込みデータ量の 2 倍に対応できます。壊滅的故障の可能性を低くするために、すべてのビデオストレージで RAID 5 または RAID 6 を使用してください。
	停電時のデータの破損を避けるために、UPS 駆動型サーバーを使用してください。
	多様な同時 Web クライアントをホストする場合、CPU 要件が増加します。
	exacqVision サーバーアプリケーションは最大で 4 GB を必要とします。オペレーティングシステム、Web ホスティング、または他のサーバーアプリケーションは追加のメモリを必要とします。
	定期的なビデオ録画を行う場合、エンタープライズレベルのハードドライブを使用してください。
オペレーティングシステム	最小オペレーティングシステム要件については、https://www.exacq.com/products/vms_requirements.html を参照してください。
	多数のエッジ装置が複数または動的なポート割り当てを使用するため、ポートブロックは行わないでください。
	ウイルス対策プログラムは、オペレーティングシステムと exacqVision ソフトウェアドライブのみをスキャンできます。ドライブパフォーマンスの低下を避けるために、すべてのビデオストレージ装置上でウイルススキャンを無効にしてください。
	自動更新を有効にしている場合、オペレーティングシステムの再起動時にお使いのサーバーは録画を停止します。
MAC アドレス	exacqVision ライセンスは MAC アドレスに基づいています。NIC チーミングまたは MAC アドレスを不明瞭にする他の構成が設定されたサーバーは、ライセンス MAC アドレスを提供するために追加の USB ベースの NIC を必要とします。
ネットワーク	最も信頼性の高いシステムとパフォーマンスを実現するために、ネットワーク管理者は、以下のベストプラクティスを順守する必要があります。 すべてのカメラに専用の VLAN および MIC ポートを使用してください。 すべてのストレージネットワークに専用の VLAN および NIC ポートを使用してください。 カメラとサーバー用の固定 IP アドレスを使用してください。ExacqVision クライアントは DHCP を使用できます。 カメラとサーバー間のネットワーク容量が最大ビデオ速度の 2 倍になっていることを確認してください。 サーバー/シッククライアントネットワークの速度が、すべての同時に表示されるカメラの最大合計データ速度の 1.5 倍になっていることを確認してください。
Web サービス	exacqVision のデフォルトの Web サービスは lighttpd です。接続が 11 個以上になると予想されるシステムの場合は、Apache Web サービスにアップグレードしてください。詳細については、https://www.exacq.com/kb/?kbid=34927 を参照してください。
	Web サービスは、サーバーハードウェア要件を増加させ、専用の Web サーバー上でのインストールを必要とすることがあります。Web サービスの構成方法の詳細については、https://www.exacq.com/kb/ を参照してください。

表1.ハードウェアおよびソフトウェア要件

サーバー ソフトウェアのインストール

サーバー ソフトウェアをインストールするには、以下の手順を実行します。

1. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - Windows サーバーの場合は、最新のサーバーおよび Web サービスインストールソフトウェアを http://downloads.exacq.com/reseller/exacqVision.exe からダウンロードします。
   - Linux サーバーの場合は、最新のサーバーおよび Web サービスインストールソフトウェアを http://downloads.exacq.com/reseller/Ubuntu/Dapper/exacqVisionServer.deb からダウンロードします。
2. 実行可能ファイルを実行してインストールウィザードを起動します。

   注記：実行可能ファイルを実行するには、管理者アカウントを使用する必要があります。
3. すべてのカメラの IP アドレス、ユーザー名、およびパスワードを構成します。詳細については、https://www.exacq.com/downloads/ev-ip-quickstart-0311.pdf で『exacqVision IP Camera Quick Start Guide』を参照するか、カメラメーカーの指示ガイドを参照してください。
4. ping コマンドを使用して、各カメラの接続性をテストします。

クライアントソフトウェアのインストール

exacqVision クライアントソフトウェアをインストールするには、以下の手順を実行します。

1. 最新のクライアントソフトウェアを https://downloads.exacq.com/downloads/exacqVisionClient.exe からダウンロードします。
2. 実行可能ファイルを実行してインストールウィザードを起動します。

   注記：実行可能ファイルを実行するには、管理者アカウントを使用する必要があります。
3. ping コマンドを使用して、サーバーとの接続性をテストします。

   注記：exacqVision クライアントがサーバーと通信できない場合は、ネットワーク管理者に連絡してください。
4. exacqVision ソフトウェアを起動します。
5. **[構成]** ウィンドウで、ナビゲーションツリーから **[システムの追加]** を選択します。
6. **[システムの追加]** ウィンドウで、**[新規]** をクリックします。
7. ユーザー名とパスワードを **[システム情報]** 領域に入力します。
8. **[適用]** をクリックします。

   注記：システムリスト表に**接続済み**というステータスと共に新しいサーバーが表示されたら、初期サーバー構成は完了します。サーバーが接続していないのに、そのサーバーの接続が手順 3 で確認された場合は、コンピューターのウイルス対策ソフトウェアがサーバーの IP アドレスとポートをブロックしていないことを確認してください。
9. exacqVision サーバー構成を起動します。

クライアントおよびサーバーアーキテクチャ

exacqVsion ソフトウェアにはクライアントおよびサーバーアーキテクチャがあります。あらゆるコンピューターをクライアントまたはサーバーとして、あるいはクライアントとサーバーの両方として構成できます。以下の定義はこれらの構成を定義しています。

クライアント：クライアントコンピューターは、TCP/IP ネットワークを通じて別のコンピューター上のリモートサービスにアクセスできます。exacqVision クライアントソフトウェアは、シッククライアントであり、Web ブラウザーはシンクライアントです。

サーバー：サーバーコンピュータードライバーは、TCP/IP ネットワークを通じてクライアントコンピューターにサービスを提供します。exacqVision サーバーは、カメラからビデオを受信して保存したり、要求に応じて音声、ビデオ、およびデータをシッククライアントに送信したりします。また、シンクライアント用の Web サーバーをホストできます。exacqVision サーバーソフトウェアには、グラフィカルユーザーインターフェースがありません。サーバーは、ハードウェアの制限内で複数のクライアントコンピューターに同時に接続できます。

クライアントとサーバー：クライアントおよびサーバー構成は、クライアントとサーバーソフトウェアを同時に操作します。クライアントソフトウェアは、localhost127.0.0 という同様のループバック TCP/IP アドレスを使用してサーバーソフトウェアと通信できます。exacqVision サーバーは、工場出荷時にクライアントおよびサーバー構成で設定されています。

システムのインストールチェックリスト

表2では、新しい exacqVision システムをインストールするために実行する必要のある手順のリストを確認できます。

手順	作業
ハードウェアのインストール	詳細については、**表1. ハードウェアおよびソフトウェア要件**および『ハードウェア・クイックスタート・ガイド』を参照してください。
ソフトウェアのインストール	詳細については、「**サーバー ソフトウェアのインストール**」、「**クライアントソフトウェアのインストール**」、および「**表1. ハードウェアおよびソフトウェア要件**」を参照してください。
初期通信の確立	クライアントソフトウェアと exacqVision サーバーとの間で初期通信を確立する方法の詳細については、サーバーのクイックスタートガイドを参照してください。
IP カメラの設定	IP カメラの設定方法の詳細については、*『IP Camera Setup Quick Start guide』*を参照してください。
ユーザー名とパスワードの設定	ユーザー名とパスワードの設定方法の詳細については、*『IP Camera Setup Quick Start guide』*を参照してください。

表2.exacqVision システムをインストールするための必須のインストール手順

Chapter 2. ご利用の前に

exacqVision ソフトウェアの概要

すべての exacqVision サーバーには、以下のコンピューター管理者およびユーザーオペレーティングシステムアカウントが付属しています。

- コンピューター管理者

  ユーザー名:admin

  パスワード：admin256

- ユーザー

  ユーザー名：user

  パスワード：user5710

ビデオ録画を開始したり、他のクライアントコンピューターと通信したりするために、サーバーにログオンする必要はありません。exacqVision サーバーとして同じコンピューターから、またはリモートコンピューターネットワークから実行できる、複数の exacqVision クライアントから exacqVision サーバーにアクセスできます。

最大の信頼性を得るために、ユーザーアカウント機能は exacqVision クライアントソフトウェアの使用に制限されます。exacqVision サーバーのシャットダウンなどのすべてのサーバー保守作業は、オペレーティングシステムの管理者アカウントへのログオンを必要とします。各オペレーティングシステムユーザーアカウントは、別個の exacqVision クライアント設定を持ちます。これらの設定には、ユーザー名、パスワード、およびネットワークアドレスが含まれます。デフォルトで、ユーザーと管理者の両方のオペレーティングシステムアカウントは、管理者アクセスを提供する設定を持ちます。

サーバーへのログオン

サーバーへの初回ログオン時に、以下の手順を実行します。

1. 本システムへの不正なアクセスまたは変更を防ぐために、デフォルトのパスワードを変更し、それらを安全な場所に記録してください。詳細については、「**[ユーザー]** ウィンドウ」を参照してください。
2. サーバー上で新規ユーザーを設定します。新規ユーザーの構成方法の詳細については、「**[ユーザー]** ウィンドウ」を参照してください。
3. ユーザーの権限を制限したり、exacqVision サーバーに付属のオペレーティングシステムユーザーアカウントの exacqVision クライアント設定を変更したりしてください。詳細については、「**[ユーザー]** ウィンドウ」を参照してください。

メインウィンドウ

exacqVision システムにはメインウィンドウが 3 つあります。これらのウィンドウの詳細については、「**表3.メインウィンドウ**」を参照してください。

アイコン	名前	機能
	**［ライブ］ウィンドウ**	**［ライブ］**ウィンドウでは、ライブビデオを表示できます。**［ライブ］**ウィンドウを開くには、**［ライブ］**アイコンをクリックします。
	**［検索］ウィンドウ**	**［検索］**ウィンドウでは、録画されたビデオを検索できます。**［検索］**ウィンドウを開くには、**［検索］**アイコンをクリックします。
	**［構成（セットアップ）］ウィンドウ**	**［構成（セットアップ）］**ウィンドウで、管理者とパワーユーザーはサーバーを構成できます。**［構成（セットアップ）］**ウィンドウを開くには、**［構成（セットアップ）］**アイコンをクリックします。

表3.メインウィンドウ

exacqVision クライアントウィンドウについて

[exacqVision クライアントについて] ウィンドウでは、exacqVision クライアントソフトウェアを更新し、新しいバージョンのソフトウェアを検索し、システムの使用方法に関する情報をメーカーに送信することができます。詳細については、「**表4. exacqVision クライアントウィンドウについて**」を参照してください。

名前	説明
［更新を確認］ボタン	新しいソフトウェア更新がないかexacqVisionクライアントとサーバーを確認します。
	システムが最新バージョンの exacVision ソフトウェアを実行している場合は、メッセージが出現します。**［はい］**をクリックします。
	新しいバージョンのクライアントソフトウェアが使用可能である場合、ダウンロード処理が開始します。更新を完了するには、ダウンロードの完了後に、exacqVision クライアントのすべてのインスタンスを閉じます。**［はい］**をクリックし、セットアップウィザードに従います。
	サーバーソフトウェアの更新が利用可能かどうかを確認するには、ツールバーの[**インジケータ**]アイコンをクリックします。
［更新を自動的に確認］チェックボックス	exacqVision クライアントおよびサーバー用の新しいソフトウェア更新について定期的に検索し、新しいソフトウェア更新が利用可能になったときにユーザーに通知します。新しいソフトウェア更新が利用可能になったとき、それは自動的にインストールされません。
［利用状況の統計を送信］チェックボックス	カメラと exacqVision 機能の利用方法に関する匿名の機密でない情報をメーカーに送信します。

表4.exacqVision クライアントウィンドウについて

exacqVision ヘルプ

[ヘルプ] メニューで、オンラインヘルプにアクセスし、ログファイルをコンパイルし、新製品の情報、サブスクリプション、および登録情報へのインターネットリンク、およびテクニカルサポートとナレッジベースリソースにアクセスできます。**[ヘルプ]** メニューにアクセスするには、ツールバーで**[ヘルプ]** アイコンをクリックします。プラットフォームによっては、オンラインヘルプは状況依存になります。

ログファイルのコンパイル

ログファイルをコンパイルするには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーで、**[ヘルプ]** アイコンをクリックし、**[サポート診断]** を選択します。
2. **[サポート診断]** ウィンドウで、**[サーバー]** メニューからサーバーを選択します。
3. **[インクルードファイル]** 領域で、送信するファイルを選択します。
4. **[サーバーログ範囲]** 領域で、日付と時刻の範囲を選択します。
5. オプション。システム上でのカメラと exacqVision 機能の利用方法に関する匿名の機密でない情報をメーカーに送信するには、**[利用状況の統計を送信]** チェックボックスを選択します。
6. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - ログファイルをコンパイルするには、**[保存]** をクリックします。
   - ログファイルを添付してサポート要求フォームを投稿するには、**[アップロード]** をクリックします。適切な情報を入力し、**[電子メールフォームの送信]** をクリックします。

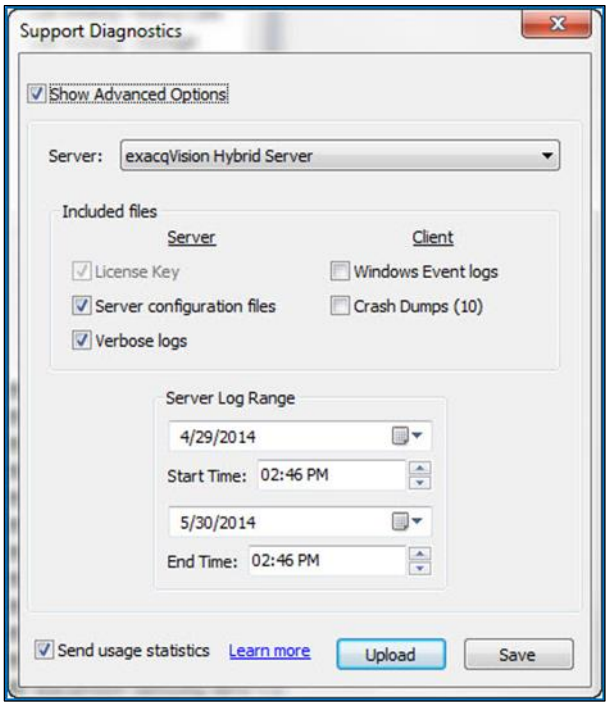


図1.[サポート診断] ウィンドウ

Chapter 3. システム構成

システム構成の概要

[システム構成] セクションでは、サーバーをシステムに追加し、カメラと他の装置を構成し、機能を適用できます。

注記： S シリーズストレージサーバーの場合、ストレージ機能のみを利用できます。

[システムの追加] ウィンドウ

[システムの追加] ウィンドウでは、サーバーを手動で追加したり、検索によって追加したりできます。**[システムの追加]** ウィンドウの機能の詳細については、 **表5. [システムの追加] ウィンドウ**を参照してください。

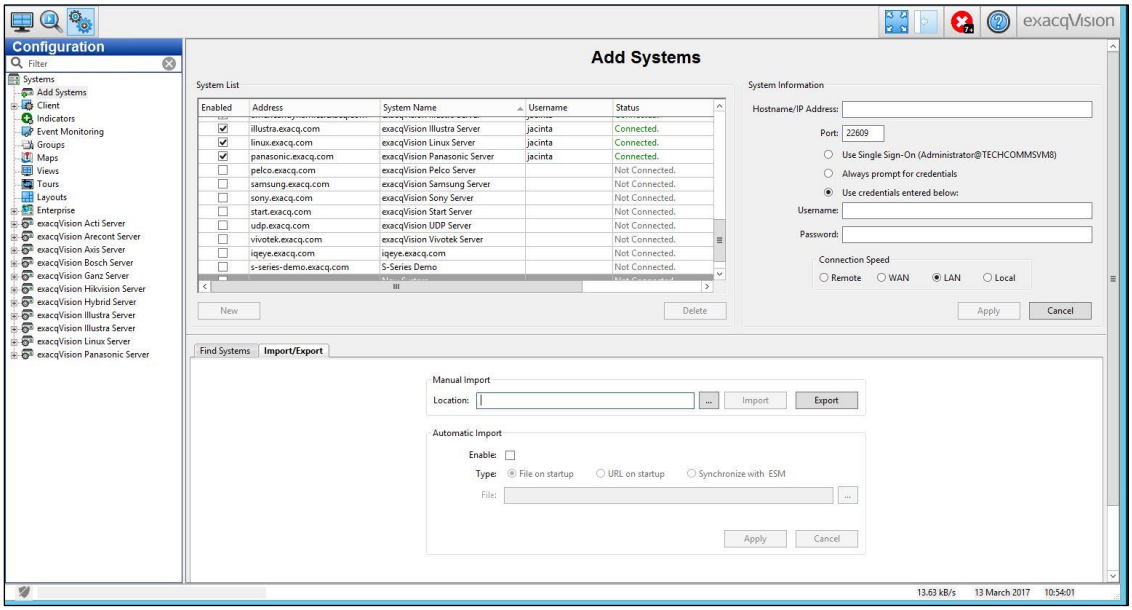


図2.[システムの追加] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
システムリスト	利用可能なサーバーのリストを表示します。
	サーバーを一時的に切断したり、再接続したりするには、そのサーバーのチェックボックスをオンまたはオフにします。
[インポート]/[エクスポート] タブ	構成済みのシステムリストを他の exacqVision クライアントと共有します。
	システムリストをインポートするには、ネットワークの場所または Web サイトを **[手動インポート]** 領域に入力し、**[インポート]** をクリックします。この処理は、以前追加したシステムは削除しません。
	現在表示されているシステムリストをエクスポートするには、**[エクスポート]** をクリックします。その後、そのファイルを別の exacqVision クライアントがアクセスできる場所に保存できます。
[システムの検索] タブ	検索してシステムに追加できる利用可能なサーバーのリストを表示します。

表5.[システムの追加] ウィンドウ

システムの手動追加

システムを手動で追加するには、以下の手順を実行します。

1. **[システムリスト]** ペインで、**[新規]** をクリックします。
2. **[システム情報]** ペインで、システムのホスト名または IP アドレスを **[ホスト名/IPアドレス]** フィールドに入力します。
3. **[ポート]** フィールドにポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は 22609 です。このポート番号は、お使いのネットワーク構成に必要な場合にのみ変更してください。
4. 以下のいずれかのログオン方法を選択します。
   - **シングルサインオンを使用する：** このオプションは、exacqVision Enterprise でのみ使用可能です。exacqVision Enterprise ユーザーの詳細については、「**[Enterprise ユーザー]** ウィンドウ」を参照してください。
   - **常に資格情報を求める：** このオプションでは、exacqVision クライアントを起動するたびに、ユーザー名とパスワードを入力するよう求められます。
   - **以下に入力された資格情報を使用する：** このオプションでは、exacqVision クライアントの起動時に自動的にシステムにログオンします。
5. exacqVision システムに接続するためにユーザー名とパスワードを入力します。
6. 接続速度オプションを選択します。選択するオプションは、バッファに格納する音声の量およびデフォルトのビデオマルチストリーミング速度を決定するのに役立ちます。
7. **[適用]** をクリックします。

検出されたシステムの追加

注記： レコーダーを自動的に検出する exacqVision クライアントの場合、レコーダーは、検索を実行する exacqVision クライアントと同じ IP サブネット上に存在している必要があります。

システムを検索によって追加するには、以下の手順を実行します。

1. **[システムの検索]** タブで、**[IP アドレス範囲]** チェックボックスを選択します。
2. IP アドレス範囲を入力します。

   注記： 4 桁の IP アドレス範囲のみを入力できます。
3. **[検索]** をクリックします。
4. **[システムの検索]** タブで、追加するシステムを選択します。
5. 自分の資格情報を入力します。

   注記： exacqVision Start で、クライアントは、一度に 1 つの exacqVision サーバーにのみ接続できます。

システムリストの更新に関する自動検索の構成

[システム]リストの更新について自動的に検索するように exacqVision クライアントを構成するには、以下の手順を実行します。

1. **[インポート]/[エクスポート]** タブで、**[有効]** を選択します。
2. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - **起動時のファイル：**このオプションは、exacqVision クライアントの起動時に、指定した場所から **[システム]** リストを自動的に読み込みます。
   - **起動時の URL：**このオプションは、exacqVision クライアントの起動時に、Web の場所から **[システム]** リストを自動的に読み込みます。
   - **ESM との同期：**詳細については、「**システムリストの ESM との同期**」を参照してください。
3. **[URL] フィールド**に URL を入力します。
4. **[適用]** をクリックします。

システムリストの ESM との同期

ESM との同期は、exacqVision クライアントが常に Enterprise System Manager (ESM) と同じ**システムリスト**を使用することを保証します。ESM と同期するには、以下の手順を実行します。

1. **[インポート]/[エクスポート]** タブで、**[有効]** を選択します。
2. **[ESM との同期]** を選択します。
3. **[URL]** フィールドに、ESM システムの URL を入力します。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - シングルサインオンを使用する。
   - 常に資格情報を求める。
   - 以下に入力した資格情報の使用このオプションを選択した場合、有効な ESM ユーザー名とパスワードを入力してください。
5. **[適用]** をクリックします。

［システムの構成］ウィンドウ

[システムの構成] ウィンドウでは、クライアントアプリケーションの基本的なシステムパラメータを設定できます。

［システム］タブ

[システム] タブでは、システムの名前を付けたり、他のシステムから設定をエクスポート/インポートしたり、画像をインポート/エクスポートしたり、システムのライセンスを管理したりできます。**[システム]** タブの機能の詳細については、「**表6.［システムの構成］ウィンドウの [システム] タブ**」を参照してください。

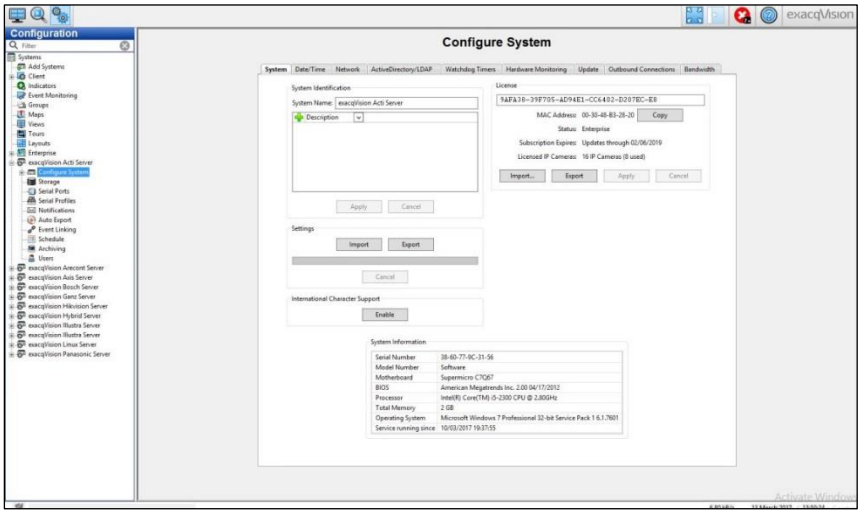


図3.[システムの構成] ウィンドウの [システム] タブ

インターフェース要素	説明
［ライセンス］ペイン	システムのライセンス情報を表示します。
	ライセンスキーを生成するには、システムのプライマリネットワークアダプターの MAC アドレスを使用します。
	ライセンスキーをオンラインで取得するには、販売業者に連絡し、そのシステムの MAC アドレスを提示してください。その後、ライセンスキーを［ライセンス］フィールドに入力できます。ライセンスのない exacqVision サーバーは一度に 1 つの IP 装置にしか接続できません。
［永続的ライセンス］ペイン	システムの永続的ライセンス情報を表示します。試用版ライセンスを永続的ライセンスに対して適用している場合にのみ、［永続的ライセンス］ペインを表示できます。システムライセンスの有効期限が切れている場合、永続的ライセンスは自動的に再適用されます。
［システム ID］ペイン	［システム ID］ペインを使用して、サーバー検索を絞り込むために使用できるメタデータフィールドを作成し、編集することができます。
	メタデータフィールドを追加するには、［+］アイコンをクリックし、対応するフィールドに情報を入力し、［適用］をクリックします。
［設定］ペイン	災害または動作不良からの回復のために、［インポート］をクリックして設定を USB またはネットワークドライブにエクスポートできます。
	設定を復元したり、別のシステムからインポートしたりするには、［インポート］をクリックします。
［国際文字］ペイン	カメラおよびサーバー情報の入力時に国際文字を表示するには、［有効にする］をクリックし、情報を読み、［はい］をクリックします。
	サーバー上でこの操作を無効にすることはできないため、古いバージョンの exacqVision クライアントでは国際文字が不適切に表示されることがあります。
［システム情報］ペイン	システムハードウェアに関する情報を表示します。

表6.[システムの構成] ウィンドウの [システム] タブ

ライセンスのインポート

ライセンスをインポートするには、以下の手順を実行します。

1. **[ライセンス]** 領域で **[インポート]** をクリックします。
2. **[ファイルから]** または **[exacq.com から]** を選択します。
3. **[適用]** をクリックします。

[日付/時刻] タブ

[日付/時刻] タブで、システムのサーバーの日付/時刻設定を編集できます。**[日付/時刻]** タブの詳細については、「**表7.[システムの構成] ウィンドウの [日付/時刻] タブ**」を参照してください。

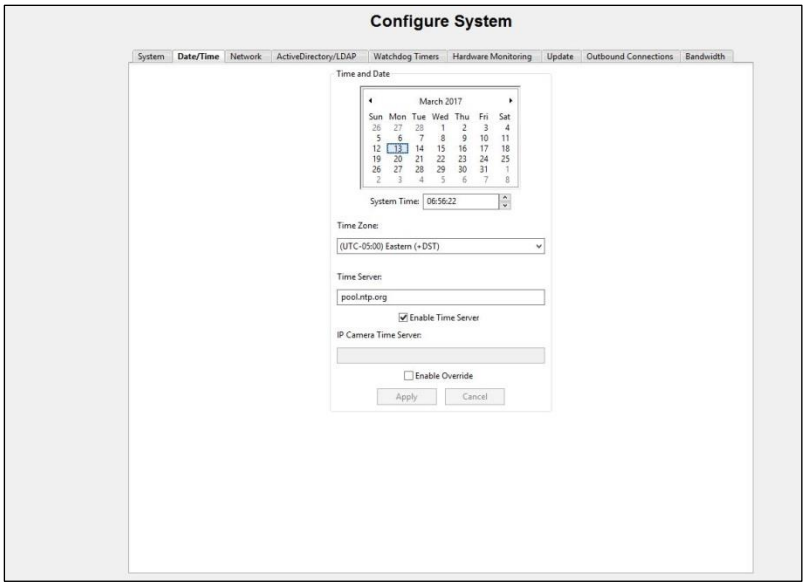


図4.[システムの構成] ウィンドウの [日付/時刻] タブ

インターフェース要素	説明
[時刻と日付] 領域	サーバーの時刻と日付を表示します。
[タイムゾーン] 領域	サーバーのタイムゾーンと夏時間 (DST) を表示します。
[タイムサーバー] 領域	インターネットアクセスを備えたシステムの場合、**[タイムサーバーを有効にする]** を選択し、有効なインターネットタイムサーバーを **[タイムサーバー]** フィールドに入力します。
	インターネットアクセスを備えていないシステムの場合、**[タイムサーバーを有効にする]** を選択し、内部のタイムサーバーを **[タイムサーバー]** フィールドに入力します。
	システムのタイムサーバーの詳細については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
[IP カメラタイムサーバー] 領域	ネットワーク上の IP カメラを exacqVision サーバー以外のタイムサーバーと同期させるには、**[上書きを有効にする]** を選択し、**[IP カメラタイムサーバー]** 領域にサーバーアドレスを入力します。

表7.[システムの構成] ウィンドウの [日付/時刻] タブ

［ネットワーク］タブ

[ネットワーク]タブでは、ネットワーク設定を構成し、帯域幅制限を調整し、IP 再接続時間を設定することができます。**[ネットワーク]**タブの機能の詳細については、「**表8. [システムの構成］ウィンドウの [ネットワーク]タブ**」を参照してください。

> **注記：**ネットワークインターフェースカード（NIC）を備えた Linux システムの場合、サーバーのドメインネームシステム（DNS）はシステム内のすべての NIC で同様になります。1 つの NIC の DNS を変更すると、システム内のすべての NIC の DNS が変更されます。

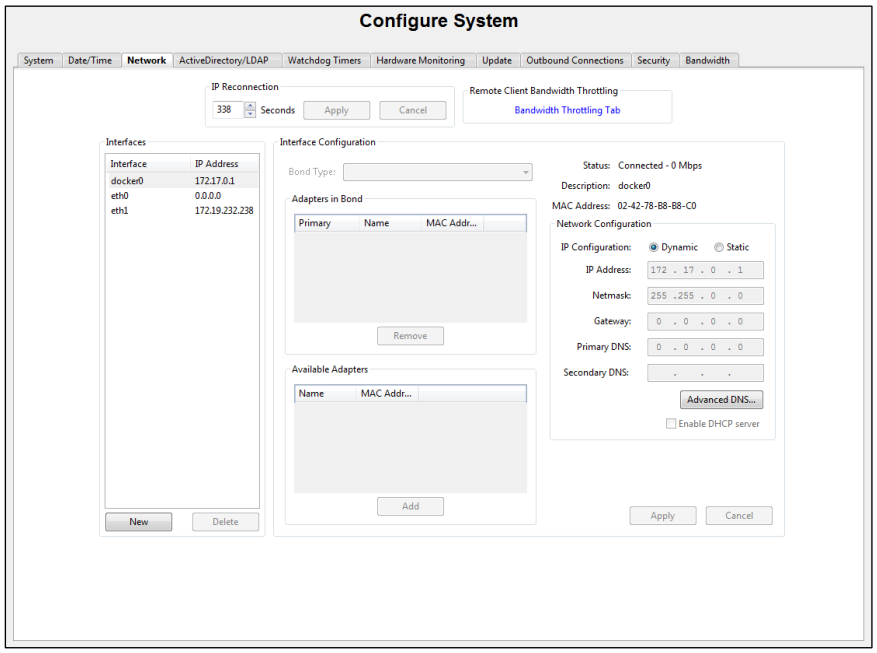


図5.[システムの構成] ウィンドウの [ネットワーク] タブ

インターフェース要素	説明
[インターフェース] ペイン	ネットワークインターフェース接続オプションのリストを表示します。複数の NIC のあるシステムは、リストで 2 つ以上のインターフェースエントリを持ちます。両方のネットワークインターフェースは、カメラを検出したり、カメラの接続に使用したりできます。また、すべてのネットワークトラフィックと目的のために 1 つのインターフェースを使用できます。
	exacqVision クライアント、Web クライアント、および他のカメラ以外のユーザーを企業ネットワークに接続するには、**[管理ポート]** ネットワークを使用します。カメラのみを使用する場合は、**[データポート]** ネットワークを使用してください。
[インターフェース構成] ペイン	ネットワーク上のどこかで実行される DHCP サービスによって exacqVision システムを構成するには、**[ネットワーク構成]** 領域で **[動的]** を選択します。**[動的]** を選択すると、**[IP アドレス]**、**[ネットマスク]**、**[ゲートウェイ]**、および **[プライマリ DNS]** フィールドは自動的に設定されます。
	2 次DNSアドレスを構成するには、**追加DNSアドレスの追加**を参照してください。
	静的 IP によって exacqVision システムを構成するには、**[静的]** を選択します。
	ネットワークタイムサービスを受信するには、ゲートウェイとプライマリ DNS を構成する必要があります。
	2 つ以上のネットワークインターフェースが利用可能である場合、インターフェースを結合することができます。
[DHCP サーバーを有効にする] チェックボックス	任意のネットワークインターフェースの DHCP サービスを起動するには、**[DHCP サーバーを有効にする]** チェックボックスをオンにします。このオプションを選択する前に、他の DHCP サーバーがネットワークセグメント上にないことを確認してください。**[DHCP サーバーを有効にする]** チェックボックスを選択した後、データネットワークインターフェースを使用して、このネットワーク上でカメラを設定できます。
[リモートクライアント帯域幅制限] ペイン	帯域幅制限を調整します。帯域幅制限の詳細については、「[帯域幅] タブ」を参照してください。
	帯域幅制限を調整するには、**[帯域幅制限]** タブをクリックします。
[IP 再接続] ペイン	IP 再接続時間を設定します。IP 再接続は、exacqVision システムが、exacqvision サーバーとの接続を失った IP カメラとの再接続を試行する秒単位の時間です。デフォルト値は 300 秒です。この値を低く設定すると、ネットワーク上でカメラ接続のトラブルシューティングを行う場合に役立ちます。ただし、この値を低く設定すると、ネットワークトラフィックと不要なログエントリが増加します。
	IP 再接続時間を設定するには、**[秒]** リストから目的の秒数を選択し、**[適用]** をクリックします。

表8.[システムの構成] ウィンドウの [ネットワーク] タブ

ネットワーク接続の構成

ネットワーク接続を構成するには、以下の手順を実行します。

1. **[インターフェース]** リストから、ネットワーク接続を選択します。
2. **[ネットワーク構成]** 領域で、ネットワーク構成の種類を選択します。ネットワーク構成の種類の詳細については、「**表8. [システムの構成] ウィンドウの [ネットワーク]タブ**」を参照してください。
3. **[適用]** をクリックします。

追加DNSアドレスの追加

追加のDNSアドレスを追加するには、次の手順を実行します。

1. **[ネットワーク構成]**領域で、**[詳細DNS]**をクリックします。
2. **[詳細DNSの設定]**ウィンドウで、DNSアドレスを入力します。
3. **[追加]** をクリックします。
4. オプション。**[矢印]**アイコンを使ってDNSアドレスに優先順位を付けます。
5. **[OK]** をクリックします。

Una システム

[ネットワーク]タブの**[システムの構成]**ウィンドウに、Una システム用の追加のオプションがあります。これらの追加のオプションの詳細については、「**表9.［ネットワーク］タブの［インターフェース］ペイン**」を参照してください。Una システムの詳細については、*『LC-Series Una Server guide』*および*『M-Series Una Server guide』*を参照してください。

インターフェース要素	説明
［インターフェース］ペイン	IP アドレスのリストを表示します。
	Una システム内の PoE ポートは、独自のイーサネットインターフェースであり、独自の IP アドレスを持ちます。Una システムの PoE ポートの IP アドレスを表示するには、**［個々の PoE アダプターを表示］**チェックボックスを選択します。
	IP 範囲を変更するには、**［インターフェース］**リストから**［すべての PoE アダプター］**を選択します。その後、**［インターフェース構成］**領域で、**［すべてを構成］**フィールドの 3 つの組み込み範囲から選択できます。exacqVision システムは、ローカルエリア接続と競合する可能性のある範囲の値は表示しません。

表9.[ネットワーク]タブの[インターフェース]ペイン

[Active Directory/LDAP] タブ

[Active Directory/LDAP] タブでは、ディレクトリサービス設定を変更できます。[Active Directory/LDAP] タブには exacqVision Enterprise を使用してのみアクセスできます。詳細については、https://www.exacq.com/downloads/LDAP/index.html を参照してください。[Active Directory/LDAP] タブの機能の詳細については、「**表10.［システムの構成］ウィンドウの［Active Directory/LDAP］タブ**」を参照してください。

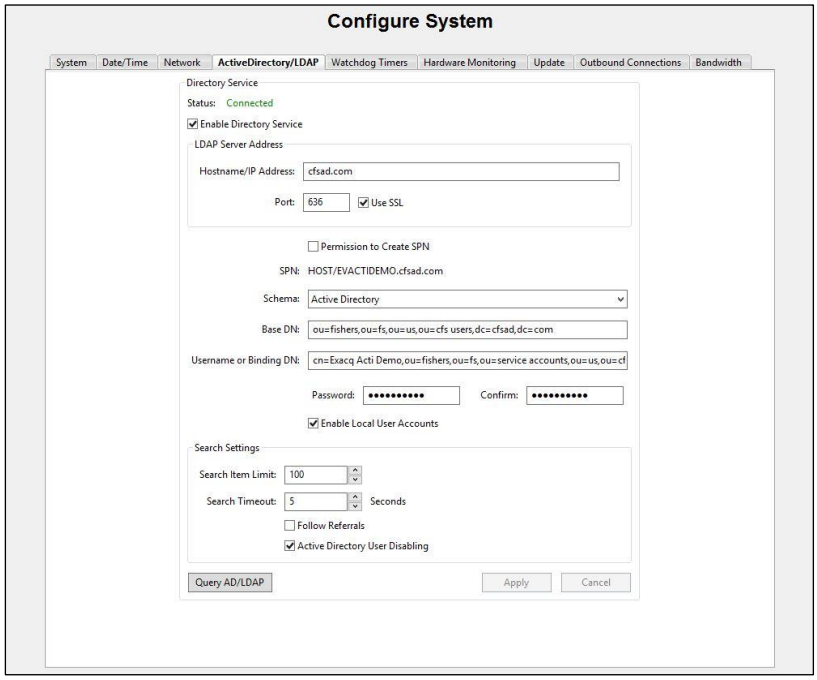


図6.[システムの構成] ウィンドウの [Active Directory/LDAP] タブ

インターフェース要素	説明
［ディレクトリサービスを有効にする］チェックボックス	ディレクトリサービス設定を変更します。
［ポート］フィールド	ポート番号を変更するには、ポート番号を **［ポート］** フィールドに入力します。デフォルトのポート番号は 389 です。
［SSL を使用］チェックボックス	LDAPS（LDAP over Secure Sockets Layer（SSL））を通じてポート 636 を使用するには、**［SSL を使用］** チェックボックスを選択します。
［SPN の作成の許可］チェックボックス	LDAP サーバーによってサービスプリンシパル名（SPN）を作成するには、**［SPN の作成の許可］** チェックボックスを選択します。LDAP サーバーが作成する名前が **［SPN］** フィールドに表示されます。
［ローカルユーザーアカウントを有効にする］チェックボックス	exacqVision サーバーにローカルユーザーアカウントを付与するには、**［ローカルユーザーアカウントを有効にする］** チェックボックスを選択します。
［検索項目の制限］リスト	システムが検索で返すことができる項目の最大数を指定します。
［検索タイムアウト］リスト	サーバーが LDAP 検索からの応答を待機する秒数を選択するには、**［検索タイムアウト］** チェックボックスを選択します。
［照会に従う］チェックボックス	LDAP が照会に対応している場合、**［照会に従う］** チェックボックスを選択して照会に対応できます。
［Active Directory ユーザーの無効化］チェックボックス	バインド DN アカウントでログオンアカウントエラーの発生数が多過ぎると、LDAP サーバーで判断された場合、**［Active Directory ユーザーの無効化］** チェックボックスを選択して、LDAP サーバーのロックアウト機能を有効にします。
［AD/LDAP の照会］ボタン	接続性をテストし、LDAP サーバーを照会します。

表10.[システムの構成] ウィンドウの [Active Directory/LDAP] タブ

ディレクトリサービス設定の変更

ディレクトリサービス設定を変更するには、以下の手順を実行します。

1. [Active Directory/LDAP] タブで、**[ディレクトリサービスを有効にする]** チェックボックスを選択します。
2. LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を **[ホスト名/IP アドレス]** フィールドに入力します。
3. **[スキーマ]** リストから **[LDAP スキーマ]** を選択します。
4. LDAP サーバーのパスワードを **[パスワード]** フィールドに入力し、次に **[確認]** フィールドでパスワードを確認します。
5. **[適用]** をクリックします。

[ウォッチドッグタイマー] タブ

[ウォッチドッグタイマー] タブには、工場出荷時にインストール済みのウォッチドッグタイマーに関する情報が表示されます。ウォッチドッグタイマーは、コンピューターが正常に動作しなくなったときにシステムを再起動したり、カードをキャプチャしたりできます。

注記：[ウォッチドッグタイマー] タブ上の情報は構成できません。

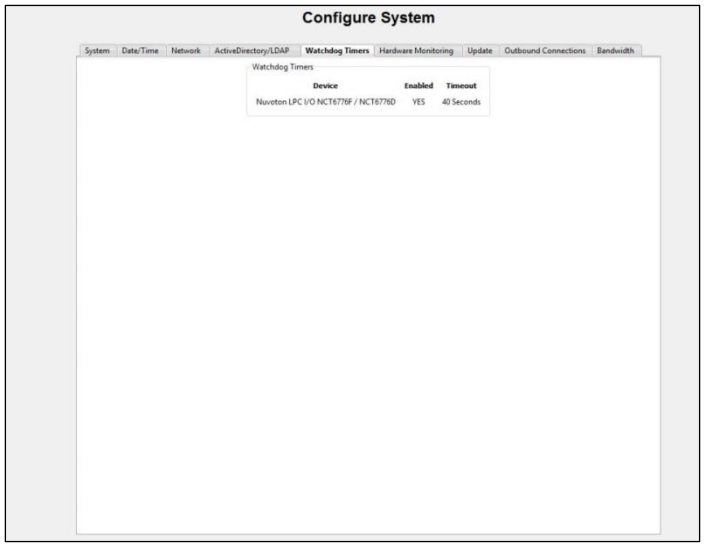


図7.[システムの構成] ウィンドウの [ウォッチドッグタイマー] タブ

[ハードウェア監視] タブ

[ハードウェア監視] タブには、システムの電圧、温度、およびファン速度に関する情報が表示されます。システムが監視しているパラメーターの最小値または最大値に達した場合、**[ステータス]** 領域のメッセージが **[アラーム]** に変わります。

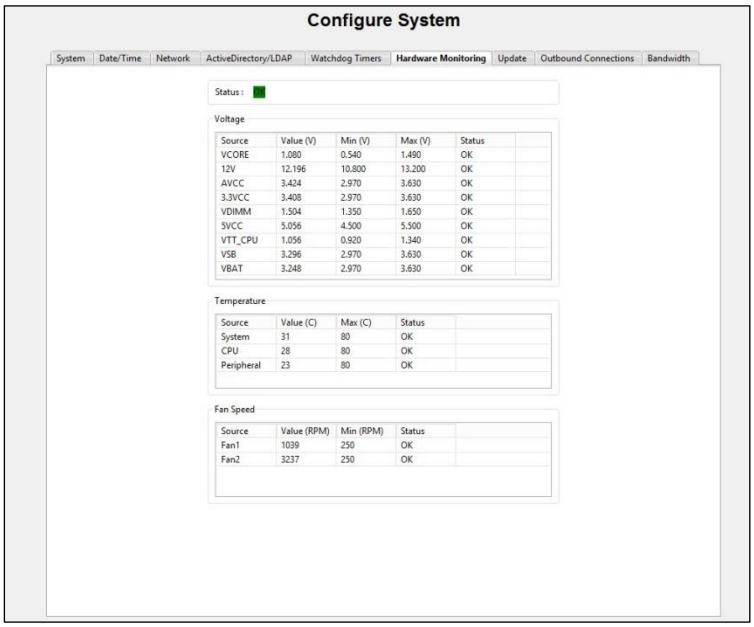


図8.[システムの構成] ウィンドウの [ハードウェア監視] タブ

［更新］タブ

[更新] タブでは、exacqVision サーバーで実行されている現在のソフトウェアバージョンを表示し、exacqVision サーバーソフトウェアをリモートで更新できます。**[更新]** タブの機能の詳細については、「**表11.［システムの構成］ウィンドウの [更新] タブ**」を参照してください。

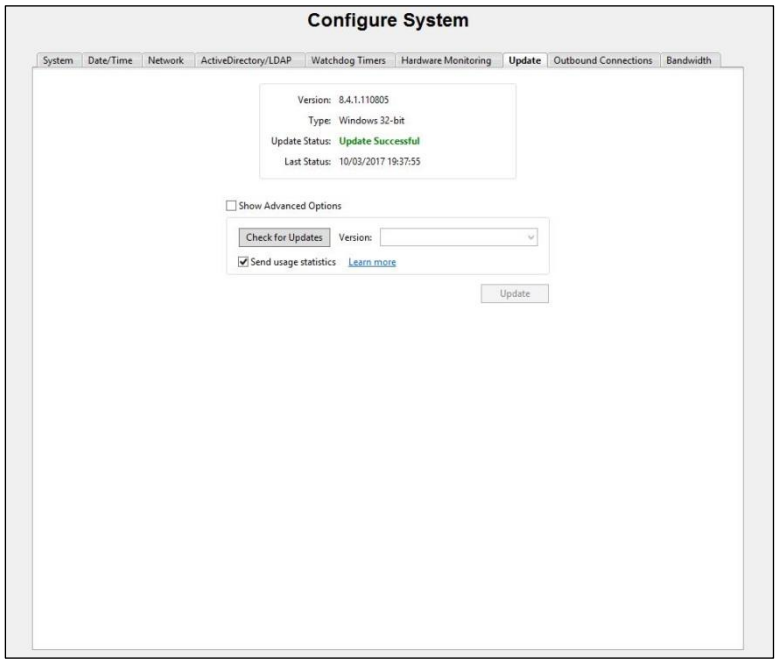


図9.[システムの構成] ウィンドウの [更新] タブ

インターフェース要素	説明
［ソフトウェア情報］ペイン	exacqVision サーバーで実行されている現在のソフトウェアバージョンに関する情報を表示します。
	［更新状態］ 領域では、更新の進行状況とそれが成功したのか、失敗したのかを追跡します。
	［前回の状態］ 領域には、前回の更新に関する情報が表示されます。
［詳細オプションを表示］チェックボックス	**［詳細オプション］** ウィンドウを開きます。
［場所］フィールド	サーバーがインターネット経由で excaqVision サーバーソフトウェアをダウンロードするために使用できる evFileInfo.txt ファイルの場所を見つけるには、**［場所］** フィールドの横にある **［参照］** ボタンをクリックします。
	evFileInfo.txt ファイルには URL 情報が含まれています。これにより、exacqVision クライアントは exacqVision サーバーと通信して、接続し、インターネット経由で exacqVision ソフトウェアをダウンロードします。evFileInfo.txt ファイルを持っている場合、exacqVision クライアントおよびサーバーがインターネットに接続していることを確認してから、ソフトウェアを更新してください。exacqVision インストーラーを他のコンピューター上にダウンロードし、exacqVision システムを手動でコピーすることもできます。
［更新を確認］ボタン	**［バージョン］** リストから利用可能な最新のソフトウェアバージョンを表示します。
［利用状況の統計を送信］チェックボックス	カメラと exacqVision 機能の利用方法に関する匿名の機密でない情報をメーカーに送信します。
［詳細を確認］ハイパーリンク	Web ブラウザーで［プライバシー方針］ページを開きます。

表11.[システムの構成] ウィンドウの [更新] タブ

リモート更新

リモート更新の場合、exacqVision サーバーと exacqVision クライアントの両方でインターネット接続が必要です。サーバーとクライアントがインターネットに接続できない場合、ライセンスファイルをポータブルメディア装置にコピーし、www.exacq.com で **[サポートとダウンロード]** タブの **[オフラインソフトウェア更新パッケージユーティリティ]** を選択してライセンスを更新できます。

exacqVision サーバーソフトウェアのリモートでの更新

サーバー ソフトウェアをリモートで更新するには、以下の手順を実行します。

注記：利用可能な exacqVision サーバーソフトウェアリリースは、システムのライセンスとサブスクリプションの状態によって異なります。

1. **[更新]** タブで、**[更新の確認]** を選択します。
2. **[バージョン]** リストから、ソフトウェアバージョンを選択します。
3. **[更新]** をクリックします。

注記：更新中、exacqVision システムは録画を数分間停止します。更新の完了時に、システムは自動的に録画を開始します。

［発信接続］タブ

[発信接続] タブでは、exacqVision Enterprise System Manager (ESM) や exacqCloud など、システムネットワークの範囲外のサービスに接続できます。

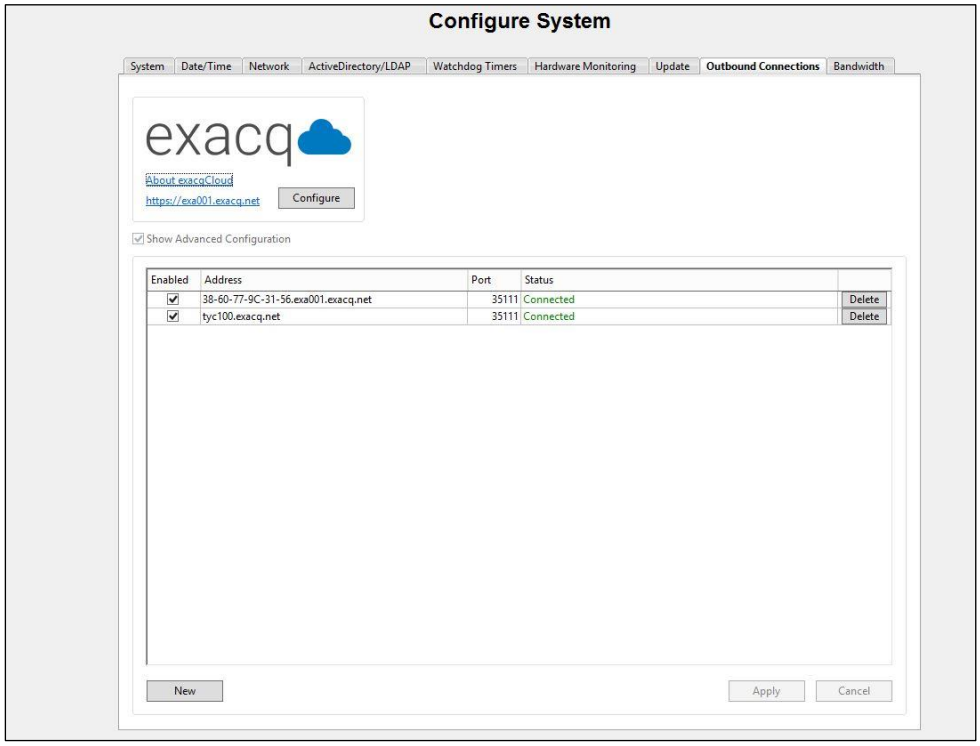


図10.[システムの構成] ウィンドウの [発信接続] タブ

システムのネットワークの範囲外のサービスへの接続

システムのネットワークの範囲外のサービスに接続するには、以下の手順を実行します。

1. **［発信接続］** タブで、**［有効］** チェックボックスを選択します。
2. サービスのアドレスを入力します。

   注記 ドメイン名を **［アドレス］** フィールドに入力した場合、exacqVision サーバーが自動的にシステムのシリアル番号を付加し、そのシステムを識別します。
3. **［適用］** をクリックします。

システム上での複数の接続の構成

システム上で複数の接続を構成するには、以下の手順を実行します。

1. **［発信接続］** タブで、**［詳細構成を表示］** チェックボックスを選択します。
2. **［新規］** をクリックします。
3. アドレスとポート番号を入力します。
4. **［有効］** チェックボックスを選択します。
5. **［適用］** をクリックします。

   注記： この手順を利用して、接続用のポートを構成することもできます。

［帯域幅］タブ

[帯域幅] タブで、帯域幅制限プロファイルを作成できます。帯域幅制限は、exacqVision サーバーとリモートの exacqVision クライアントコンピューターとの間の発信ネットワークスループットを制限します。帯域幅制限プロファイルは、システム内のすべての NIC に適用されます。

> **注記：[帯域幅]** タブは、exacqVision Professional と exacqVision Enterprise でのみ利用できます。exacqVision Enterprise では、複数の帯域幅制限プロファイルを作成できます。

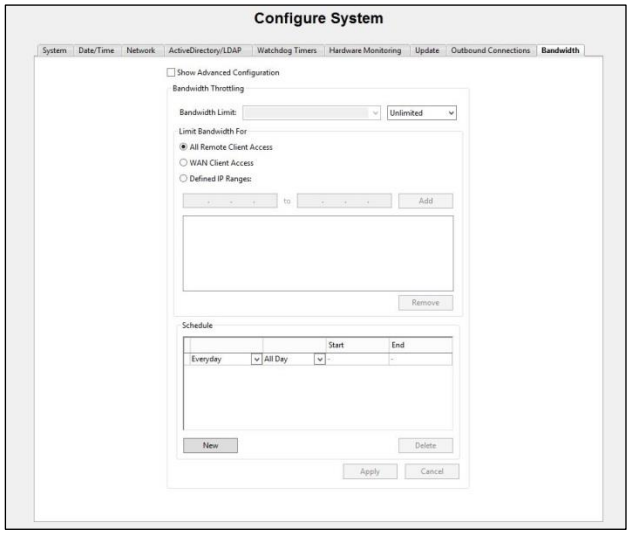


図11.[システムの構成] ウィンドウの [帯域幅] タブ

帯域幅制限プロファイルの作成

帯域幅制限プロファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

1. [**帯域幅**] タブで、[**詳細構成を表示**] チェックボックスを選択します。
2. [**データ転送速度**] リストから、制限するスループットの範囲を選択します。
3. [**帯域幅制限**] リストから、1 ～ 512 までの範囲を選択します。
4. [**名前**] フィールドに、プロファイルの名前を入力します。デフォルト名が作成されます。
5. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - **すべてのリモートクライアントアクセス：**このオプションは、リモートで接続するクライアントの帯域幅を制限します。
   - **WAN クライアントアクセス：**このオプションは、exacqVision サーバーと同じサブネット上にないすべての WAN クライアントの帯域幅を制限します。
   - **定義済みの IP 範囲：**このオプションは、帯域幅を特定の IP 範囲に制限します。**[定義済みの IP 範囲]** を選択した場合、IP 範囲を入力し、**[追加]** をクリックします。
6. [**スケジュール**] 領域で、曜日を選択します。
7. [**間**] または [**前日**] を選択してから、開始および終了時間を選択します。
8. [**適用**] をクリックします。

   注記：複数の帯域幅プロファイルを作成する場合、IP 範囲または時間が重複しないようにしてください。サーバーは常に、[**IP 範囲**] または時間リストの最初のエントリを実行します。

［セキュリティ］タブ

[セキュリティ]タブでは、セキュリティ設定をユーザーアカウントに適用したり、ユーザーのアクセススケジュールを作成または変更したり、セカンドレビューアー機能を構成したりできます。セカンドレビューアー機能は、一部のライブビデオを表示したり、一部の録画されたビデオを検索したりするために必要です。

> **注記：**セカンドレビューアー機能は、デフォルトで非表示になっており、使用するには特定の構成ファイルが必要になります。このファイルを入手するには、以下のリンクを利用して exacq サポートに連絡してください。https://exacq.com/support/form/

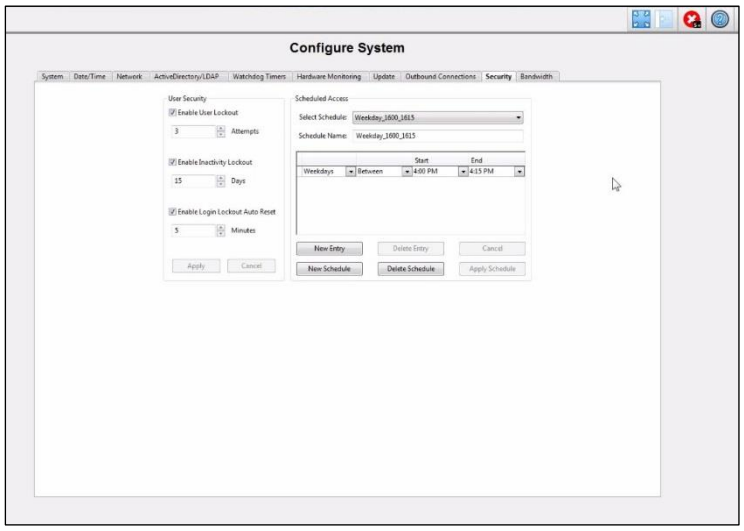


図12.[システムの構成]ウィンドウの[セキュリティ]タブ

ユーザーロックアウト試行回数制限の設定

ユーザーロックアウト試行回数制限を設定するには、以下の手順を実行します。

1. [ユーザーセキュリティ]ペインで、**[ユーザーロックアウト]**領域の**[有効にする]**チェックボックスを選択します。
2. **[試行回数]**フィールドに、ユーザーがシステムからロックアウトされるまでに与えられる、パスワードの入力試行回数を入力します。
3. **[適用]**をクリックします。

ユーザーロックアウトリセット時間の設定

ユーザーロックアウトリセット時間を設定するには、以下の手順を実行します。

1. [ユーザーセキュリティ]ペインで、**[ログインロックアウト自動リセットを有効にする]**チェックボックスを選択します。
2. **[分]**フィールドから、リセットされるまでに、ユーザーをシステムからロックアウトする時間を選択します。
3. **[適用]**をクリックします。

非アクティブロックアウト時間の設定

非アクティブロックアウト時間を設定するには、以下の手順を実行します。

1. [ユーザーセキュリティ]ペインで、**[非アクティブロックアウトを有効にする]** チェックボックスを選択します。
2. **[日数]** フィールドに、ユーザーがシステムからロックアウトされるまでにシステム上で非アクティブな状態でいられる日数を入力します。
3. **[適用]** をクリックします。

アクセススケジュール

[システムの構成] ウィンドウの **[セキュリティ]** タブで、1 人以上のユーザーに適用できるアクセススケジュールを作成したり、変更したりできます。

新しいアクセススケジュールの作成

アクセススケジュールを作成するには、以下の手順を実行します。

1. [アクセスのスケジュール]ペインで、**[＋]** アイコンをクリックします。
2. **[スケジュール名]** フィールドに、スケジュールの名前を入力します。
3. 日数を選択し、ユーザーにアクセス権を与える期間の開始および終了時間を選択します。
4. **[適用]** をクリックします。

アクセススケジュールの変更

アクセススケジュールを変更するには、以下の手順を実行します。

1. [アクセスのスケジュール]ペインで、**[スケジュールの選択]** リストから変更するスケジュールを選択します。
2. 日数を選択し、ユーザーにアクセス権を与える期間の開始および終了時間を選択します。
3. **[適用]** をクリックします。

セカンドレビューアー機能の構成

セカンドレビューアー機能を構成するには、以下の手順を実行します。

注記：セカンドレビューアー機能は、exacqVision Web サービスに対応していません。

1. [設定] ペインの **[システム]** タブで、**[インポート]** をクリックします。
2. **[セキュリティ]** タブで、**[有効にする]** チェックボックスを選択します。
3. **[必要]** 領域で、セカンドレビューアー機能を必要とする機能を選択します。
4. **[1 つ目のパスワード]** フィールドには、最初のユーザーがパスワードを入力し、**[確認]** フィールドにそのパスワードを再び入力します。
5. **[2 つ目のパスワード]** フィールドには、2 人目のユーザーがパスワードを入力し、**[確認]** フィールドにそのパスワードを再び入力します。
6. **[適用]** をクリックします。exacqVision クライアントは、セカンドレビューアー機能を必要とする作業をユーザーが実行する場合、両方のパスワードを要求します。

   注記：セカンドレビューアー機能を構成すると、アーカイブ、自動エクスポートジョブ、および電子メール通知添付ファイル機能は無効になります。

[IP カメラの追加] ウィンドウ

[IP カメラの追加] ウィンドウを使用して、IP カメラと装置をシステムに追加したり、システムから削除したりできます。**[IP カメラの追加]** ウィンドウを開く方法の詳細については、「**[IP カメラの追加]**」を参照してください。

[IP カメラの追加] ウィンドウの表示

[IP カメラの追加] ウィンドウを開くには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの **[構成（セットアップ）ウィンドウ]** アイコンをクリックします。
2. ナビゲーションツリーから目的のサーバーを展開します。
3. **[システムの構成]** ノードを展開し、**[IP カメラの追加]** を選択します。

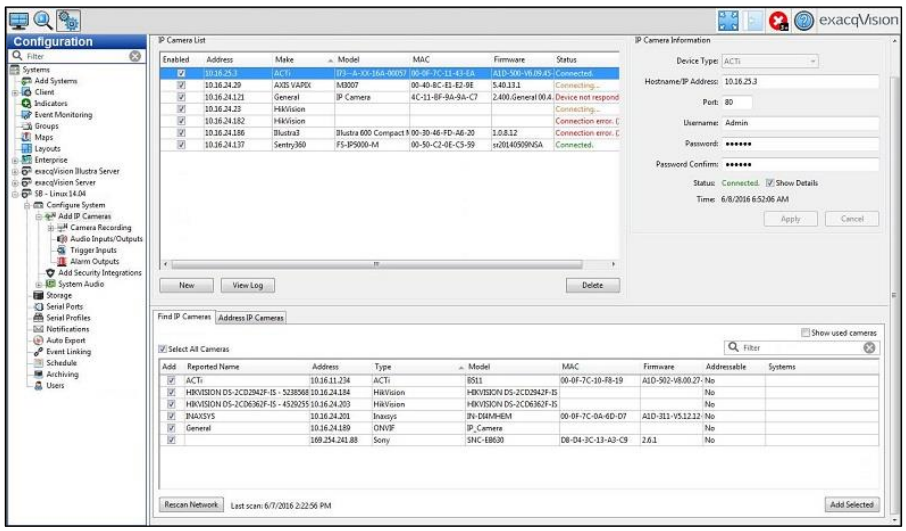


図13.[IP カメラの追加] ウィンドウ

[IP カメラリスト] ペイン

表12では、**[IP カメラの追加]** ウィンドウの **[IP カメラリスト]** ペインの機能に関する情報を確認できます。

インターフェース要素	説明
[有効] 列	カメラがアクティブであるかどうかを定義します。有効にできるカメラの数は、ライセンスの制限によって決まります。
[プロトコル] 列	https 接続を利用してカメラを接続できるかどうかを定義します。緑色のロックが表示されている場合、そのカメラは https を利用して接続できます。
[アドレス] 列	カメラの IP アドレスを表示します。
[メーカー] 列	カメラのブランドを表示します。
[モデル] 列	カメラのモデル番号を表示します。
[MAC] 列	カメラの MAC アドレスを表示します。
[ファームウェア] 列	カメラが使用するファームウェアのバージョンを表示します。
[状態] 列	カメラの接続状態を表示します。
	接続の数と必要な接続の数を表示するには、カメラの状態の上にカーソルを置きます。
[ログの表示] ボタン	直前 10 分間のシステムログメッセージを表示します。ログメッセージを表示するには、カメラを選択し、**[ログの表示]** をクリックします。
[削除] ボタン	カメラをサーバーから削除するには、カメラを選択し、**[削除]** をクリックします。

表12.[IP カメラリスト] ペイン

カメラの手動追加

カメラを手動で追加するには、以下の手順を実行します。

1. **[IP カメラの追加]** ウィンドウで、**[新規]** をクリックします。
2. [IP カメラ情報] ペインで、**[機器タイプ]** リストから機器を選択します。
3. カメラの IP アドレスを **[ホスト名/IP アドレス]** フィールドに入力します。
4. **[ユーザー名]** フィールドに、ユーザー名を入力します。
5. **[パスワード]** フィールドに、パスワードを入力します。パスワードを確認するために、**[パスワードの確認]** フィールドにそのパスワードを再び入力します。
6. カメラに接続し、カメラの構成を保存するために、**[適用]** をクリックします。

[IP カメラ情報] ペイン

[IP カメラ情報] ペインを使用して、カメラを **[IP カメラ]** リストに手動で追加したり、カメラにオンラインでアクセスしたり、カメラの接続状態とその接続時間を表示したりできます。詳細については、「**表13. [IP カメラ情報] ペイン**」を参照してください。

インターフェース要素	説明
[機器タイプ] フィールド	機器のドライバータイプを定義します。
	最適な性能を得るために、メーカー固有のドライバーを選択してください。メーカーのドライバーが入手できない場合、機器が ONIF 準拠であるときは、**ONVIF** を選択します。
	RTSP 準拠のカメラはビデオしかストリーミングできません。これらのカメラは、動作検知またはカメラ構成データはストリーミングできません。
[プロトコル] リスト	カメラ接続のリストを表示します。デフォルトオプションは **[HTTPS (利用可能な場合)]** です。**[プロトコル]** リストは、**[機器タイプ]** から https 接続をサポートするカメラを選択した場合にのみ利用可能になります。
[状態] 領域	カメラの接続状態とトラブルシューティング情報を表示します。
[詳細の表示] チェックボックス	[IP カメラ情報] ペインに接続状態の短い説明を表示します。
[状態の時間] 領域	前回受信された接続状態の時間を表示します。
[カメラ Web サイト] 領域	Web ブラウザー内でカメラの IP アドレスを開くリンクを表示します。カメラをオンラインで開くには、そのカメラが exacqVision クライアントと同じネットワークサブネット上に存在している必要があります。

表13.[IP カメラ情報] ペイン

[IP カメラの検索] タブ

[IP カメラの検索] タブは、サポートされている IP カメラを exacqVision サーバーネットワーク上で検索します。IP カメラが **[IP カメラの検索]** タブに表示されない場合、カメラに直接接続するか、またはメーカーの検出ツールを使用して、その構成を確認してください。カメラの構成の確認方法の詳細については、*『ExacqVision IP Camera Quickstart Guide』* を参照してください。

検索によるカメラの追加

カメラを **[IP カメラ]** リストに追加するには、以下の手順を実行します。

1. **[IP カメラの検索]** タブで、追加するカメラを選択します。

   注記IP カメラを変更する場合に、カメラが **[IP カメラの検索]** タブに表示されていないときは、**[ネットワークの再スキャン]** をクリックします。

2. **[選択した項目を削除]** をクリックします。
3. ユーザー名とパスワードを入力します。
4. **[OK]** をクリックします。

[IP カメラのアドレス指定] タブ

[IP カメラのアドレス指定] タブでは、カメラの IP アドレスを変更できます。**[IP カメラのアドレス指定]** タブは、この機能をサポートするカメラプラグイン、または同じ IP アドレスを持つ複数のカメラがある場合にのみ利用可能になります。www.exacq.com では、この機能をサポートするカメラプラグインは **[EasyConnect]** を表示します。**[IP カメラのアドレス指定]** タブの機能の詳細については、**表14.［IP カメラのアドレス指定］タブの［ネットワークインターフェース］ペイン**、**表15.［IP カメラのアドレス指定］タブの［カメラ構成］ペイン**、および **表16.［IP カメラのアドレス指定］タブの［カメラ］ペイン**を参照してください。

インターフェース要素	説明
［ネットワークインターフェースカード］リスト	NIC を選択するには、［ネットワークインターフェース］ペインの上部にある **［ネットワークインターフェースカード］** リストを使用します。
［構成］リンク	NIC 構成を表示または変更するには、**［構成］** をクリックします。

表14.[IP カメラのアドレス指定] タブの [ネットワークインターフェース] ペイン

インターフェース要素	説明
［IP 構成］領域	変更しない IP アドレスを機器に割り当てるには、**［静的］** を選択します。
	変更できる IP アドレスを機器に割り当てるには、**［動的］** を選択します。
［使用されているアドレス］領域	**［IP カメラ］** リストで選択しているカメラの数を表示します。利用可能なアドレスの数は、IP アドレスとネットマスクによって決まります。アドレスが他の機器によりすでに利用されている場合、それらのアドレスは **［省略］** として表示されます。カメラの数は、アドレスの数よりも多くすることはできません。
	［使用されているアドレス］ 領域を表示するには、**［IP 構成］** 領域で **［静的］** を選択します。
［グリッドに適用］ボタン	**［IP 構成および使用されているアドレス］** 領域の設定を **［IP カメラのアドレス指定］** タブ内のカメラに適用します。

表15.[IP カメラのアドレス指定] タブの [カメラ構成] ペイン

インターフェース要素	説明
［割り当て済みアドレス］列	**［カメラ構成］** 領域で IP 構成タイプを選択すると、新しい IP アドレスが表示されます。
［状態］列	IP アドレスの変更の進行状況を表示します。
［再スキャン時間］領域	自動再スキャンが発生する時間を表示します。

表16.[IP カメラのアドレス指定] タブの [カメラ] ペイン

［カメライインポート］タブ

[カメライインポート] タブで、カメラを exacqVision サーバーにインポートできます。**[カメライインポート]** タブの機能の詳細については、表17 を参照してください。

インターフェース要素	説明
[CSV にヘッダーを含む] チェックボックス	インポートするデータにヘッダー行がある場合、**[CSV にヘッダーを含む]** チェックボックスを選択します。
[デフォルト機器タイプの設定] リスト	**[デフォルト機器タイプの設定]** リストを使用して、お使いのファイル内の各行の機器タイプを手動で選択できます。

表17.[IP カメラの追加] ウィンドウの [カメライインポート] タブ

exacqVision サーバーへのカメラのインポート

カメラを exacqVision サーバーにインポートするには、以下の手順を実行します。

1. **[IP カメラの追加]** ウィンドウで、**[カメライインポート]** タブを選択します。
2. オプション。CSV ファイル内のデータにヘッダー行がある場合、**[CSV にヘッダーを含む]** チェックボックスを選択します。
3. **[インポート]** をクリックします。
4. インポートするデータファイルを選択します。
5. **[機器タイプ]** リストから、機器を選択します。
6. **[選択した項目を削除]** をクリックします。

   注記：[カメライインポート] タブ内の列を自動的に追加しない場合、列ヘッダーを手動で入力できます。

カメラの IP アドレスの変更

カメラの IP アドレスを変更するには、以下の手順を実行します。

1. **[IP カメラ]** リストから、カメラを選択します。
2. **[カメラ構成]** 領域で、構成の種類を選択します。IP 構成の種類の詳細については、「**表15.［IP カメラのアドレス指定］タブの［カメラ構成］ペイン**」を参照してください。

   注記：[静的] を選択した場合、**[IP アドレス範囲]** フィールドを変更します。
3. **[グリッドに適用]** をクリックします。
4. **[適用]** をクリックします。

   注記：1 台のカメラの IP アドレスを変更すると、新しい IP アドレスを **［IP カメラ］** リストに追加するように求められます。2 つ以上の IP アドレスを変更すると、ビデオの録画用の **［スケジュール］ ウィンドウ**を開くように促されます。

［カメラ録画］ウィンドウ

[カメラ録画] ウィンドウでは、ビデオを録画するようにIPカメラを構成し、カメラの録画設定を構成することができます。

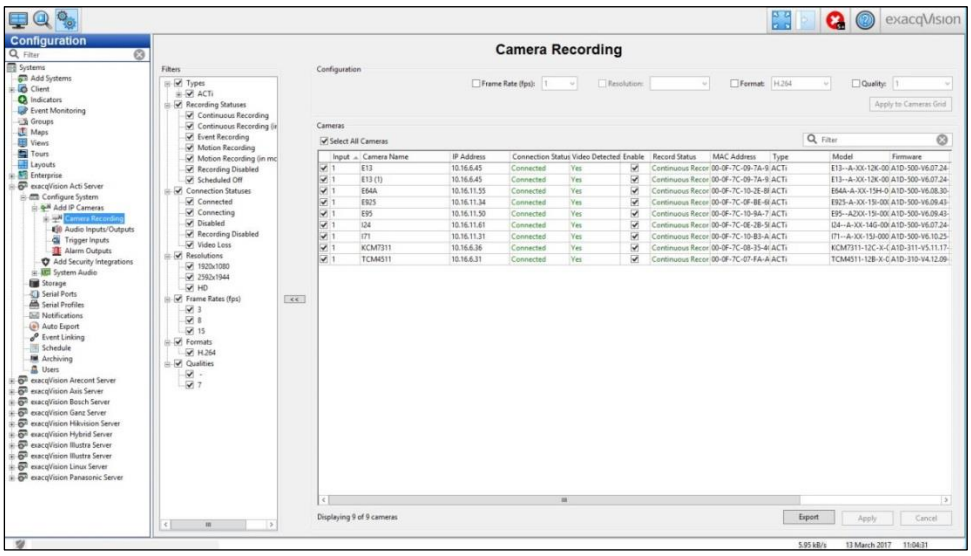


図14.**[カメラ録画]** ウィンドウ

[カメラの録画] ウィンドウの **[フィルター]** ペインには、サーバー内のカメラの分類されたリストが表示されます。これにより、**[カメラ]** ペインに表示されるカメラが決まります。**[カメラ]** ペインの機能の詳細については、「**表18. ［カメラ］ペイン**」を参照してください。

インターフェース要素	説明
［フィルター］フィールド	**［カメラ］** リストを検索するには、関連する情報を **［フィルター］** フィールドに入力します。いずれかの情報が **［カメラ］** リストの情報と一致した場合、一致した情報と共にカメラの入力内容が表示されます。
［カメラ］リスト	［フィルター］ペインで選択したすべてのカメラを表示します。
	列を表示したり非表示にしたりするには、列を右クリックし、列名を選択します。**［カメラ名］** 列と **［録画設定］** 列は非表示にはできません。
	［有効］ 列によって、録画するようにカメラが設定されるかどうかが決まります。デフォルトで、システムは信号を検出すると、録画するようにカメラを設定します。カメラの録画を無効にするには、カメラのチェックボックスをオフにします。
	https 接続を使用してカメラをシステムに接続できる場合、**緑色のロック** のアイコンが **［プロトコル］** 列に表示されます。
［エクスポート］ボタン	**［カメラ］** リストの csv ファイルをエクスポートします。

表18.**[カメラ]ペイン**

複数のカメラへの構成設定の適用

構成設定を複数のカメラに適用するには、以下の手順を実行します。

1. **[カメラ]** リストの左側で、目的のカメラのチェックボックスを選択します。
2. [構成] ペインで、カメラに適用する構成設定の横にあるチェックボックスを選択します。

   注記： 設定のリストが灰色になっている場合、その設定は、選択したすべてのカメラに対して利用できません。
3. **[構成設定]** リストからパラメーターを選択します。

   注記： リストのオプションは、カメラのモデルとメーカーによって異なります。リストが表示されない場合、1 つ以上のカメラが設定をサポートしていません。
4. **[カメラグリッドに適用]** をクリックします。

アナログカメラ録画

アナログの **[カメラ録画]** ウィンドウでは、録画設定を構成し、ビデオを録画するようにアナログカメラを構成できます。

インターフェース要素	説明
[フィルター] フィールド	**[カメラ]** リストを検索するには、関連する情報を **[フィルター]** フィールドに入力します。いずれかの情報が **[カメラ]** リストの情報と一致した場合、一致した情報と共にカメラの入力内容が表示されます。
[カメラ] リスト	[フィルター] ペインで選択したすべてのカメラを表示します。
	列を表示したり非表示にしたりするには、列を右クリックし、列名を選択します。**[カメラ名]**、**[フレームレート]**、**[解像度]**、**[形式]**、および **[品質]** 列は非表示にできません。
	[有効] 列によって、録画するようにカメラが設定されるかどうかが決まります。デフォルトで、カメラが信号を検出すると、カメラの録画が有効になります。カメラの録画を無効にするには、カメラのチェックボックスをオフにします。
エクスポート	**[カメラ]** リストの csv ファイルをエクスポートします。

表19.アナログの [カメラ録画] ウィンドウの [カメラ] ペイン

複数のカメラへの録画設定の適用

録画設定を複数のカメラに適用するには、以下の手順を実行します。

1. **[カメラ]** リストの左側で、目的のカメラのチェックボックスを選択します。
2. [構成] ペインで、カメラに適用する録画設定の横にあるチェックボックスを選択します。

   注記： 設定のリストが灰色になっている場合、その設定は、選択したすべてのカメラに対して利用できません。
3. リストからパラメーターを選択します。

   注記： リストのオプションは、カメラのモデルとメーカーによって異なります。リストが表示されない場合、1 つ以上のカメラが設定をサポートしていません。
4. **[カメラグリッドに適用]** をクリックします。

［カメラ設定］ウィンドウ

[カメラ設定] ウィンドウでは、カメラに関する情報を表示したり、カメラ名、オンスクリーン表示、パンチルトズーム (PTZ) 設定、録画品質、モーションおよびビデオマスクなどのカメラ設定を構成したりできます。

> **注記：[カメラ設定]** ウィンドウのすべてのタブと設定が、すべてのカメラに利用できるわけではありません。カメラの Web ページ上の exacqVision ソフトウェアでは利用できない一部の IP カメラ設定にアクセスできます。**[IP アドレス]** フィールド内のハイパーリンクをクリックして、カメラの Web ページにアクセスできます。

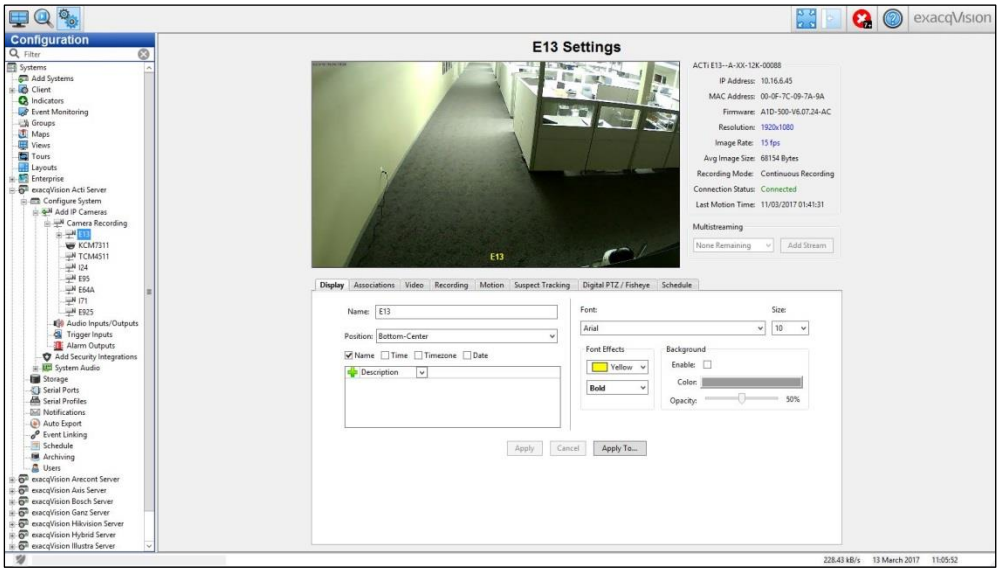


図15.[カメラ設定] ウィンドウ

マルチストリーミング

マルチストリーミング機能を使用して、単一のカメラ視野から複数のユーザーへ、さまざまな設定によりまたはさまざまな地域から、複数のビデオをストリーミングすることができます。たとえば、リモートユーザーに対するビデオ品質を制限すると同時に、ローカルユーザーに対しては同じビデオを高品質で表示することができます。各カメラには、追加できるストリームの数にさまざまな制限があります。ストリーミングする各ビデオには、録画スケジュール、アーカイブ、およびイベントトリガーに関するカスタム設定を適用できます。**[カメラ設定]** ウィンドウの **[マルチストリーミング]** ペインの機能の詳細については、「**表20. [カメラ設定］ウィンドウの［マルチストリーミング］ペイン**」を参照してください。

注記： マルチストリーミング機能は、exacqVision Start では利用できません。この機能は、マルチストリーミングをサポートするカメラモデルでのみ利用できます。

インターフェース要素	説明
［マルチストリーミング］リスト	利用可能な次のコンテキストストリーム番号を表示します。
	カメラ上ですべてのストリームを表示するには、ナビゲーションツリー内でカメラを展開します。**［ライブ］** ウィンドウでは、特定の関心領域のあるストリームをナビゲーションツリー内で別のカメラとして一覧表示します。さまざまな設定によるストリームを持つカメラは、ナビゲーションツリー内の黄色の星で識別されます。さまざまな設定によるストリームは、ナビゲーションツリー内で子として表示されます。
	ストリームを削除するには、［マルチストリーミング］領域で **［ストリームの削除］** をクリックします。
［ストリームの追加］ボタン	新しいコンテキストストリームに名前を付けるには、品質設定を調整し、関心領域を作成してから、**［ストリームの追加］** をクリックします。

表20.[カメラ設定] ウィンドウの [マルチストリーミング] ペイン

［カメラ設定］タブ

[カメラ設定] ウィンドウで利用可能なタブと、各タブで利用可能なオプションは、カメラのモデルとメーカーによって異なります。本システムではすべての IP カメラ設定を表示するわけではありません。カメラの Web ページを通じて利用できない設定にアクセスできます。

［表示］タブ

[表示] タブで、カメラの表示設定を編集できます。カメラの表示設定を編集する方法の詳細については、<ref>を参照してください。 **表21.［カメラ設定］ウィンドウの [表示]タブ**

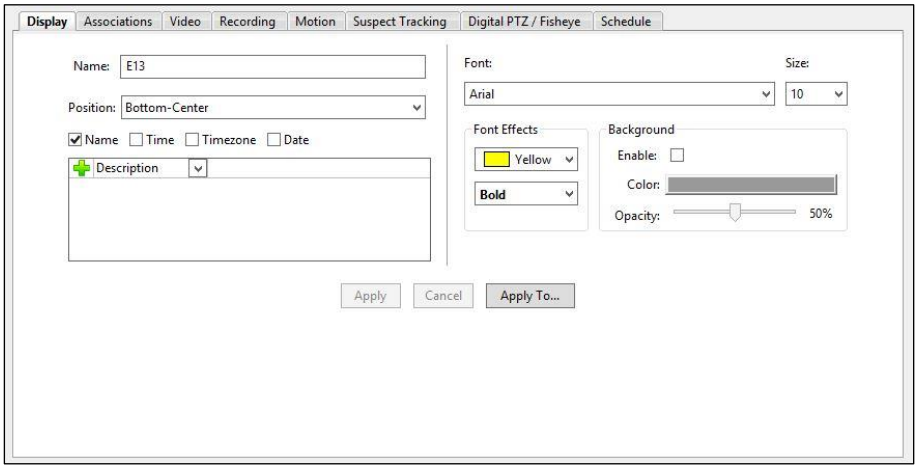


図16.[カメラ設定] ウィンドウの [表示] タブ

インターフェース要素	説明
［名前］フィールド	カメラの名前を入力します。
［位置］領域	オンスクリーン表示（OSD）の位置と OSD に含める情報を決定します。さらに、カメラ検索を絞り込むために、メタデータフィールドを作成し、編集することができます。カメラ検索を絞り込むためにメタデータフィールドを追加するには、［＋］アイコンをクリックし、対応するフィールドに情報を入力します。
［フォント］領域	OSD フォントテーマを変更するには、**［テーマ］**リストからスタイルを選択します。
	OSD フォントサイズを変更するには、**［サイズ］**リストからサイズを選択します。
［フォント効果］領域	OSD を変更するには、**［色］**リストからフォントの色を選択します。
	OSD フォントスタイルを変更するには、**［サイズ］**リストからスタイルを選択します。
［背景］領域	ビデオパネル内に表示するカメラ名の背景を編集します。
	カメラの背景の色を調整するには、**［有効にする］**チェックボックスを選択し、**［色］**リストと **［不透明度］**スライダーを使用します。
［適用先］ボタン	複数のカメラに表示設定を適用します。

表21.[カメラ設定] ウィンドウの [表示] タブ

［ビデオ］タブ

[ビデオ]タブで、カメラのビデオ設定を編集できます。カメラのビデオ設定を編集する方法の詳細については、「**表22.［カメラ設定］ウィンドウの [ビデオ]タブ**」を参照してください。

> **注記：[ビデオ]**タブは、RTSP（Real Time Streaming Protocol：リアルタイムストリーミングプロトコル）インターフェース、一部の ONVIF（Open Network Video Interface Forum：オープンネットワークビデオインターフェースフォーラム）、および専用インターフェースでは利用できません。

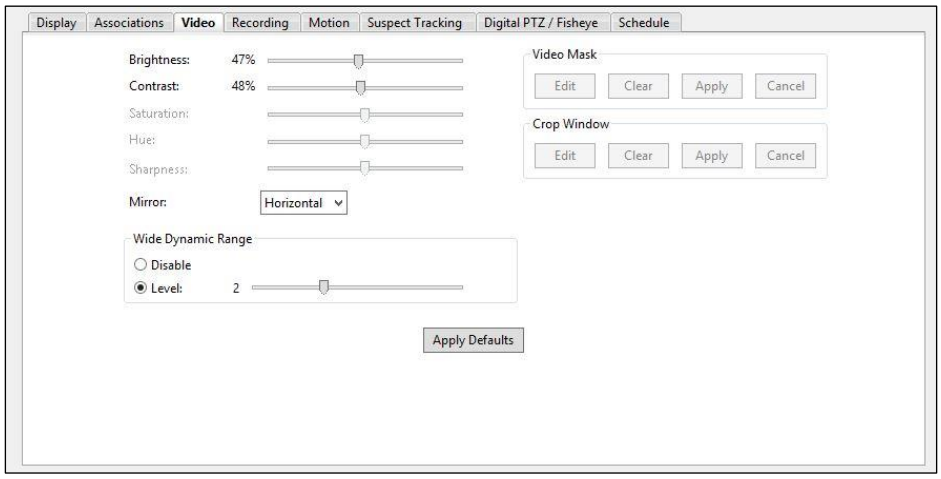


図17.[カメラ設定]ウィンドウの[ビデオ]タブ

インターフェース要素	説明
［輝度］スライダー	ビデオ OSD の輝度を調整します。
［コントラスト］スライダー	ビデオ OSD のコントラストを調整します。
［彩度］スライダー	ビデオ OSD の灰色の量を調整します。
［色合い］スライダー	ビデオ OSD の色のグラデーションを調整します。
［鮮明度］スライダー	ビデオ OSD の品質を調整します。
［回転］リストと［ミラー］リスト	カメラのビデオの向きを変更します。
	カメラの向きを回転させるには、**［回転］**リストから度数を選択します。
	カメラのビデオを水平または垂直に配置するには、**［ミラー］**リストを使用します。
［ワイドダイナミックレンジ］領域	カメラの環境によって生じるビデオの輝度と薄暗さを調整します。
	ダイナミックレンジを調整するには、**［レベル］**を選択し、**［ワイドダイナミックレンジ］**スライダーを動かします。
［振動数］リスト	カメラが置かれている場所の近くで用いられている照明と電子画面の振動数に合わせることにより、OSD のちらつきを減らします。
［ビデオマスク］領域	録画したくないビデオ表示の領域を遮断します。詳細については、「**モーションマスクとビデオマスク**」を参照してください。
［トリミングウィンドウ］領域	カメラ画像の一部をトリミングし、ディスク領域に保存します。この機能は、一部のカメラでのみ使用可能です。
［オートフォーカス］ボタン	カメラ視野の明瞭さを調整します。

表22.[カメラ設定]ウィンドウの[ビデオ]タブ

カメラ画像のトリミング

カメラ画像をトリミングするには、以下の手順を実行します。

1. **[トリミングウィンドウ]** 領域で、**[編集]** をクリックします。
2. ビデオパネルを左クリックし、トリミングする領域の周りにボックスが描かれるまで、カーソルを対角線上にドラッグします。
3. **[適用]** をクリックします。

モーションマスクとビデオマスク

モーションマスク、またはモーションウィンドウは、カメラの視野の指定された領域内で発生したモーションイベントを無視することにより、不要なビデオ録画を減らします。モーションマスクにより、ストレージ領域を保存したり、録画時間を伸ばしたり、**[検索]** ウィンドウ内のビデオタイムラインでモーションイベントを認識しやすくしたりできます。たとえば、カメラの視野にシーリングファンがある場合に、モーションマスクを使用して、ファンの動きの録画を避けることができます。ビデオマスクは、カメラの視野にある領域を見えなくしたり、録画されないようにしたりするために隠します。モーションマスクまたはビデオマスクを作成するには、「**モーションマスクの作成**」および「**ビデオマスクの作成**」を参照してください。

モーションマスクの作成

モーションマスクを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[ビデオ]** タブで、**[モーションマスク]** 領域の **[編集]** をクリックします。青色のグリッドがライブビデオパネルにわたって表示されます。
2. ビデオパネルを左クリックし、モーションマスクを適用する領域の周りにボックスが描かれるまで、カーソルを対角線上にドラッグします。
3. **[適用]** をクリックします。

ビデオマスクの作成

ビデオマスクを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[ビデオ]** タブで、**[ビデオマスク]** 領域の **[編集]** をクリックします。黄色のグリッドがライブビデオパネルにわたって表示されます。
2. ビデオパネルを左クリックし、モーションマスクを適用する領域の周りにボックスが描かれるまで、カーソルを対角線上にドラッグします。
3. **[適用]** をクリックします。

[録画] タブ

[録画] タブで、カメラの録画設定を編集できます。**[録画]** タブでカメラの録画設定を編集する方法の詳細については、「**表23. [カメラ設定] ウィンドウの [録画]タブ**」を参照してください。

> **注記：[録画]** タブは、RTSP インターフェースと一部の ONVIF および専用インターフェース上では使用できません。

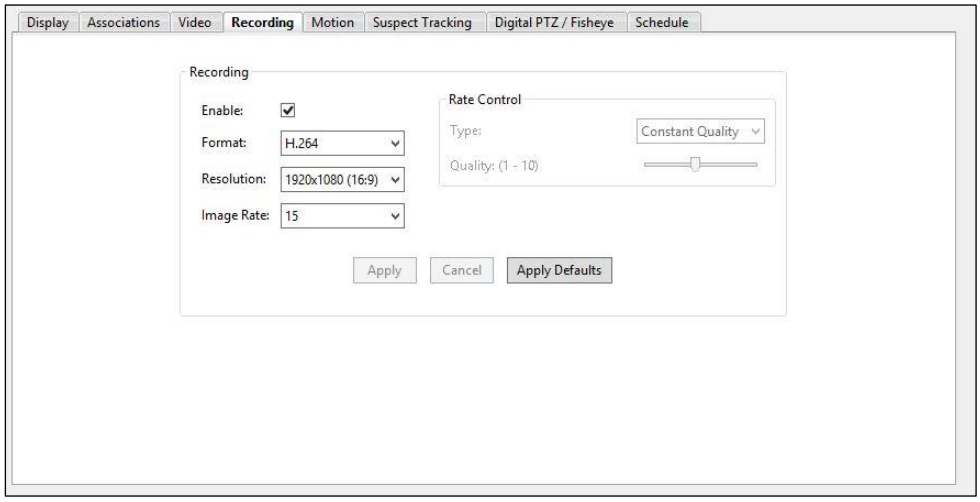


図18.[カメラ設定] ウィンドウの [録画] タブ

インターフェース要素	説明
[有効にする] チェックボックス	[スケジュール] タブで指定した時間にカメラからビデオを録画します。
[品質] スライダー	画像サイズを増減することにより、ビデオの画質を変更します。画質を下げて、録画されるビデオのサイズを減らすことにより、ディスク領域を節約します。
[形式] リスト	他のシステムとの互換性を向上させるために別の圧縮形式を選択するには、**[形式]** リストを使用します。
[解像度] リスト	録画されるビデオの解像度サイズを選択するには、**[解像度]** リストを使用します。
[画像レート] リスト	1 秒あたりに録画する画像の数を選択するには、**[画像レート]** リストを使用します。
[デフォルトを適用] ボタン	工場出荷時のデフォルト設定を適用します。

表23.[カメラ設定] ウィンドウの [録画] タブ

［モーション］タブ

[モーション]タブで、カメラのビデオモーション設定を編集できます。詳細については、「**表24.［カメラ設定］ウィンドウの [モーション]タブ**」を参照してください。

> **注記：［モーション］**タブは、RTSP インターフェースと一部の ONVIF および専用インターフェース上では使用できません。

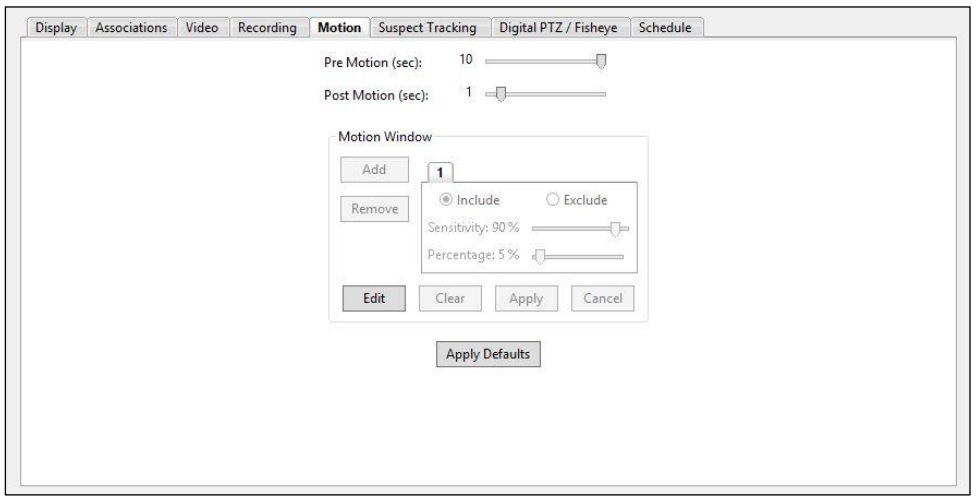


図19.[カメラ設定]ウィンドウの [モーション]タブ

インターフェース要素	説明
［モーション前］スライダー	イベントの発生前に保存できるビデオの秒数を調整します。
［モーション後］スライダー	イベントの発生後に保存できるビデオの秒数を調整します。
［モーション検出］領域	モーション録画を始動するまでにカメラの視野で発生する必要のあるモーションの量を調整するには、**［感度］**スライダーを使用します。感度の設定を低くすると、ビデオのノイズや影などのモーションの誤認を減らすことができます。
	モーションアラームイベントの数を減らすために、**［スムーズ開始］**スライダーと**［スムーズ終了］**スライダーを使用します。
	［スムーズ開始］は、モーションアラームがアクティブになる前に発生するモーションの最小秒数です。これにより、非常に短いモーションの発生によってモーションイベントアラームが始動することを防ぎます。
	［スムーズ終了］は、モーションアラームイベントが完了する前にモーションのない状態の最小秒数です。これは、連続する一連の短いモーションの発生を単一のモーションアラームイベントにまとめます。
［モーションマスク］領域	モーションが検出されたり録画されたりしないように、ビデオ表示の領域を遮断します。モーションマスクの詳細については、**「モーションマスクとビデオマスク」**を参照してください。
［デフォルトを適用］ボタン	工場出荷時のデフォルト設定を適用します。

表24.[カメラ設定]ウィンドウの [モーション]タブ

［容疑者追跡］タブ

容疑者追跡機能は、ライブビデオパネルの特定の領域を他のカメラにリンクし、カメラ視野を出入りする容疑者または物体を追跡できます。**[ライブ]** ウィンドウでは、容疑者追跡機能を備えたカメラは、ライブビデオパネル上にアイコンを表示します。容疑者追跡機能によるビデオパネルの領域は、色のオーバーレイによってマークされます。容疑者追跡機能をカメラに適用すると、カメラのビデオパネル上で色のオーバーレイをダブルクリックすることで、リンクされたカメラに切り替えられます。容疑者追跡を設定するには、「**容疑者追跡のセットアップ**」を参照してください。**[容疑者追跡]** タブの機能の詳細については、「**表25. [カメラ設定］ウィンドウの［容疑者追跡]タブ**」を参照してください。

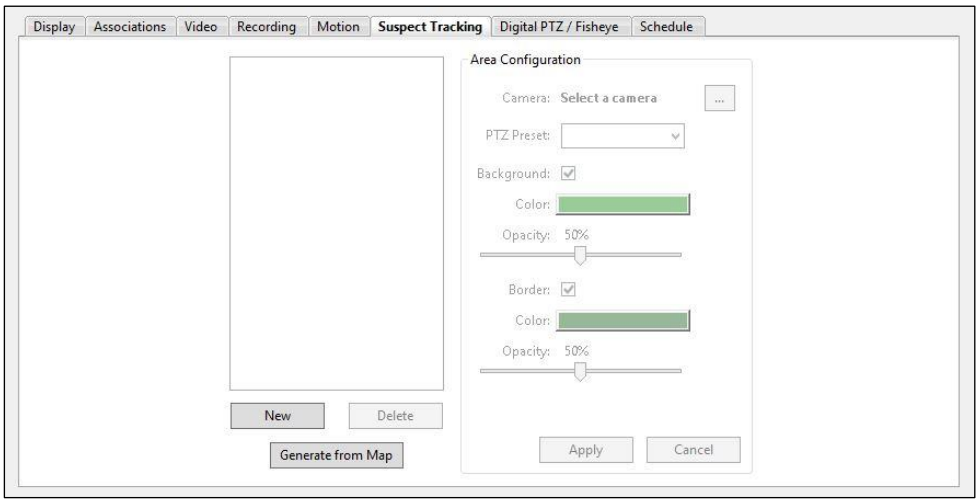


図20.[カメラ設定] ウィンドウの [容疑者追跡] タブ

インターフェース要素	説明
［PTZ プリセット］リスト	リンクされたカメラのプリセットを追加するには、**［領域構成］** 領域で **［PTZ プリセット］** リストからプリセットを選択します。
［背景］領域	リンクを別のカメラに追加する領域の背景色と不透明度を変更します。
［枠線］領域	リンクを別のカメラに追加する領域の枠線の色と不透明度を変更します。
［マップから生成］ボタン	マップに関連付けられているカメラをインポートします。詳細については、「**［マップ］** ウィンドウ」を参照してください。
	1 つ以上のカメラをインポートされたマップ上に表示する場合、構成するカメラの視野の角度内に 1 台以上のカメラがなければなりません。

表25.[カメラ設定] ウィンドウの [容疑者追跡] タブ

容疑者追跡のセットアップ

容疑者追跡をセットアップするには、以下の手順を実行します。

1. **[容疑者追跡]** タブで、**[新規]** をクリックします。
2. ビデオパネルを左クリックし、リンクを別のカメラに追加する領域の周りにボックスが描かれるまで、カーソルを対角線上にドラッグします。
3. [領域構成]ペインで、**[参照]** をクリックします。
4. その領域にリンクするカメラを選択し、**[適用]** をクリックします。

   注記： リンクされたカメラに対し、デジタルまたは機械的 PTZ プリセットを追加できます。詳細については、「**表25. [カメラ設定] ウィンドウの [容疑者追跡]タブ**」を参照してください。
5. [領域構成]ペインで、**[適用]** をクリックします。

   注記： ビデオパネル内の複数の領域に、容疑者追跡機能を適用できます。

［機械的 PTZ］タブ

機械的PTZカメラは、リモートで物理的に調整できるカメラです。**[機械的 PTZ]**タブでは、PTZカメラのCOMポートとアドレスを構成したり、カメラ上でPTZプリセットを構成したり、補助コマンドをカメラに送ることができます。

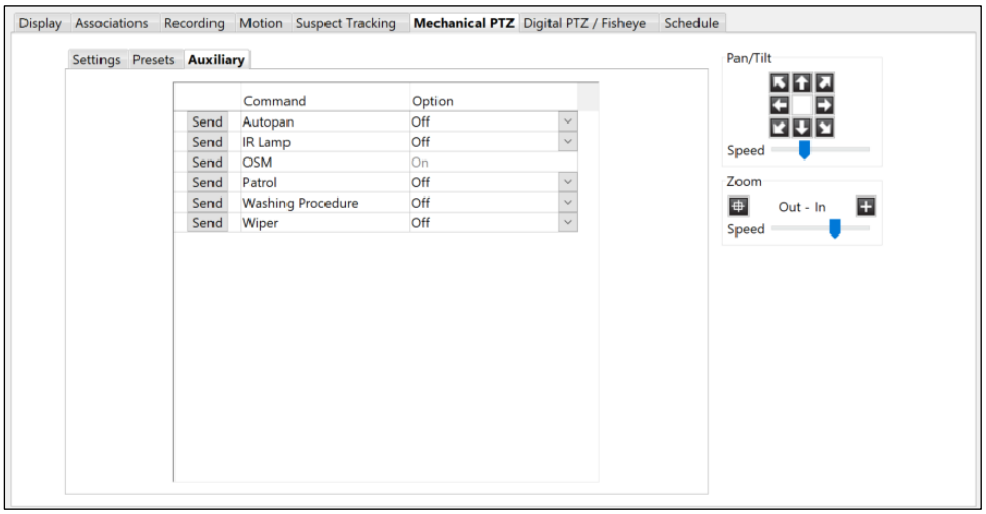


図21.[カメラ設定]ウィンドウの[機械的PTZ]タブ

［機械的 PTZ］タブ上の［設定］タブで、PTZカメラのCOMポートとアドレスを構成できます。詳細については、「**表26.［機械的 PTZ］タブの［設定］タブ**」を参照してください。

インターフェース要素	説明
［シリアルポート］リスト	COM ポートのリストを表示します。
	PTZ カメラへの COM ポートを構成するには、**［シリアルポート］**リストからポートを選択します。
［アドレス］リスト	カメラの IP アドレスのリストを表示します。
	PTZ カメラの IP アドレスを構成するには、**［アドレス］**リストから IP アドレスを選択します。
［プロトコル］リスト	PTZ カメラプロトコルのリストを表示します。COM ポートを**［シリアルポート］**リストから選択すると、カメラのプロトコルが自動的に表示されます。
［ドームパターン］領域	カメラの動きの録画を作成します。この機能は、一部のカメラでのみ使用可能です。
	ドームパターンを作成するには、**［録画］**をクリックし、**［パン/チルト］**領域で矢印を使って目的とするパターンでカメラを動かし、**［停止］**をクリックします。
	ドームパターンを確認するには、**［実行］**をクリックします。
	追加のドームパターンを作成するには、**［ドームパターン］**領域内で**数値**のリストを使用します。
［パン/チルト］領域	カメラの向きと向きの速度を調整します。
［ズーム］領域	カメラのズームとズーム速度を調整します。
［フォーカス］領域	カメラのフォーカスを調整します。この機能は ＰＴＺ IP カメラでは使用できません。
［アイリス］領域	カメラのレンズを通じて入る光量を調整します。この機能は ＰＴＺ IP カメラでは使用できません。
［メニュー］領域	カメラのメーカーのオンスクリーンメニューを表示します。一部のメーカーのカメラでは、オンスクリーン契約への同意を求められます。

表26.[機械的PTZ]タブの[設定]タブ

[機械的 PTZ] タブ上の **[プリセット]** タブで、カメラ上で PTZ プリセットを構成できます。詳細については、「**表27.[機械的 PTZ] タブの [プリセット] タブ**」を参照してください。

インターフェース要素	説明
［プリセット］ペイン	新しいプリセットを構成するには、**［新規］**をクリックし、プリセットの名前を **［名前］**フィールドに入力し、**［適用］**をクリックします。
	プリセットの総数が **［プリセット］**リストの下に表示されます。
［プリセットツアー］ペイン	プリセットツアーを作成するには、**［プリセット］**リストからプリセットを選択し、**［追加］**をクリックします。
	プリセットツアーを有効にするには、**［有効にする］**チェックボックスを選択します。
	ツアーからプリセットを削除するには、**［プリセット］**リストからプリセットを選択し、**［削除］**をクリックします。
	［プリセットツアー］リストのプリセットの順序を変更するには、目的の順序にプリセットをクリックアンドドラッグします。
［再開時間］リスト	再開時間は、ユーザーが PTZ コントロールを手動で制御して停止した後に、プリセットまたはプリセットツアーが再開するために要する秒数です。
［休止時間］リスト	次のプリセットに移動する前に、カメラが各プリセットを表示する秒数。
［パン/チルト］領域	プリセット位置の向き、およびカメラの向きの速度を調整します。
［ズーム］領域	カメラのズームとズーム速度を調整します。
［フォーカス］領域	カメラのフォーカスを調整します。この機能は ＰＴＺ IP カメラでは使用できません。
［アイリス］領域	カメラのレンズを通じて入る光量を調整します。この機能は ＰＴＺ IP カメラでは使用できません。
［メニュー］領域	カメラのメーカーのオンスクリーンメニューを表示します。一部のメーカーのカメラでは、オンスクリーン契約への同意を求められます。

表27.[機械的 PTZ] タブの [プリセット] タブ

補助コマンドをカメラに送る

[補助コマンド] タブで、補助コマンドをカメラに送ることができます。補助コマンドをカメラに送るには、以下の手順を実行します。

注記[補助コマンド] タブは、その機能をサポートするカメラでのみ使用できます。

1. **［機械的 PTZ］**タブで **［補助］**タブをクリックします。
2. **［オプション］**列から、オプション fまたは適用したい補助コマンドを選択します。

   注記カメラは、使用可能にするためのコマンドをサポートする必要があります。。
3. **［送信］**をクリックします。

   別の補助コマンドをカメラに送信するには、手順2と3を実行します。

［デジタル PTZ/魚眼］タブ

デジタル PTZ カメラは物理的に移動しませんが、カメラのビデオをズームし、移動することができます。**[デジタル PTZ/魚眼]** タブで、デジタル PTZ および魚眼カメラのプリセットを構成できます。詳細については、「**表28.[カメラ設定] ウィンドウの [デジタル PTZ/魚眼] タブ**」を参照してください。

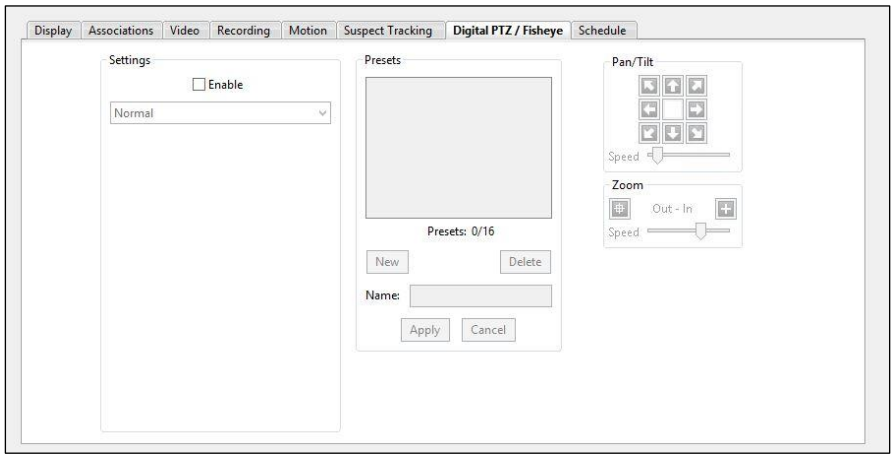


図22.[カメラ設定] ウィンドウの [デジタル PTZ/魚眼] タブ

インターフェース要素	説明
［設定］ペイン	デジタル PTZ および魚眼カメラの制御機能を有効にするには、**［有効にする］** チェックボックスを選択します。カメラに機械的 PTZ 機能がない場合でも、この機能は利用できます。
	魚眼カメラの場合、**［魚眼モード］** リストからレンズモードを選択します。リストから **［Immervision］** を選択すると、追加のモデルと設置オプションが表示されます。
［プリセット］ペイン	デジタル PTZ および魚眼カメラのプリセットを作成したり、変更したりします。
	プリセットを作成するには、**［名前］** フィールドに名前を入力し、**［新規］** をクリックします。デフォルトで、名前はデジタル PTZ プリセットに割り当てられます。同じ名前を PTZ プリセットに割り当てることもできます。プリセットに同じ名前が付くことを避けるために、すべてのプリセットに一意の名前を割り当てるようにしてください。
	プリセットの総数が **［プリセット］** リストの下に表示されます。
［パン/チルト］領域	プリセット位置の向き、およびカメラの向きの速度を調整します。
［ズーム］領域	カメラのズームとズーム速度を調整します。

表28.[カメラ設定] ウィンドウの [デジタル PTZ/魚眼] タブ

［スケジュール］タブ

[スケジュール]タブでは、サーバー上で 1 台のカメラまたは複数のカメラの録画スケジュールを作成できます。録画スケジュールを作成するには、「**録画スケジュールの作成**」を参照してください。**[スケジュール]**タブで利用可能なオプションの詳細については、「**表29. [カメラ設定］ウィンドウの [スケジュール]タブ**」を参照してください。

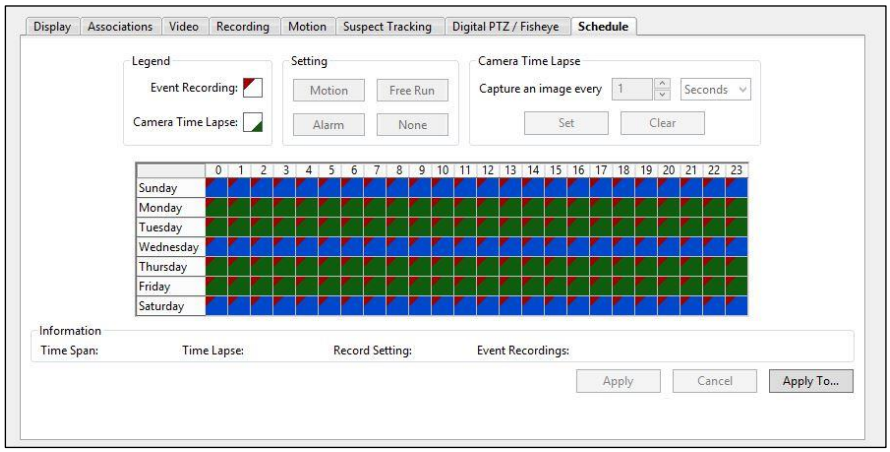


図23.[カメラ設定] ウィンドウの [スケジュール] タブ

インターフェース要素	説明
［凡例］領域	スケジュールグリッドでイベント録画およびカメラタイムラプスがどのように表示されるのかを示します。
［設定］領域	発生したモーションまたはアラームを記録するには、**［モーション］**を選択します。
	継続的に記録するには、**［自由実行］**を選択します。
	発生したアラームを記録するには、**［アラーム］**を選択します。
	何も記録しない場合は、**［なし］**を選択します。
［カメラ経過時間］領域	選択した時間の 1 秒または 1 分ごとに録画する画像の数を設定します。
［情報］領域	指定した日時のカメラの録画スケジュールの詳細を表示します。
	カメラの録画スケジュールの詳細を表示するには、カレンダーグリッド内の対応する四角の上にカーソルを置きます。
［適用先］ボタン	同じサーバー上の複数のカメラにスケジュールを適用します。

表29.[カメラ設定] ウィンドウの [スケジュール] タブ

録画スケジュールの作成

録画スケジュールを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **［スケジュール］**タブで、カレンダーグリッドを左クリックし、カメラに録画したい曜日と対応する時間の上にボックスが描かれるまで、カーソルをドラッグします。
2. **［設定］**領域で、録画オプションを選択します。
3. **［適用］**をクリックします。

解析タブ

[**解析**] タブで、カメラからの解析メタデータを保存し、解析オーバーレイの外見を変更するようにシステムを設定することができます。詳細については、「**解析オーバーレイ**」および「**解析メタデータ検索の実行**」を参照してください。

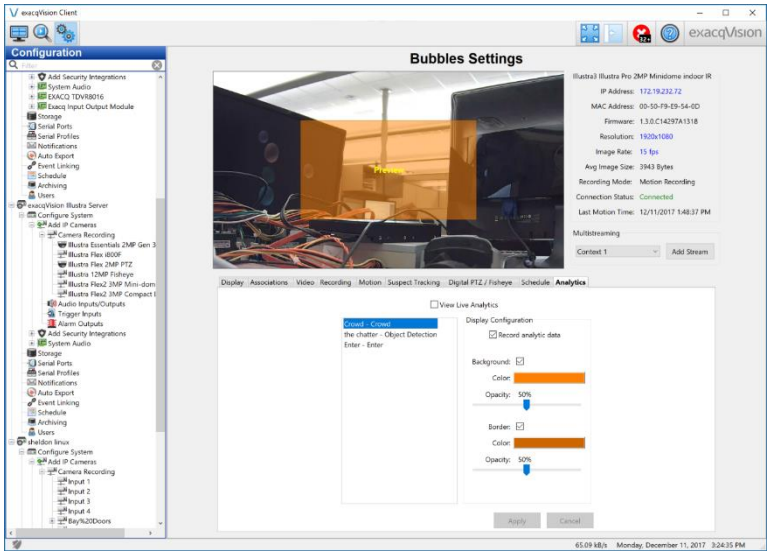


図24.[カメラ設定] ウィンドウの [解析] タブ

インターフェース要素	記述
[キーワードを有効にする] チェックボックス	解析メタデータを格納するようにシステムを設定するには、キーワードを選択してから**[キーワードを有効にする]**チェックボックスを選択します。
[背景] 領域	解析メタデータオーバーレイの背景色と不透明度を変更します。背景色と不透明度を変更しても、カメラがデータをキャプチャする方法には影響しません。
[枠線] 領域	解析メタデータオーバーレイの枠線の色と不透明度を変更します。枠線の色と不透明度を変更しても、カメラがデータをキャプチャする方法には影響しません。

表30.[カメラ設定] ウィンドウの [解析] タブ

[PoE ポート] ウィンドウ

[PoE ポート] ウィンドウには、Una システムのポート情報が表示されます。ポートは、さまざまな色で表示され、カメラの状態を示します。詳細については、「**表31.[PoE ポート] ウィンドウ**」を参照してください。



図25.[PoE ポート] ウィンドウ

[PoE ポート] ウィンドウの表示

[PoE ポート] ウィンドウを開くには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの **[構成（セットアップ）ページ]** アイコンをクリックします。
2. ナビゲーションツリーから **[システムの構成]** を展開します。
3. **[IP カメラの追加]** ノードを展開し、**[PoE ポート]** を選択します。

インターフェース要素	説明
[ポート] 列	Una exacqVision レコーダーの背面パネルで確認できる、各物理イーサネットポートの数を表示します。
[名前] 列	ポートが検出するカメラの名前を表示します。
[アドレス] 列	カメラの IP アドレスを表示します。
[メーカー] 列	カメラのブランドを表示します。
[モデル] 列	カメラのモデルを表示します。
[MAC アドレス] 列	カメラの MAC アドレスを表示します。
[電源] 列	カメラの電源出力を表示します。
[割当量] 列	カメラが使用できる最大電力を表示します。
[状態] 列	カメラの接続状態を表示します。ポートの色によってもカメラの状態を確認できます。 灰色は、ポートが接続されていないことを示します。 黄色は、システムでポートを検索中であることを示します。 緑色は、カメラが接続されていることを示します。 赤色は、カメラが接続されておらず、応答していないことを示します。

表31.[PoE ポート] ウィンドウ

[セキュリティ統合] ウィンドウ

[セキュリティ統合の追加] ウィンドウでは、セキュリティ装置を exacqVision サーバーに追加し、統合の状態を表示することができます詳細については、*インテグレーションのユーザーマニュアル*を参照してください。exacqVision システムがサポートするセキュリティ装置のみを追加できます。詳細については、www. exacq. com を参照してください。

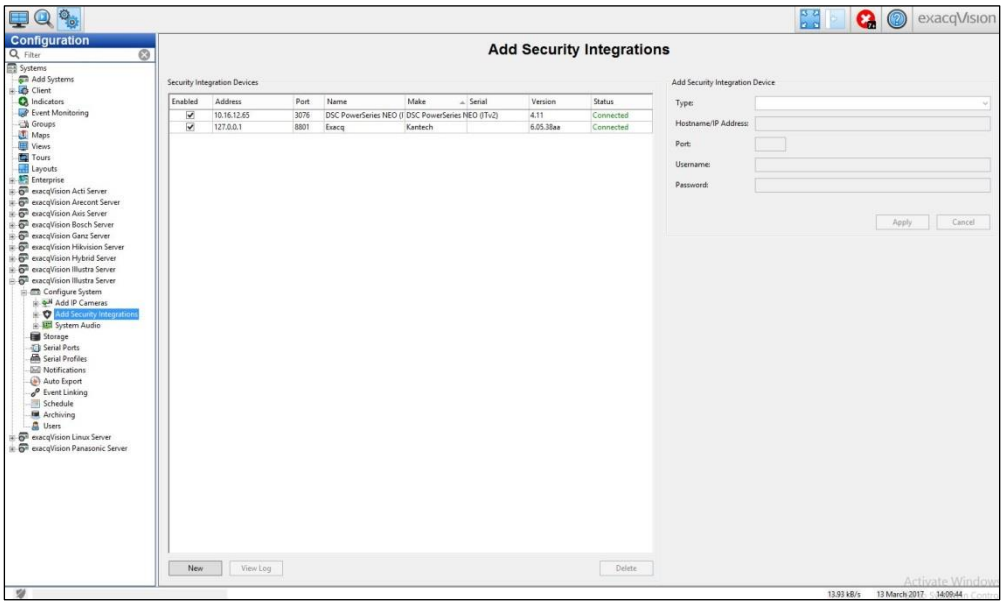


図26.[セキュリティ統合の追加] ウィンドウ

セキュリティ装置の追加

セキュリティ装置をサーバーに追加するには、以下の手順を実行します。

1. **[セキュリティ統合の追加]** ウィンドウで、**[新規]** をクリックします。
2. **[セキュリティ統合装置の追加]** 領域で、**[タイプ]** リストから装置のブランドを選択します。
3. セキュリティ装置のホスト名または IP アドレスを入力します。
4. セキュリティ装置のポート番号を入力します。
5. セキュリティ装置のユーザー名とパスワードを入力します。
6. **[適用]** をクリックします。装置は、ナビゲーションツリー内の **[アクセス制御の追加]** ノードの下に表示されます。次に、ナビゲーションツリーでその装置をクリックし、装置のコントロールのリストにアクセスします。

   注記：セキュリティ装置をサーバーに追加する前に構成を行う必要があります。セキュリティ装置の構成方法の詳細については、メーカーのユーザーマニュアルを参照してください。

セキュリティ統合の状態の表示

セキュリティ統合の状態は、**[セキュリティ統合の追加]** ウィンドウの**[ステータス]**列に表示されるか、またはステータスバーの左側にあるアイコンを表示します。ステータスバーのアイコンは、exacqVisionクライアントに接続するすべてのセキュリティ統合の概要した状態を示します。アイコンをクリックして、セキュリティ統合のログオンオプションにアクセスすることもできます。アイコン色の意味の詳細については、「**表32**」を参照してください。

アイコン色	記述
グレイ	ユーザーはセキュリティ統合にログオンしていません。
黄	ユーザーは、一部のセキュリティ統合にログオンしています。
緑	ユーザーはすべてのセキュリティ統合にログオンしています。

表32.セキュリティ統合アイコン

キーワードの無効化

キーワードは、装置に関する詳細情報を入手するために使用できるメタデータ用語です。デフォルトで、システムはユーザーが追加したキーワードを記録します。これは、システムのパフォーマンスに影響を及ぼすことがあります。システムでキーワードの記録を無効にするには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーションツリーから、**[セキュリティ統合]** ノードを展開し、セキュリティ統合を選択します。
2. **[キーワードを有効にする]** 列で、無効にするキーワードの対応するチェックボックスをオフにします。
3. **[適用]** をクリックします。

［シリアルプロファイル］ウィンドウ

[シリアルプロファイル] ウィンドウでは、シリアルプロファイルを作成し、構成して、販売時点管理 (POS) や銀行機械システムなどのシリアルデータ装置と exacqVision サーバーを統合することができます。シリアルプロファイルを作成するには、「**シリアルプロファイルの作成**」を参照してください。**[シリアルプロファイル]** ウィンドウの機能の詳細については、**表33** と**表34** を参照してください。

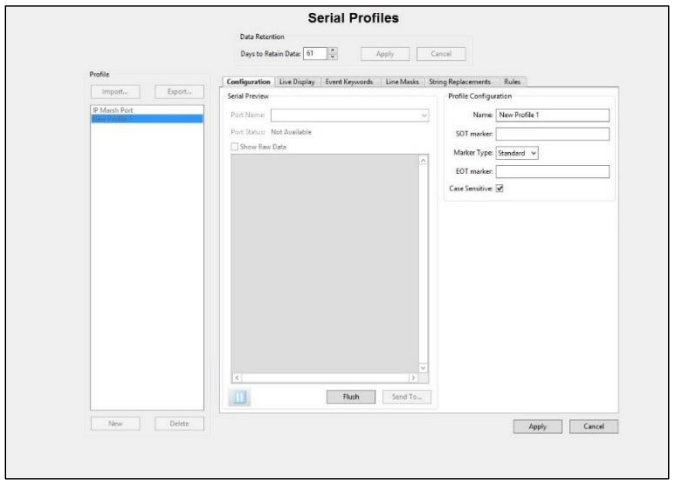


図27.[シリアルプロファイル] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[プロファイル] ペイン	既存のシリアルプロファイルのリストを表示します。
	シリアルプロファイルをインポートするには、**[インポート]** を選択します。
	シリアルプロファイルをエクスポートするには、**[エクスポート]** を選択します。
	シリアルプロファイルを削除するには、**[プロファイル]** リストからプロファイルを選択し、**[削除]** をクリックします。
[データ保有] ペイン	自動的に削除される前にシリアルデータが保持される日数を選択するには、**[データ保有日数]** リストから日数を選択し、**[適用]** をクリックします。
[構成] タブ	**[構成]** タブで、構成シリアルプロファイルを作成できます。詳細については、「**表34**」を参照してください。
[ライブ表示] タブ	シリアルプロファイルのプレビューを表示します。
	行を削除するには、**[有効にする]** を選択し、行が削除されるまでの時間数を選択します。
	データの行間に余白を追加するには、**[ダブルスペース行]** を選択します。
	データのフォントを変更するには、**[フォント]** をクリックします。
[イベントキーワード] タブ	キーワードを通じてトリガーできるアラームを設定します。**[イベントキーワード]** タブは exacqVision Start では使用できません。
	トリガーできるアラームを設定するには、**[新規]** をクリックし、キーワードを文字列フィールドに入力します。**[イベントキーワード]** タブにデータを入力した後で、**[イベントタイプ]** リストの **[シリアルプロファイル]** を選択することにより、**[イベントリンク]** ウィンドウでプロファイルを適切なアクションにリンクする必要があります。詳細については、「**[イベントリンク]** ウィンドウ」を参照してください。
	大文字と小文字の区別をすべての文字列またはキーワードに適用するには、**[大文字と小文字の区別]** チェックボックスを選択します。
[ラインマスク] タブ	ライブビデオパネルまたは録画されたデータ内で表示されないように、カメラ視野の領域を黒く塗り潰します。この機能は、クレジットカードの詳細などの情報を非表示にするために役立ちます。
	カメラの視野の領域を黒く塗りつぶすには、**[新規]** をクリックし、**[文字列]** フィールドに 1 つ以上の語句を入力します。
	ライブビデオパネル内でカメラの視野を黒く塗り潰すには、**[ライブ]** を選択します。
	録画されたデータのカメラの視野の領域を黒く塗り潰すには、**[検索]** を選択します。
[文字列置換] タブ	シリアルデータ文字列を読み取り可能な形式に変更します。
	シリアルデータを変更するには、その情報をシリアルデータ形式で入力し、より読みやすい代替情報を **[置換]** フィールドに入力します。
	[ライブ] ウィンドウで表示するためにデータ文字列を変更するには、**[ライブ]** を選択します。
	記録されたデータのデータ文字列を変更するには、**[検索]** を選択します。
[ルール] タブ	より詳細なシリアルデータ文字列検索を実行するために使用できる条件を作成します。
	ルールを作成するには、「**シリアルデータ文字列検索のルールの作成**」を参照してください。
	ルールを編集するには、**[構成]** フィールドで **[編集]** をクリックします。

表33.[シリアルプロファイル] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[SOT マーカー] フィールド	[トランザクションマーカーの開始 (SOT)] フィールドは、いつトランザクションを開始するのかを exacqVision システムに伝えます。このフィールドは大文字と小文字を区別します。
[マーカータイプ] リスト	マーカータイプのリストを表示します。
[EOT マーカー] フィールド	[トランザクションマーカーの終了 (EOT)] フィールドは、いつトランザクションを終了するのかを exacqVision システムに伝えます。このフィールドは大文字と小文字を区別します。
大文字と小文字の区別	大文字と小文字の区別を適用するには、[大文字と小文字の区別] チェックボックスを選択します。
[ポート名] リスト	既存のシリアルプロファイルのリストを表示します。
[ポートステータス] フィールド	シリアルポートの接続状態を表示します。
[生データを表示] チェックボックス	データの行間にすべての文字を表示します。
[フラッシュ] ボタン	データの次の行を表示します。シリアルポートタイムアウトが 0 の場合、データの行が最大長に達しません。または、EOT が送信されない場合。
[送信先] ボタン	データ文字列例をコピーできます。その後、SOT、EOT、キーワード、ラインマスク、または文字列置換として保存できます。さらに、データ文字列例を新しいルールまたは既存のルールにコピーできます。
	データ文字列を保存するには、[一時停止] ボタンをクリックし、文字列を強調表示し、[送信先] をクリックします。

表34.[シリアルプロファイル] ウィンドウの [構成] タブ

シリアルプロファイルの作成

シリアルプロファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

1. [シリアルプロファイル] ウィンドウで、[新規] をクリックします。
2. On the [構成] タブで、プロファイルの名前を [名前] フィールドに入力します。
3. [SOT マーカー] フィールドに、コマンドを入力します。
4. [マーカータイプ] リストから、マーカータイプを選択します。
5. [EOT マーカー] フィールドに、コマンドを入力します。
6. [適用] をクリックします。

シリアルデータ文字列検索のルールの作成

シリアルデータ文字列条件を作成するには、以下の手順を実行します。

1. [シリアルプロファイル] ウィンドウの [ルール] タブで、[新規] を選択します。
2. [フィールド位置] リストから、条件情報が関心値の前または後のどちらで発生するのかを選択します。
3. 条件テキストを入力します。
4. [オペレーター] リストからオプションを選択します。
5. [値] フィールドに、関心値を入力します。
6. [OK] をクリックします。

［シリアルポート］ウィンドウ

[シリアルポート]ウィンドウで、POS 端末および PTZ カメラなどのシリアル装置と通信するように、exacqVision システム上でシリアルポートを構成できます。構成できるポートには、UART ポートと IP ポートの 2 種類があります。

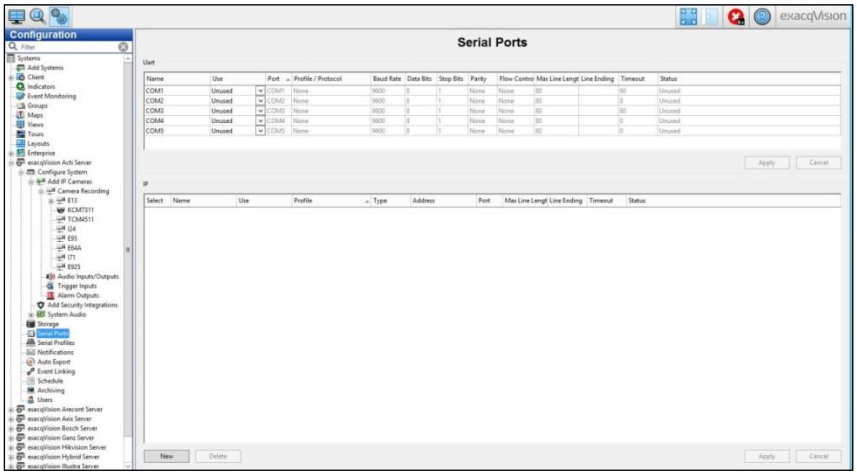


図28.[シリアルポート]ウィンドウ

［UART］ペイン

UART シリアルポートの場合は必ず、シリアルポートにケーブルを接続してから、ポートを構成します。システムにより、ポートが自動的に検出され、表示されます。UART シリアルポートの構成の詳細については、**「表35.［シリアルポート］ウィンドウの [UART] ペイン」**を参照してください。

インターフェース要素	説明
[名前] フィールド	ポートの一意の名前を入力します。
[使用] リスト	**[使用]** リストから、ポートの目的を選択します。
[ポート] リスト	オペレーティングシステムにより、**[ポート]** リストから自動的にポートが選択されます。
[プロファイル/プロトコル] リスト	選択できる構成済みのシリアルプロファイルのリストを表示します。
	ポートの新しいシリアルプロファイルを作成するには、リストから **[新規]** を選択します。**[シリアルプロファイル]** ウィンドウが開きます。シリアルプロファイルの作成方法の詳細については、**「シリアルプロファイルの作成」** を参照してください。
[ボー] リスト	**[ボー]** リストから選択するオプションは、接続する装置と一致させる必要があります。詳細については、装置メーカーのマニュアルを参照してください。
[データビット] リスト	**[データビット]** リストから選択するオプションは、接続する装置と一致させる必要があります。詳細については、装置メーカーのマニュアルを参照してください。
[ストップビット] リスト	**[ストップビット]** リストから選択するオプションは、接続する装置と一致させる必要があります。詳細については、装置メーカーのユーザーマニュアルを参照してください。
[パリティ] リスト	UART シリアルポートの接続パラメーターのリストを表示します。
	[パリティ] リストから選択するオプションは、接続する装置と一致させる必要があります。詳細については、装置メーカーのマニュアルを参照してください。
[フロー制御] リスト	**[フロー制御]** リストから選択するオプションは、接続する装置と一致させる必要があります。詳細については、装置メーカーのマニュアルを参照してください。
[行の最大長] フィールド	行末 (EOL) であると見なされるまでにポートで受信できる、最大文字数を指定します。デフォルトの文字数は 80 です。
[行末] フィールド	EOL と見なす文字または文字の文字列を指定します。
	exacqVision システムでは、デフォルトの行末は Windows の復帰改行 (CR LF) および Linux の LF です。¥x0D は CR を表し、¥x0A は LF を表します。このフィールドが空白である場合、OS のデフォルト行末が使用されます。
[タイムアウト] フィールド	データを受信した後、そのデータをプロセスのシリアルプロファイルに送信する前に、ポートが待機する秒数を指定します。
	デフォルト値は 0 です。トラブルシューティングの場合、**[タイムアウト]** フィールドに **1** を入力します。
[ステータス] フィールド	ポートの接続状態とトラブルシューティング情報を表示します。

表35.[シリアルポート] ウィンドウの [UART] ペイン

[IP] ペイン

IP ポートの場合、[IP] ペインで **[新規]** をクリックして、ポートを手動で追加する必要があります。IP ポートの構成の詳細については、「**表36. [シリアルポート] ウィンドウの [IP] ペイン**」を参照してください。

インターフェース要素	説明
[名前] フィールド	ポートの一意の名前を入力します。この名前は **[ライブ]** ウィンドウ内で、exacqVision クライアントユーザーにより表示されます。
[使用] リスト	**[使用]** リストから、ポートの目的を選択します。
[プロファイル] リスト	**[プロファイル]** リストからプロファイルを選択します。
	[シリアルプロファイル] ウィンドウでプロファイルを作成できます。詳細については、「**シリアルプロファイルの作成**」を参照してください。
[タイプ] リスト	転送接続タイプを選択します。装置のメーカーが転送タイプを定義します。
[アドレス] フィールド	装置の IP アドレスを入力します。
[ポート] フィールド	装置の伝送制御プロトコル (TCP) ポートを入力します。装置のメーカーが TCP ポートを定義します。
[行の最大長] フィールド	行末 (EOL) であると見なされるまでにポートで受信できる、最大文字数を指定します。デフォルトの文字数は 80 です。
[行末] フィールド	EOL と見なす文字または文字の文字列を指定します。
	exacqVision システムでは、デフォルトの行末は Windows の復帰改行 (CR LF) および Linux の LF です。¥x0D は CR を表し、¥x0A は LF を表します。このフィールドが空白である場合、OS のデフォルト行末が使用されます。
[タイムアウト] フィールド	データを受信した後、そのデータをプロセスのシリアルプロファイルに送信する前に、ポートが待機する秒数を指定します。デフォルト値は 0 です。
	トラブルシューティングの場合、**[タイムアウト]** フィールドに 1 を入力します。
[ステータス] フィールド	ポートの接続状態とトラブルシューティング情報を表示します。

表36.[シリアルポート] ウィンドウの [IP] ペイン

[音声入力/出力] ウィンドウ

[音声入力/出力] ウィンドウで、監視、録画、および双方向音声用に音声入力および出力を構成できます。録画用に複数の音声入力を構成できますが、エクスポートとライブ再生には1つの音声入力のみを構成できます。詳細については、「**表37**」を参照してください。

> **注記：**すべての exacqVision システムは、音声入力が無効な状態で出荷されます。これは、一部の国における録音に関する法的規制によるものです。

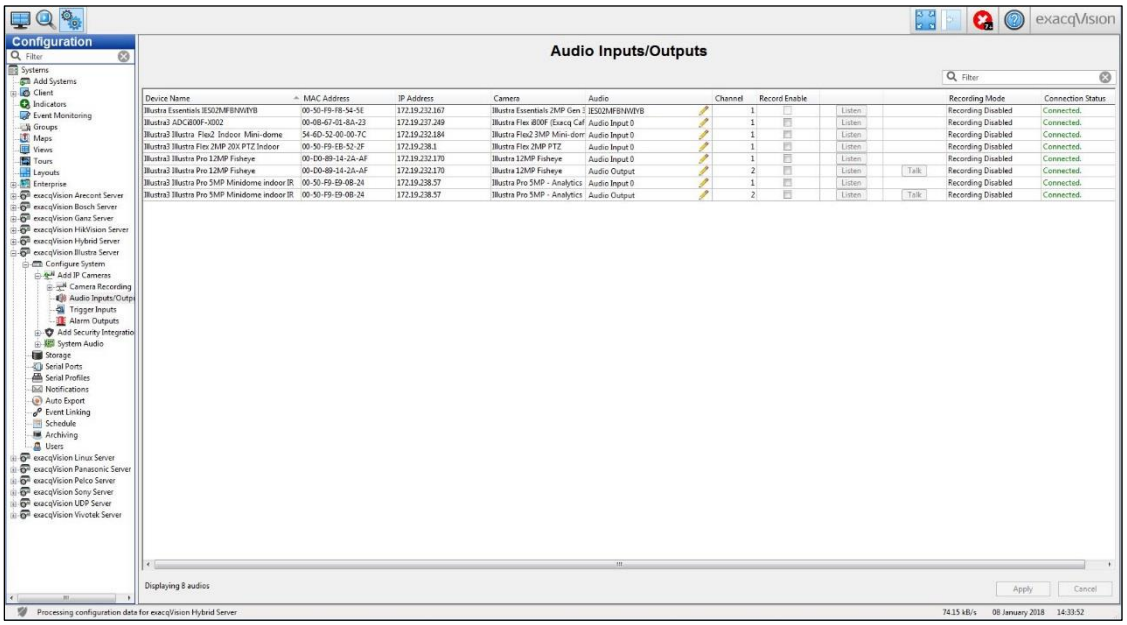


図29.[音声入力/出力] ウィンドウ

列	記述
デバイス名	音声デバイスに関連付けられているカメラのメーカーとモデルを表示します。
カメラ	音声デバイスに関連付けられているすべてのカメラの名前を表示します。
オーディオ	オーディオ出力または入力の名前を表示します。オーディオ出力または入力の名前を編集するには、**[鉛筆]** アイコンをクリックします。
チャネル	カメラのチャネル番号を表示します。
録画有効	**[録音の有効化]** チェックボックスを選択して、録画の音声入力を有効にします。
傾聴	音声入力をチャネルに接続できることを確認するには、**[リッスン]** を選択します。
通話	双方向システムに音声を送信できることを確認するには、**[通話]** をクリックします。
録画モード	音声入力の録画モード設定を表示します。録画モードを変更するには、「**[スケジュール]** ウィンドウ」を参照してください。
接続状態	カメラの接続状態を表示します。

表37.[音声入力/出力] ウィンドウ

[トリガー入力] ウィンドウ

[トリガー入力] ウィンドウでは、ビデオ録画をトリガーするために、ハイブリッドシステムと一部の IP カメラ上でトリガー入力を構成できます。次に、**[イベントリンク]** ウィンドウでトリガー入力を有効にします。詳細については、「**[イベントリンク] ウィンドウ**」を参照してください。**[トリガー入力]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表38**」を参照してください。

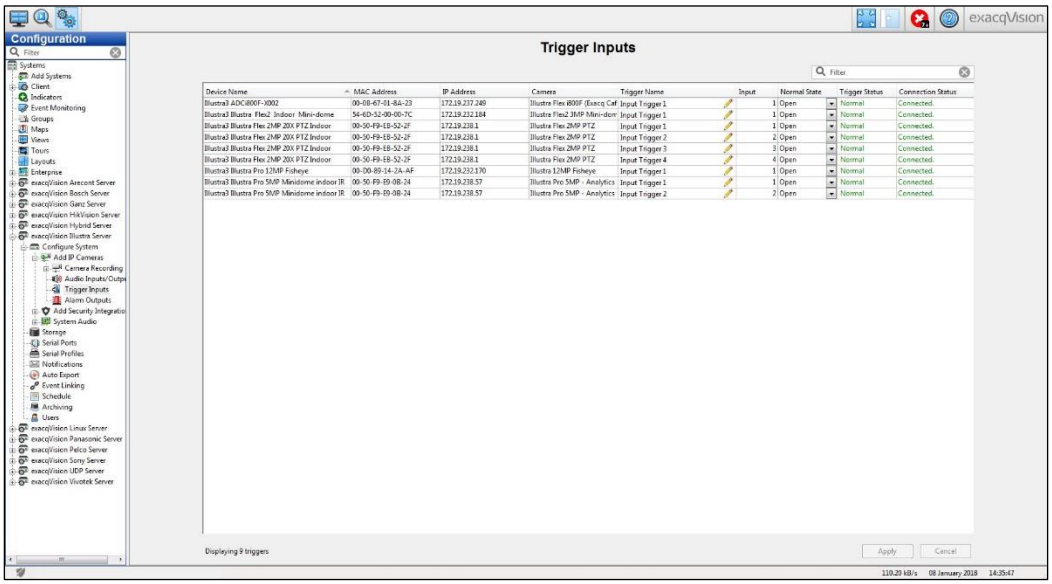


図30.[トリガー入力] ウィンドウ

列	記述
デバイス名	トリガー入力に関連付けられているカメラのメーカーとモデルを表示します。
カメラ	トリガー入力に関連付けられているすべてのカメラの名前を表示します。
トリガー名	トリガー入力の名前を表示します。トリガー入力名を編集するには、**[鉛筆]** アイコンをクリックします。
入力	カメラの入力番号を表示します。
通常状態	そのトリガーに関連付けられたアクションまたはイベントが発生したときにトリガーしないようにアラームを設定するには、**[開]** を選択します。
	そのトリガーに関連付けられたアクションまたはイベントが発生したときにトリガーするようにアラームを設定するには、**[閉]** を選択します。
トリガー状態	トリガー入力の通常の状態を表示します。
接続状態	カメラの接続状態を表示します。

表38.[トリガー入力] ウィンドウ

[アラーム出力] ウィンドウ

[アラーム出力] ウィンドウでは、ハイブリッドシステムと一部の IP カメラ上でアラーム出力を構成できます。その後、**[イベントリンク] ウィンドウ**でトリガーするようにアラームを設定できます。**[アラーム出力]** ウィンドウの機能の詳細については、**表39**を参照してください。

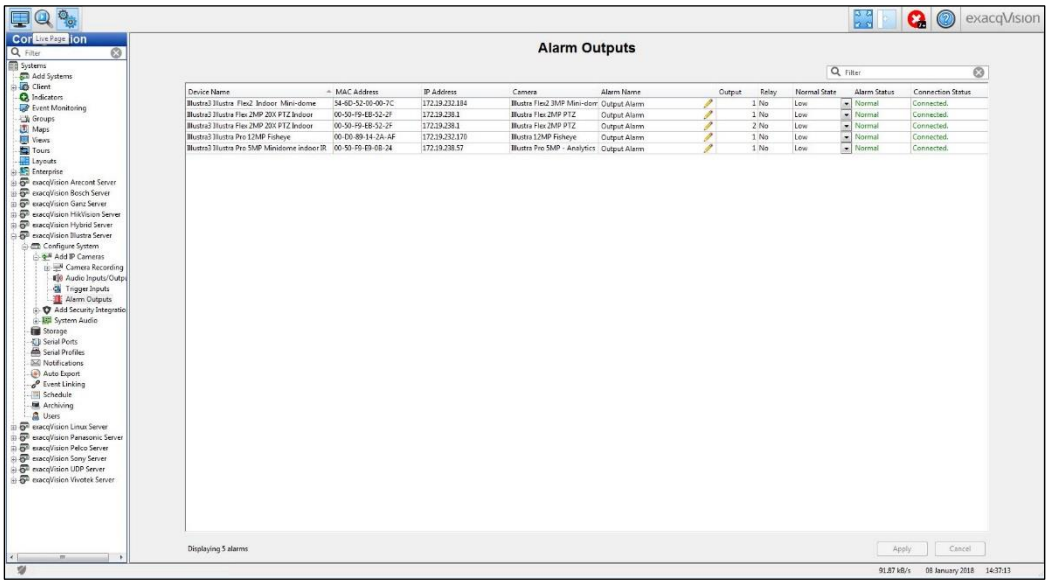


図31.[アラーム出力] ウィンドウ

列	記述
デバイス名	アラーム出力に関連付けられているカメラのメーカーとモデルを表示します。
カメラ	アラーム出力に関連付けられているすべてのカメラの名前を表示します。
アラーム名	アラーム出力の名前を表示します。アラーム出力名を編集するには、**[鉛筆]** アイコンをクリックします。
出力	カメラの出力番号を表示します。
リレー	アラーム出力がリレーであるかどうかを表示します。
通常状態	アラーム出力を5VDCに設定するには、**[高]** を選択します。
	アラーム出力を0VDCに設定するには、**[低]** を選択します。
アラーム状態	アラーム出力の通常の状態を表示します。
接続状態	カメラの接続状態を表示します。

表39.[アラーム出力] ウィンドウ

［ビデオ出力］ウィンドウ

[ビデオ出力] ウィンドウで、異なるビデオモードでアナログビデオカメラ間のツアーを作成できます。ツアーの作成方法の詳細については、「**[ビデオ出力] ウィンドウでのツアーの作成**」を参照してください。

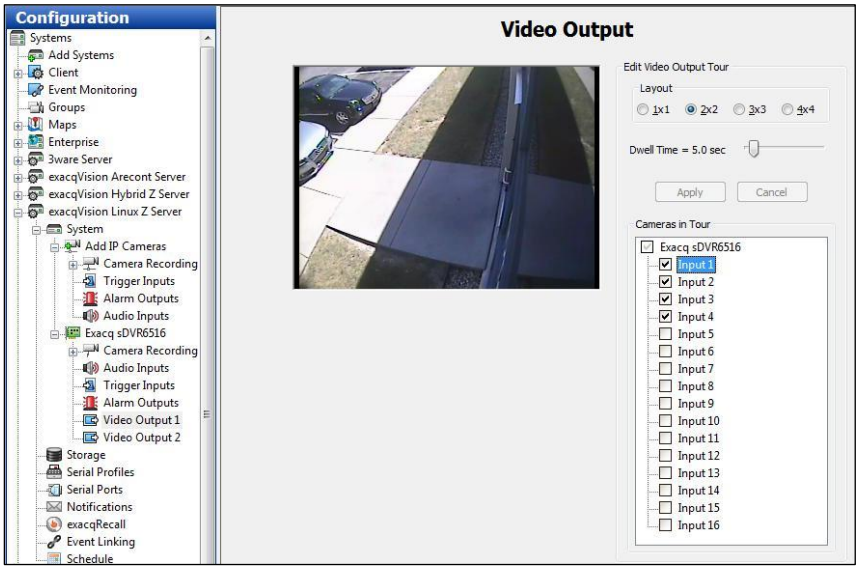


図32.[ビデオ出力] ウィンドウ

［ビデオ出力］ウィンドウでのツアーの作成

[ビデオ出力] ウィンドウでツアーを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **［ツアー内のカメラ］** リストから、ツアーに含めるカメラを選択します。
2. **［レイアウト］** 領域から、レイアウトを選択します。
3. **[休止時間]** スライダーを動かして、モニターが次のカメラに切り替わるまでの時間を設定します。休止時間の範囲は、1 ～ 60 秒です。
4. **［適用］** をクリックします。

［ストレージ］ウィンドウ

[ストレージ]ウィンドウでは、**[ドライブ]**、**[拡張]**、**[ハードウェア]**、および**[ネットワーク]**タブにアクセスして、ビデオストレージ用の本システムのハードドライブを構成し、本システムのドライブおよびRAIDアレイの健全性を監視することができます。

［ドライブ］タブ

[ドライブ]タブは、ドライブの容量、使用可能な保存領域、およびその健全性状態を含む、システムにインストールするドライブに関する情報を表示します。**[ドライブ]**タブでは、ビデオを保存する最小期間または最大期間を設定することもできます。詳細については、「**表40.[ストレージ]ウィンドウの[ドライブ]タブ**」および「**表41.[ストレージ]ウィンドウの[ドライブ構成]ペイン**」を参照してください。

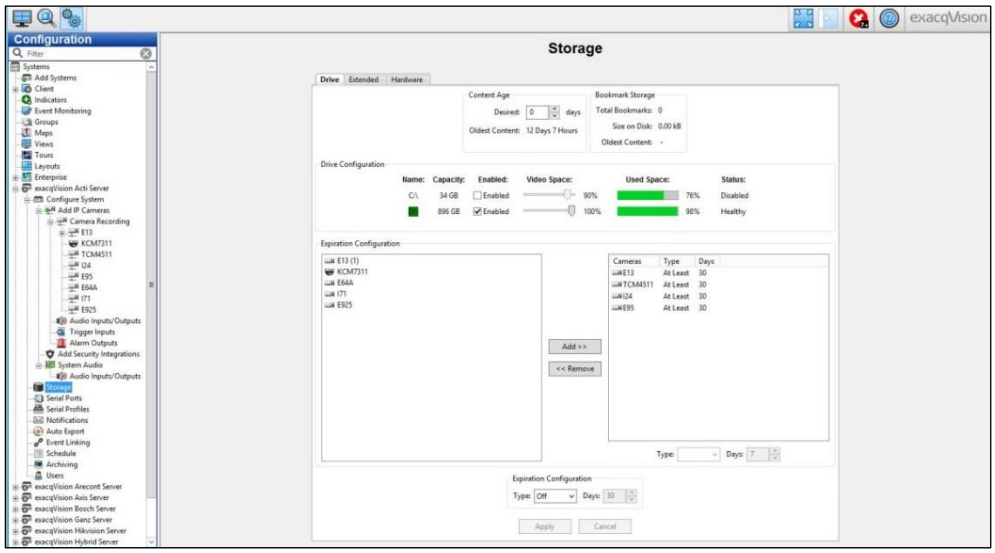


図33.[ストレージ]ウィンドウの[ドライブ]タブ

インターフェース要素	説明
[コンテンツの経過日数］ペイン	システム上にある最も古い録画されたビデオの経過日数を表示し、ビデオデータを削除するまでの間保持しておく日数を設定します。設定した日より前にビデオデータを削除した場合、**[イベントリンク］**ウィンドウ上のトリガーアクションが有効になります。詳細については、「**[イベントリンク］**ウィンドウ」を参照してください。
[ストレージのブックマーク］ペイン	システム上の保存されたブックマークの数、ブックマークの合計ストレージ要件、および最も古いコンテンツの経過日数を表示します。ブックマークは、すべてのブックマークが合計ストレージ容量を超えるまでは、自動的に削除されません。
[ドライブ構成］ペイン	システム上にインストールするドライブに関する情報を表示します。詳細については、「**表41.［ストレージ］ウィンドウの［ドライブ構成］ペイン**」を参照してください。
[有効期限の構成］ペイン	各カメラからのビデオを保存しておく最小期間または最大期間を設定します。保存期間を設定するには、「**ビデオの保存期間の設定**」を参照してください。
	ビデオストレージオプションを適用するには、**[音声に有効期限ルールを適用］**チェックボックスを選択します。
	exacqVision Professional または Enterprise システム上でシステム全体機能を有効にしている場合、有効期限構成機能は無効になります。
	システムの性能に影響が及ぶことがあるため、一定期間後にビデオを削除するように法律で求められている場合にのみ、有効期限構成機能を使用してください。

表40.[ストレージ]ウィンドウの[ドライブ]タブ

インターフェース要素	説明
[名前] 領域	Windows のシステムドライブ C;¥、または Linux の /mnt/edvr/0 は、exacqVision ソフトウェアおよびオペレーティングシステム用です。このドライブにビデオを録画したり、このドライブをビデオストレージ用に使用したりはできません。
[容量] 領域	ハードドライブの領域容量を表示します。
[有効] チェックボックス	ビデオストレージのドライブを有効にするには、**[有効]** チェックボックスを選択します。ストレージドライブは、システムドライブの下で見つかります。
[ビデオ領域] スライダー	データストレージに利用するドライブ領域の量を調整します。
[使用済み領域] 領域	現在のハードドライブ容量を表示します。
[状態] 領域	ハードドライブの現在の健全性状態を表示します。

表41.[ストレージ] ウィンドウの [ドライブ構成] ペイン

ビデオの保存期間の設定

ビデオの保存期間を設定するには、以下の手順を実行します。

1. **[有効期限構成]** リストで、カメラを選択し、**[追加]** をクリックします。
2. **[追加されたカメラ]** リストから、カメラを選択します。
3. **[タイプ]** リストから、以下のいずれかのオプションを選択します。
   - 一定期間後にビデオを削除するには、**[最大]** を選択します。**[最大]** を選択すると、アーカイブのためにカメラを選択したり、ブックマークが付いたビデオをカメラから削除したりすることはできません。
   - 最小期間でビデオを削除するには、**[最小]** を選択します。**[最小]** を選択した場合、本システムは指定した期間の間カメラからビデオを保存しようとします。ただし、必要に応じて、サーバー上にデータを保存するように設定されている他のカメラの時間が短縮されます。有効期限構成設定の違反を避けるために、すべてのカメラからのビデオの録画が停止される場合があります。
4. **[日数]** リストから、期間を選択します。

   注記： システム内のすべてのカメラに期間を適用するには、**[有効期限構成]** 領域の **[タイプ] および [日数]** リストを使用してください。
5. **[適用]** をクリックします。

［拡張］タブ

［拡張］タブでは、S シリーズシステム上のストレージ装置を構成できます。詳細については、「**S シリーズシステム上でのストレージドライブの構成**」を参照してください。



図34.[ストレージ] ウィンドウの [拡張] タブ

S シリーズシステム上でのストレージドライブの構成

S シリーズシステム上でストレージドライブを構成するには、以下の手順を実行します。

1. [ポータル] ペインで、**［追加］**をクリックします。
2. S シリーズシステムの IP アドレスを **［IP アドレス］**フィールドに入力します。
3. [ターゲット] ペインで、本システムの **［有効］**チェックボックスを選択します。
4. **［適用］**をクリックします。

［ハードウェア］タブ

[ハードウェア]タブで、ハードディスクの使用を準備し、本システム内の各ハードドライブおよびRAIDコントローラーに関する情報を検索できます。**[ハードウェア]**タブの機能の詳細については、「**表42.［ストレージ］ウィンドウの [ハードウェア]タブ**」を参照してください。

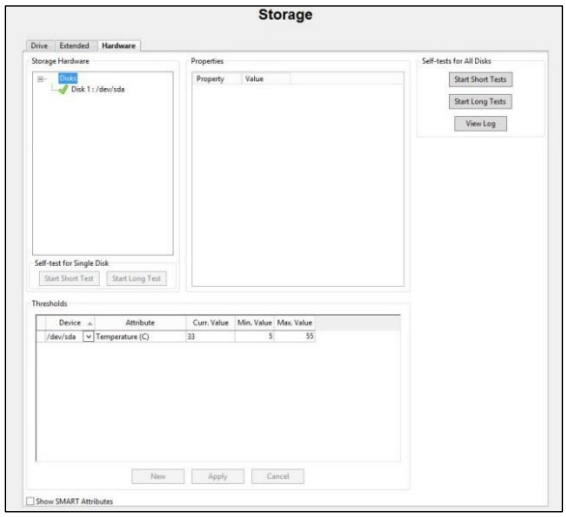


図35.[ストレージ]ウィンドウの[ハードウェア]タブ

インターフェース要素	説明
[ストレージハードウェア］ペイン	システムにインストールされているすべての RAID コントローラーおよびハードドライブのリストを表示します。
	ドライブまたはコントローラーがアラーム状態になっている場合、それは赤色で表示されます。アラーム状態には、アレイの再構築、高温のドライブ、ドライブ検証エラー、ドライブの削除、および新規ドライブが含まれます。
	RAID ストレージアレイ付きの新しいシステムの場合、ツリーまたはグラフィック形式でドライブ情報を表示できます。
［単一のディスクの自己テスト］ペイン	個々のドライブの自己テストを実行します。LSI RAID カードを通じて接続するホットスペアドライブはテストに失敗します。
	短いテストを実行するには、**［短いテストの開始］**をクリックします。
	長いテストを実行するには、**［長いテストの開始］**をクリックします。
［プロパティ］ペイン	**［ストレージハードウェア］**リストから選択する、ドライブまたはコントローラーのプロパティのリストを表示します。
［しきい値］ペイン	ハードディスクの温度しきい値を変更します。
	ハードディスクの温度を変更するには、**［ドライブ］**リストからハードディスクを選択し、**［最小値］**フィールドと **［最大値］**フィールドに最小および最大温度を入力します。次に、**［適用］**をクリックします。
［スマート属性］ペイン	ハードドライブメーカーが提供する、現在の値および属性の動作しきい値を表示します。
［すべてのディスクの自己テスト］ペイン	Western Digital ハードドライブの短いテストまたは長いテストを起動します。
	短いテストは、2、3 分間実行されるもので、性能に大きく影響することはありません。これは、電気的テストと機械的テストを実行し、ディスクに対するアクションの書き込みおよび読み取りを検証します。
	長いテストは、ディスク活動に応じて 1 時間以上実行されますが、性能に大きく影響することはありません。これは、電気的テストと機械的テストを実行し、ディスクに対するアクションの書き込みおよび読み取りを検証します。
［すべてのディスクの準備］ペイン	サーバー内のすべてのディスクの使用を準備するには、**［準備の開始］**をクリックします。ハードドライブの準備により、そのドライブ上のすべてのデータが削除されます。
［ログの表示］ボタン	短いテストまたは長いテストの結果のログを表示します。

表42.[ストレージ]ウィンドウの[ハードウェア]タブ

ハードドライブの準備

サーバー内のハードドライブを交換した後には、ハードドライブの使用を準備する必要があります。

注意：ハードドライブの準備により、そのドライブ上のすべてのデータが削除されます。

注記：この機能は、exacqVision Start では使用できません。

ハードドライブの使用を準備するには、以下の手順を実行します。

1. [ストレージハードウェア]ペインから、準備するドライブを選択します。
2. [プロパティ]ペインで、**[準備の開始]** をクリックします。
3. **[OK]** をクリックします。

[ネットワーク] タブ

[ネットワーク] タブでは、アーカイブ用または拡張ストレージ用にSシリーズシステム内でドライブを割り当てることができます。詳細については、**「表43.[ネットワーク] タブ」** を参照してください。

インターフェース要素	説明
[名前] フィールド	S シリーズサーバー上にインストールされたドライブのリストを表示します。
[サイズ] フィールド	ドライブのサイズを表示します。
[タイプ] リスト	アーカイブまたは拡張ストレージ用のドライブを割り当てるには、**[タイプ]** リストからオプションを選択します。
[サーバーアドレス] フィールド	サーバーの IP アドレスを表示します。
[IQN/アドレス] フィールド	iSCSI ドライブのアドレスを表示します。
[ステータス] フィールド	ドライブの状態を表示します。

表43.[ネットワーク]タブ

[通知] ウィンドウ

[通知] ウィンドウでは、**[電子メールメッセージプロファイル]** タブ、**[電子メールサーバー]** タブ、および **[Web サーバー]** タブにアクセスできます。これらのタブでは、イベントの発生時に電子メールまたはテキストメッセージ通知を送信するように、exacqVision システムを構成できます。いつ通知を送信するのかを設定するには、「**[イベントリンク] ウィンドウ**」を参照してください。

注記：[通知] ウィンドウは、exacqVision Start では使用できません。

[電子メールメッセージプロファイル] タブ

[電子メールメッセージプロファイル] タブでは、電子メール通知を作成し、構成できます。詳細については、「**電子メール**」を参照してください。**[電子メールメッセージプロファイル]** タブの機能の詳細については、「**表44. [通知] ウィンドウの [電子メールメッセージプロファイル] タブ**」を参照してください。

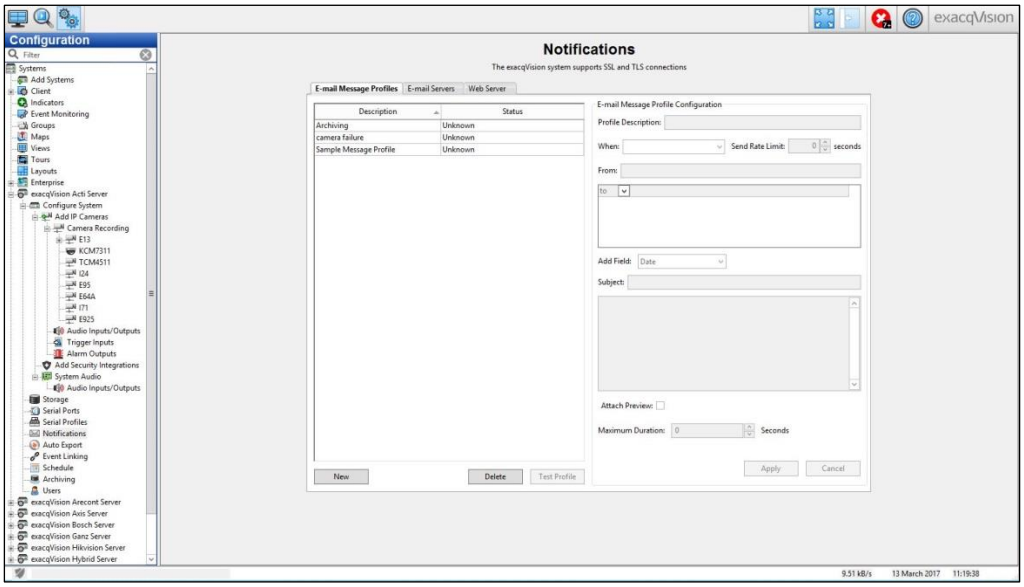


図36.[通知] ウィンドウの [電子メールメッセージプロファイル] タブ

インターフェース要素	説明
[プロファイルのテスト]ボタン	通知電子メールをテストするには、リストからプロファイル電子メールを選択し、**[プロファイルのテスト]**をクリックします。
[とき]リスト	通知電子メールが送信されるときを決定します。デフォルトの状態は**[アラームの開始]**です。
	イベントが開始したときに通知電子メールを送信するには、**[アラームの開始]**を選択します。
	イベントの後に通知電子メールを送信するには、**[アラームの終了]**を選択します。
	イベントの開始時とイベントの終了後に通知電子メールを送信するには、**[アラームの開始と終了]**を選択します。
[送信速度制限]リスト	送信される電子メール通知間の最小秒数を調整するには、**[送信速度制限]**リストを使用します。電子メール通知間の秒数を調整すると、不要な電子メールを減らすことができます。たとえば、モーションイベントが発生するたびに通知電子メールが送信されるように構成した場合、激しい雷雨の間中、何千もの電子メールが送信される可能性があります。**[送信速度制限]**を調整すると、このような通知が減ります。
[プレビューの添付]チェックボックス	ビデオクリップまたはイベントの画像を電子メール通知に添付します。
	カメラが H.264 または MPEG-4 形式でストリーミングされている場合、画像の代わりに、ビデオクリップが電子メール通知と共に送信されます。
[メッセージ]フィールド	**[メッセージ]**フィールドでは、カメラの名前、日付、時刻、シリアル情報、MAC アドレス、およびリンクをビデオに挿入できます。

表44.[通知]ウィンドウの[電子メールメッセージプロファイル]タブ

電子メール通知プロファイルの作成

電子メール通知プロファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[新規]** をクリックします。
2. **[プロファイルの説明]** フィールドに、電子メールの内容の短い説明を入力します。

   注記： この説明は、**[イベントリンク]** ウィンドウ内の **[アクションターゲット]** フィールドにも表示されます。
3. **[差出人]** フィールドには、電子メールを送信する人の電子メールアドレスを入力します。**[宛先]** フィールドには、受信者の電子メールアドレスを入力します。
4. 電子メールの件名を入力し、**[メッセージ]** フィールドに電子メールメッセージを入力します。詳細については、「**表44. [通知] ウィンドウの [電子メールメッセージプロファイル]** タブ」を参照してください。
5. **[適用]** をクリックします。

［電子メールサーバー］タブ

[電子メールサーバー] タブでは、通知を送信するために送信 SMTP（Simple Mail Transfer Protocol：簡易メール転送プロトコル）メールサーバーを構成できます。送信 SMTP メールサーバーを構成するには、「**送信 SMTP メールサーバーの構成**」を参照してください。**[電子メールサーバー]** タブの詳細については、「**表45.［通知］ウィンドウの［電子メールサーバー］タブ**」を参照してください。メールサーバーオプションの詳細については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

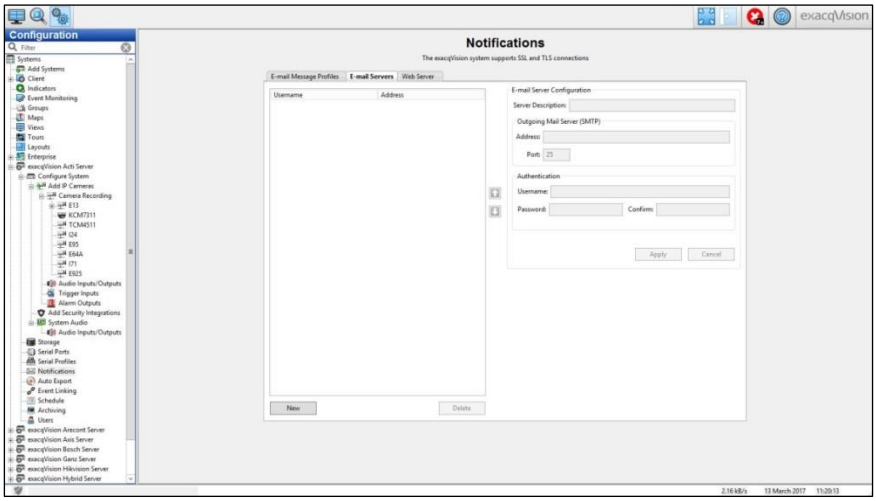


図37.[通知] ウィンドウの [電子メールサーバー] タブ

インターフェース要素	説明
［認証］領域	電子メールサーバーを認証するには、ユーザー名とパスワードを **［ユーザー名］** フィールドと **［パスワード］** フィールドに入力し、そのパスワードを **［確認］** フィールドに再度入力することでパスワードを確認します。
［電子メールサーバー］リスト	電子メールサーバーのリストを表示します。
	1 つ以上の電子メールサーバーを構成する場合、exacqVision システムは通知をリストの 1 番目のサーバーに送信します。その通知が電子メールサーバーに到達しなかった場合、exacqVision システムはリストに記載されている次のサーバーにもう 1 つの通知を送信します。この処理は、通知が正常に送信されるまで続けられます。
	電子メールサーバーリストの順番を変更するには、リストからサーバーを選択してから、**矢印**アイコンを使用します。

表45.[通知] ウィンドウの [電子メールサーバー] タブ

送信 SMTP メールサーバーの構成

送信 SMTP メールサーバーを構成するには、以下の手順を実行します。

1. **[新規]** をクリックします。
2. **[サーバーの説明]** フィールドに、サーバーの名前を入力します。
3. **[送信メールサーバー]** 領域に、送信メールサーバーの IP アドレスとポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は 25 です。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - SSL/TLS
   - STARTTLS

   注記： Microsoft Office 365 を使用している場合は、**[STARTTLS]** を選択します。
5. **[適用]** をクリックします。

[Web サーバー] タブ

[Web サーバー] タブでは、電子メール通知に関連付けられるビデオへの直接リンクを含めるように、電子メール通知を構成できます。電子メール通知に直接リンクを含めるには、**[アドレス]** フィールドにWebサービスのIP アドレスを入力し、**[適用]** をクリックします。

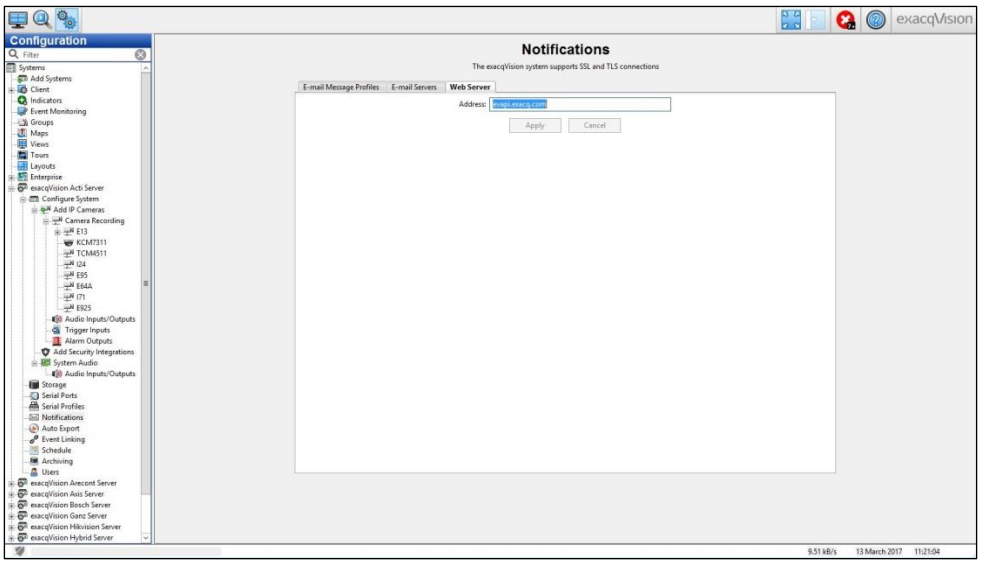


図38.[通知] ウィンドウの [Web サーバー] タブ

テキストメッセージ通知の作成

exacqVision システムでは、自動テキストメッセージ通知を送信することもできます。テキストメッセージ通知を作成するには、以下の手順を実行します。

1. 通知したいすべての電話番号とそれらのサービスプロバイダーのリストを作成します。
2. サービスプロバイダーの電子メールからテキストへのサービスゲートウェイアドレスを入手します。このアドレスは、サービスプロバイダーの公開されている Web サイトに掲載されています。
3. お使いの電子メールアドレスの電子メールサーバーと通知プロファイルを作成し、イベントの発生時に通知を送信するためにイベントリンクを構成することにより、既存の電子メールサーバー接続のテストを行います。電子メールサーバーとメッセージプロアイルの作成方法の詳細については、「**[通知]** ウィンドウ」を参照してください。イベントリンクの構成方法の詳細については、「**[イベントリンク] ウィンドウ**」を参照してください。
4. 新しいプロファイルを **[通知]** ウィンドウに追加します。新規プロファイルの追加方法の詳細については、「**電子メール**」を参照してください。

   注記：[受信者] フィールドに、phonenumber@vnet.net という形式を使用して受信者の電話番号を入力します。一部のサービスプロバイダーは、メッセージの件名行を表示しません。それでも、[件名]フィールドには少なくとも 1 文字を入力する必要があります。
5. **[イベントリンク]** ウィンドウで、新しいテキストメッセージプロファイルのイベントを 1 つ以上構成します。イベントの構成方法の詳細については、**「[イベントリンク] ウィンドウ」**を参照してください。

[自動エクスポート] ウィンドウ

[自動エクスポート] ウィンドウでは、自動エクスポートプロファイルを作成し、CD、DVD、ハードドライブ、またはリムーバブルドライブを使用して、指定した入力からローカルサーバーにデータをエクスポートします。詳細については、「**自動エクスポートプロファイルの作成**」および「**CD、DVD、またはドライブへのデータのエクスポート**」を参照してください。**[自動エクスポート]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表46.[自動エクスポート] ウィンドウの [プロファイルの編集] ペイン**」と「**表47.[自動エクスポート] ウィンドウの [活動、ドライブ、およびメディアの状態] ペイン**」を参照してください。

注記：[自動エクスポート] ウィンドウは、exacqVision Start では使用できません。

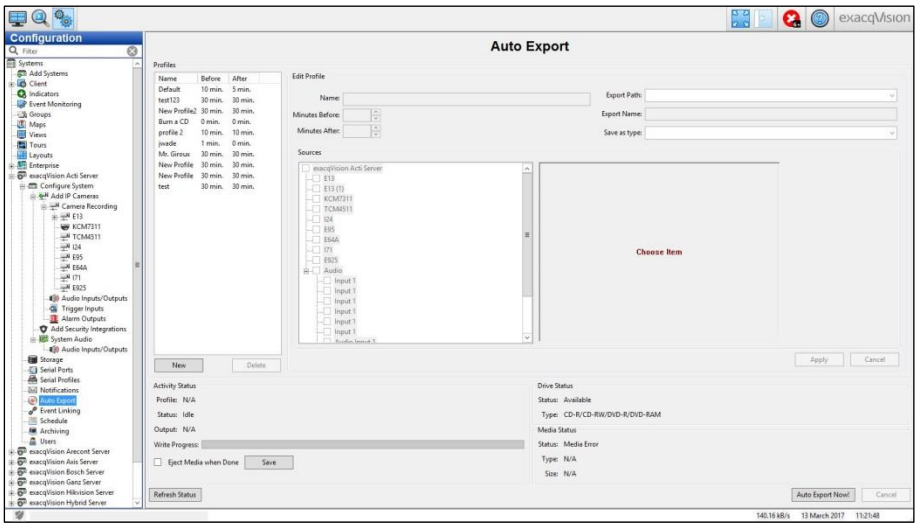


図39.[自動エクスポート] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[前の数分] リスト	自動エクスポートが開始する前に、プロファイルエクスポートに含めるビデオの分数を選択するには、**[前の数分]** リストを使用します。
[後の数分] リスト	自動エクスポートが開始した後に、エクスポートに含めるビデオの分数を選択するには、**[後の数分]** リストを使用します。
[エクスポート名] フィールド	自動エクスポート用の異なる名前を生成するには、{date format} と「**表48. 変数**」からの組み合わせを入力します。 例：{date format = "video automatically exported on %x at %X"} または {date format = "%H, %M, %S, %x"}
[PS ファイルのみをエクスポート] チェックボックス	4 GB 以上で、最大 137 GB のファイルをエクスポートします。システムでサポートされるのは .ps ファイルのみです。**[PS ファイルのみをエクスポート]** チェックボックスを選択しないと、ファイルは .exe 形式でエクスポートされます。

表46.[自動エクスポート] ウィンドウの [プロファイルの編集] ペイン

インターフェース要素	説明
[ドライブの状態] ペイン	互換性のある形式の、書き込み可能な CD/DVD ドライブがあるかどうかを表示します。
[メディアの状態] ペイン	空白のディスクがドライブ内にあるかどうか、およびその空白のディスクの形式と記憶領域のサイズを表示します。
[完了時にメディアを取り出す] チェックボックス	ディスクへのデータのエクスポートが終了すると、CD/DVD ドライブが自動的に開くように構成します。物理システム上のドライブの扉にラッチが掛かっている場合、そのドライブを開くことはできません。自動的に開くように CD/DVD ドライブを構成するには、**[完了時にメディアを取り出す]** チェックボックスを選択し、**[保存]** をクリックします。
[状態の更新] ボタン	**[活動の状態]** ペインの情報を更新します。
[今すぐ自動エクスポート] ボタン	指定された出力へのデータのエクスポートを開始します。
[活動の状態] ペイン	エクスポートの状態と書き込みの進行状況を表示します。

表47.[自動エクスポート]ウィンドウの[活動、ドライブ、およびメディアの状態]ペイン

表48には、自動エクスポート用の名前を生成するために使用できる変数のリストが示されています。

変数	説明
%a	曜日の省略形
%A	曜日の名前
%b	月の省略形
%B	月の名前
%c	全日/時間
%d	月間通算日
%H	時間 (24 時間形式)
%I	時間 (12 時間形式)
%j	年間通算日
%m	月 (01-12)
%M	分
%p	AM/PM
%S	秒
%U	年間通算週 (Su から開始)
%w	曜日 (Su=0, Mo=1)
%W	年間通算週 (Mo から開始)
%x	日付 (xx/xx/xx)
%X	時刻 (xx:xx:xx)
%y	年の下 2 桁
%Y	年 (20xx)
%Z	タイムゾーン省略形
%%	パーセント記号

表48.変数

自動エクスポートプロファイルの作成

自動エクスポートプロファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[新規]** をクリックします。
2. **[プロファイルの編集]** 領域で、プロファイルの名前を **[名前]** フィールドに入力します。
3. **[前の分数]** リストから分数を選択します。
4. **[後の分数]** リストから分数を選択します。
5. **[エクスポートパス]** リストで、エクスポートファイルの保存先を選択します。**[ドライブ]** を選択した場合、**[エクスポート名]** フィールドにドライブの名前を入力します。

   注記：Windows の共有ディレクトリはリストに含まれません。
6. **[ソース]** リストから、自動エクスポートプロファイルに含めるカメラを選択します。
7. **[適用]** をクリックします。

   注記：プロファイルを **[イベントリンク]** ウィンドウにリンクするまで、システムではプロファイルを使用できません。詳細については、「**[イベントリンク] ウィンドウ**」を参照してください。

CD、DVD、またはドライブへのデータのエクスポート

CD、DVD、またはドライブにデータをエクスポートするには、以下の手順を実行します。

1. **[自動エクスポート]** ウィンドウで、**[今すぐ自動エクスポート]** をクリックします。
2. **[エクスポートする項目]** リストから、機器を選択します。
3. エクスポートの開始および終了の日時を選択します。
4. エクスポート先を選択し、パスを入力します。
5. **[エクスポートの開始]** をクリックします。

[イベントリンク] ウィンドウ

イベントリンク機能は、検索オプションにリンクされたアクションを含めることにより、検索の精度を高めます。**[イベントリンク]** ウィンドウでは、入力トリガーの有効化などのさまざまなイベントを、ビデオの録画やアラームのトリガーなどのアクションと関連付けることができます。詳細については、「**イベントリンクの作成**」および「**表49. [イベントリンク] ウィンドウ**」を参照してください。

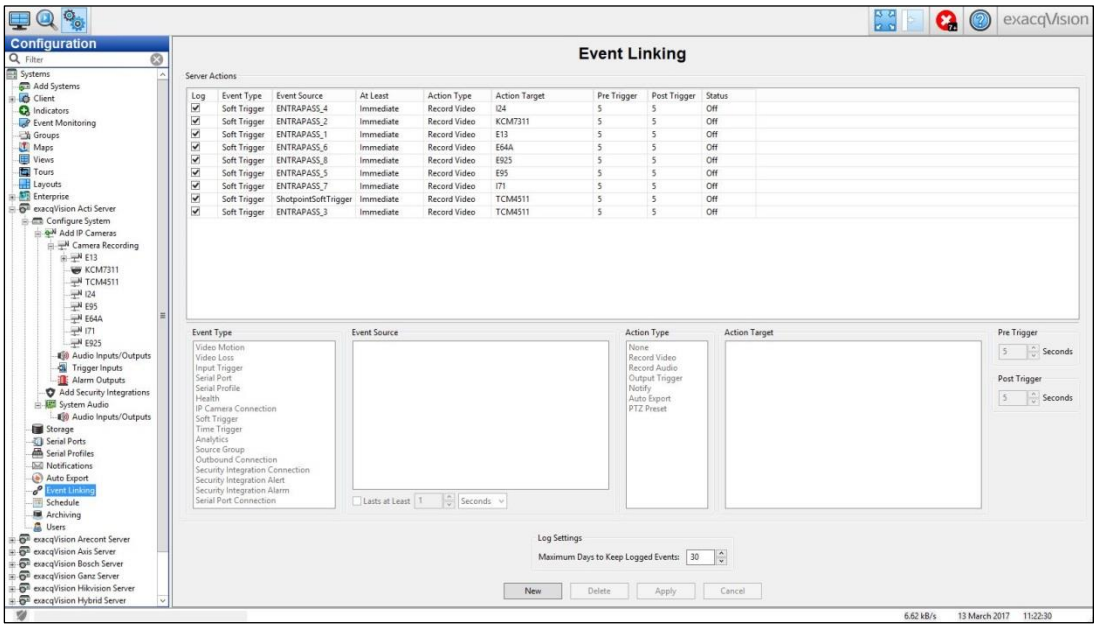


図40.[イベントリンク] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[サーバーアクション] リスト	イベントのリストを表示します。
[イベントタイプ] リスト	考えられるイベントのリストを表示します。詳細については、「**表50. イベントタイプとイベントソース** 」を参照してください。入力トリガーとソフトトリガーは、exacqVision Start でのみ利用可能なイベントタイプです。
[イベントソース] リスト	イベントソースのリストを表示します。一部のオプションは、**[新規]**、[編集]、および **[削除]** ボタンを使用してイベントソースを作成、編集、または削除することができます。
	[イベントソース] リストは、アクションが行われ、システムがイベントをログに記録する前に、アラームが発生する期間を設定します。デフォルト値は、[Immediately (即時)] です。イベントソース時間を設定するには、**[少なくとも継続]** チェックボックスを選択し、秒数、分数、または時間数を選択します。
[アクションタイプ] リスト	考えられるアクションのリストを表示します。詳細については、「**表51. [イベントリンク] ウィンドウのアクションタイプとアクションターゲット**」を参照してください。
[アクションターゲット] リスト	考えられるターゲットのリストを表示します。詳細については、「**表51. [イベントリンク] ウィンドウのアクションタイプとアクションターゲット**」を参照してください。
[トリガー前] リスト	イベントが発生する前に、保存するためにバッファされるデータの量を決定します。
[トリガー後] リスト	イベントの発生後に、**[アクションタイプ]** リストから選択したアクションの実行を継続する期間を決定します。
[ログ設定] 領域	本システムでイベントをイベントデータベースに保存する期間を決定します。イベントを保存できる最大時間は、365 日間です。

表49.[イベントリンク] ウィンドウ

イベントリンクの作成

イベントリンクを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[新規]** をクリックします。
2. **[イベントタイプ]** リストから、イベントを選択します。**[イベントタイプ] リスト**で利用可能なオプションの詳細については、「**表50. イベントタイプとイベントソース**」を参照してください。
3. **[イベントソース]** リストから、イベントソースを選択します。**[イベントソース]** リストで利用可能なオプションの詳細については、「**表50. イベントタイプとイベントソース**」を参照してください。

   注記：[イベントタイプ] リストで **[ソフトトリガー]**、**[時間トリガー]**、または **[ソースグループ]** を選択すると、**[新規]**、**[編集]**、または **[削除]** ボタンを使用して **[イベントソース]** リストを作成するか、編集できます。
4. **[アクションタイプ]** リストから、アクションを選択します。**[アクションタイプ]** リストで利用可能なオプションの詳細については、「**表51. [イベントリンク] ウィンドウのアクションタイプとアクションターゲット**」を参照してください。
5. **[アクションターゲット]** リストから、ターゲットを選択します。**[アクションターゲット]** リストで利用可能なオプションの詳細については、「**表51. [イベントリンク] ウィンドウのアクションタイプとアクションターゲット**」を参照してください。

   注記：[イベントタイプ]、**[イベントソース]**、**[アクションタイプ]**、および **[アクションターゲット]** リストで利用可能なオプションの詳細については、「**表50. イベントタイプとイベントソース** 」および「**表51. [イベントリンク] ウィンドウのアクションタイプとアクションターゲット**」を参照してください。
6. **[適用]** をクリックします。

表50では、[**イベントリンク**]ウィンドウと[**イベント監視**]ウィンドウの[**イベントタイプ**]リストと[**イベントソース**]リストに表示されるオプションの説明を確認できます。

イベントタイプ	イベントタイプの説明	イベントソース
ビデオモーション	カメラがモーションを検出します。	exacqVision サーバーに接続するカメラ。
ビデオ喪失	アナログビデオ信号が切断されています。	exacqVision サーバーに接続するアナログカメラ。
入力トリガー	アラーム入力によってサーバーまたは IP カメラ上でトリガーを有効にします。	サーバーまたはそのサーバーに接続する IP カメラの背後での入力トリガー。[トリガー入力] ウィンドウでデフォルトの機器と入力番号をカスタマイズできます。
シリアルポート	[**シリアルプロファイル**] ウィンドウで入力された事前に選択済みのポート上でキーワードを検出します。	サーバー上で構成するシリアルポート。詳細については、「[**シリアルポート**] ウィンドウ」を参照してください。
シリアルプロファイル	そのプロファイルを持つシリアルポート上でキーワードを検出します。	構成するシリアルプロファイル。シリアルプロファイルに関連付けられているすべてのキーワードとルールを選択するには、プロファイルの名前を選択します。
健全性	システムは、exacqVisionサーバーハードウェア、アクセス制御デバイス、侵入デバイス、および入力の健全性に関する問題を検出します。	exacqVisionサーバーを接続するセキュリティ統合。
		デバイスのステータスについては、[**セキュリティ統合**] **ウィンドウ**を参照してください。
IP カメラ接続	ネットワークは IP カメラに接続できません。	exacqVision サーバーに接続する IP カメラ。
ソフトトリガー	信号はクライアントからサーバーへ送信されます。	デフォルト名で新しいソフトトリガーを作成するには、[**新規**]を選択します。事前に定義されたソフトトリガーをリストから選択することもできます。
		ソフトトリガーの名前を変更するには、その名前をダブルクリックします。
		ソフトトリガーを削除するには、[**削除**] をクリックします。
時間トリガー	イベントがその時間に達します。	トリガーの開始および終了日時を設定するには、[**新規**] をクリックします。
分析	ビデオ分析イベントを検出します。	ビデオ分析イベントのリスト。
ソースグループ	詳細なイベントリンクの複数のイベントタイプ。	イベントタイプとイベントソースの組み合わせを選択し、それらをトリガーするかどうかを決定するには、[**新規**] を選択します。

表50.イベントタイプとイベントソース

表51では、[**イベントリンク**]ウィンドウの[**アクションタイプ**]リストと[**アクションターゲット**]リストに表示されるオプションの説明を確認できます。

アクションタイプ	アクションタイプの説明	アクションターゲット
なし	アクションは実行されません。システムにより、イベントデータベースにイベントが記録されます。そのイベントを［検索］ウィンドウで検索できます。	アクションターゲットは利用できません。
録画されたビデオ。	ビデオを録画します。	exacqVision サーバーに接続するカメラ。
記録された音声	音声を記録します。	exacqVision サーバーに接続する音声入力。
出力トリガー	サーバーまたは IP カメラの背後にある有線の出力トリガーが有効になります。	exacqVision サーバーまたは IP カメラの背後にある出力トリガー。
出力ビデオ 1	アナログモニターが、ユーザーが選択したカメラの全画面表示に切り替わります。	exacqVision サーバーに接続する任意のアナログカメラ。
通知	**[通知]** ウィンドウで作成したプロファイルに従って、電子メール通知が送信されます。	**[通知]** ウィンドウで構成するプロファイルのいずれか。
自動エクスポート	データが自動エクスポートプロファイル内の CD/DVR 機器に保存されます。詳細については、「**[自動エクスポート]** ウィンドウ」を参照してください。	**[自動エクスポート]** ウィンドウで構成するプロファイルのいずれか。
PTZ プリセット	カメラが特定の方向を指し示します。詳細については、「**[機械的** PTZ] タブ」を参照してください。	**[カメラ設定]** ウィンドウの **[機械的 PTZ]** タブでカメラに関連付けたプリセットのいずれか。

表51.[イベントリンク]ウィンドウのアクションタイプとアクションターゲット

［イベント監視］ウィンドウ

[イベント監視] ウィンドウでは、接続されたサーバー内で発生するイベントに反応するように exacqVision クライアントを構成できます。イベントに反応するように exacqVision クライアントを構成する前に、イベント監視プロファイルを作成する必要があります。イベント監視プロファイルは、モーションまたはトリガー入力などのイベントによりトリガーされる、ライブビデオの表示やサウンドのトリガーなどの一連のアクションです。イベント監視プロファイルを作成した後で、そのプロファイルを有効にし、**[ライブ]** ウィンドウを使用してカメラをそれに割り当てます。イベント監視プロファイルを作成するには、「**イベント監視プロファイルの作成**」を参照してください。**[イベント監視]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表52.［イベント監視］ウィンドウの［プロファイル］ペイン**」と「**表53.［イベント監視］ウィンドウの［クライアントアクション］ペイン**」を参照してください。

注記［イベント監視］ウィンドウは exacqVision Start では使用できません。

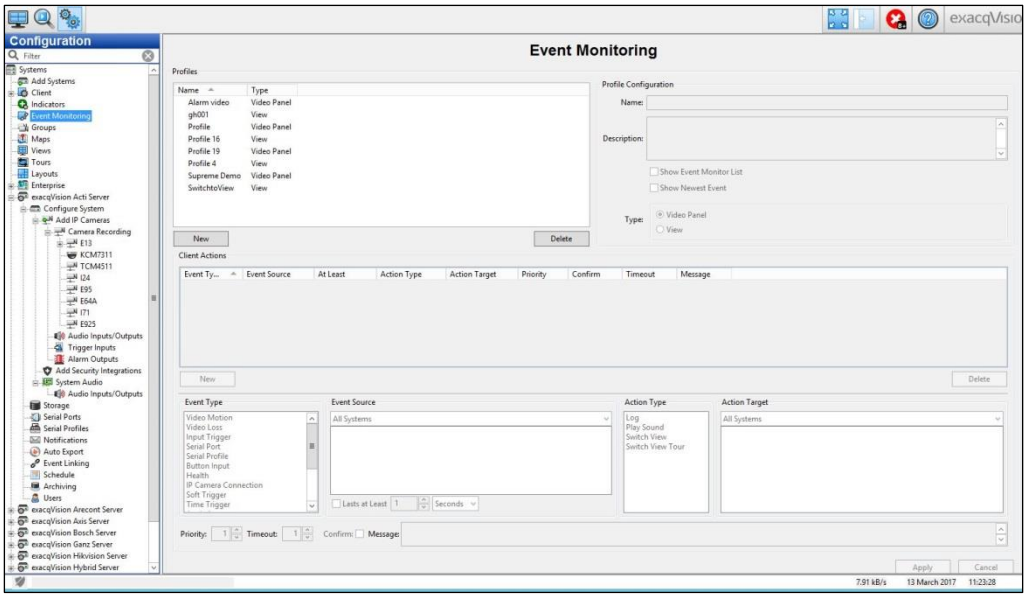


図41.[イベント監視] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
［プロファイル］リスト	イベント監視プロファイルのリストを表示します。
［イベントモニターリストを表示］チェックボックス	監視している 1 つ以上のイベントの発生時にイベントを確認するために、**［ライブ］** ウィンドウにウィンドウを自動的に表示するには、**［イベントモニターを表示］** チェックボックスを選択します。
［最新のイベントを表示］チェックボックス	より優先度の高い別のイベントが同時に発生しない限り、必ず最新のイベントを表示するようにするには、**［最新のイベントを表示］** チェックボックスを選択します。詳細については、「**表53.［イベント監視］ウィンドウの［クライアントアクション］ペイン**」を参照してください。
［タイプ］領域	特定のイベントの発生時に **［ライブ］** ウィンドウ内で単一のカメラを表示するには、**［ビデオパネル］** を選択します。
	特定のイベントの発生時に事前に構成された視野を表示するには、**［表示］** を選択します。

表52.[イベント監視] ウィンドウの [プロファイル] ペイン

インターフェース要素	説明
[クライアントアクション] リスト	その発生時に exacqVision クライアントが反応するイベントのリストを表示します。
[イベントタイプ] リスト	考えられるイベントのリストを表示します。詳細については、「**表50. イベントタイプとイベントソース** 」を参照してください。入力トリガーとソフトトリガーは、exacqVision Start でのみ利用可能なイベントタイプです。
[イベントソース] リスト	[**イベントソース**] リストの内容は、[**イベントタイプ**] リストで選択したオプションとその構成によって決まります。詳細については、「**表50. イベントタイプとイベントソース** 」を参照してください。
	イベントが互いに似ているため、各イベント用に別個のプロファイルを作成したくない場合は、[**イベントソース**] リストから [**すべて**] を選択し、[**アクションタイプ**] リストから [**ビデオの切り替え**] を選択します。その後、[**アクションタイプ**] リストに、同じイベントソースでアクションを作成するオプションが含まれます。
[アクションタイプ] リスト	[**イベントタイプ**] リストからのイベントの発生時に発生する可能性のあるアクションのリストを表示します。リストからアクションを選択すると、ターゲットアクションのリストが [**アクションターゲット**] リストに表示されます。
	[**アクションターゲット**] リストの内容は、[プロファイル構成] ペインの [**タイプ**] 領域で選択したプロファイルタイプのオプションによって決まります。[**タイプ**] 領域のオプションの詳細については、「**表52. [イベント監視] ウィンドウの [プロファイル] ペイン**」を参照してください。
[アクションターゲット] リスト	考えられるターゲットのリストを表示します。詳細については、「**表54. [イベント監視] ウィンドウのアクションタイプとアクションターゲット**」を参照してください。
[優先度] リスト	優先度レベルをアクションに割り当てます。最も高い優先度は 1 で、最も低い優先度は 10 です。異なるイベントタイプが同時に発生した場合、より高い優先度レベルのイベントが、確認されるまで表示されます。その後、より低い優先度のイベントが表示されます。
[タイムアウト] リスト	イベントが [**ライブ**] ウィンドウに表示される長さを決定します。[プロファイル構成] ペインで [**イベントモニターリストを表示**] を選択した場合にのみ、このオプションが利用可能になります。
	0 を選択すると、イベントは、確認されるまでの間表示されます。
[確認] チェックボックス	イベントがリストから削除される前に、イベントの削除を確認するには、[**確認**] チェックボックスを選択します。[プロファイル構成] ペインで [**イベントモニターリストを表示**] を選択した場合にのみ、このオプションが利用可能になります。
[メッセージ] フィールド	イベントの発生時に表示するメッセージを入力します。 [プロファイル構成] ペインで [**イベントモニターリストを表示**] を選択した場合にのみ、このオプションが利用可能になります。

表53.[イベント監視] ウィンドウの [クライアントアクション] ペイン

イベント監視プロファイルの作成

イベント監視プロファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

1. [プロファイル]ペインで、**[新規]** をクリックします。
2. [プロファイル構成]ペインで、プロファイルの名前と説明を入力します。
3. 以下のいずれかのプロファイルタイプを選択します。
   - ビデオパネル
   - ビュー
4. **[イベントタイプ]** リストから、イベントを選択します。**[イベントタイプ]** リストで利用可能なオプションの詳細については、「**表50. イベントタイプとイベントソース**」を参照してください。
5. **[イベントソース]** リストから、イベントソースを選択します。**[イベントソース]** リストで利用可能なオプションの詳細については、「**表50. イベントタイプとイベントソース**」を参照してください。

   注記： ソースごとに別個のプロファイルを作成したくない場合は、イベントソースとして **[すべて]** を選択できます。イベントソースとして **[すべて]** およびアクションタイプとして **[ビデオの切り替え]** を選択した場合、**[アクションタイプ]** リストには、同じイベントソースでアクションを作成するためにイベントソースオプションが表示されます。
6. **[アクションタイプ]** リストから、アクションを選択します。**[アクションタイプ]** リストで利用可能なオプションの詳細については、「**表54. [イベント監視] ウィンドウのアクションタイプとアクションターゲット**」を参照してください。
7. **[アクションターゲット]** リストから、ターゲットを選択します。**[アクションターゲット]** リストで利用可能なオプションの詳細については、「**表54. [イベント監視] ウィンドウのアクションタイプとアクションターゲット**」を参照してください。
8. **[適用]** をクリックします。

表54では、[**イベント監視**] ウィンドウの [**アクションタイプ**] リストと [**アクションターゲット**] リストに表示される利用可能なオプションの説明を確認できます。

アクションタイプ	アクションタイプの説明	アクションターゲットのオプション
ログ（ビデオパネルまたはビュー）	イベントの通知をシステムログファイルに保存します。	アクションターゲットは利用できません。
サウンドの再生（ビデオパネルまたはビュー）	サウンドを再生します。	サウンドのリスト。
音声の切り替え（ビデオパネル）	カメラから音声を再生します。	音声をサポートする接続されているすべてのシステム上で、またはリストから選択したシステム上で構成しているすべてのカメラ。
ビデオの切り替え（ビデオパネル）	カメラからビデオを表示します。	接続されているすべてのシステム上、またはリストから選択したシステム上で構成しているすべてのカメラ。
デジタルプリセット（ビデオパネル）	カメラ上で構成する PTZ プリセットを表示します。	接続されているすべてのシステム上、またはリストから選択したシステム上で構成しているすべての ＰＴＺ プリセット。
表示の切り替え（ビュー）	特定のイベントが発生するまで、単一のビューを表示します。	exacqVision クライアントで構成したビュー。このビューは、イベントの発生時に自動的に表示されます。
表示ツアーの切り替え（ビュー）	特定のイベントが発生するまで、ツアーを表示します。	exacqVision クライアントで構成したツアー。このツアーは、イベントの発生時に自動的に表示されます。

表54.[イベント監視] ウィンドウのアクションタイプとアクションターゲット

[ライブ] ウィンドウでのイベントプロファイルの表示

[ライブ] ウィンドウでイベントプロファイルを表示するには、以下の手順を実行します。

1. [**ライブカメラの表示**] アイコンをクリックします。
2. [**ライブ**] ウィンドウで、[**ビュー**] を選択します。

[スケジュール] ウィンドウ

[スケジュール] ウィンドウで、録画スケジュールを作成できます。**[スケジュール]** ウィンドウには、**[曜日]** タブと **[ソース]** タブという 2 つのタブがあります。**[曜日]** タブでは、システム内の接続されているすべての機器のスケジュールを作成できます。**[ソース]** タブでは、接続されている単一の機器のスケジュールを作成できます。デフォルトで、exacqVision システムはすべてのモーションとイベントを録画するためのスケジュールを構成します。

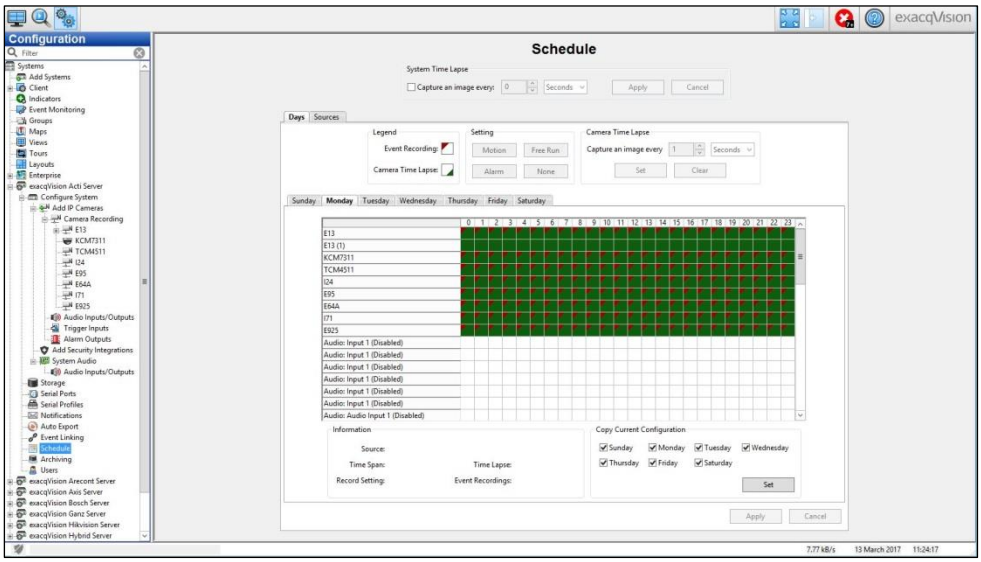


図42.[スケジュール] ウィンドウ

[スケジュール] モード

スケジュールの作成時、録画設定の 4 つのモードから選択できます。詳細については、「**表 55.録画設定モード**」を参照してください。

録画モード	色	説明
モーション	青	すべてのモーションを録画するか、アラームの発生時に録画します。
自由実行	緑	継続的に録画します。自由実行録画は、大量のディスク領域を使用します。
アラーム	赤	アラームの発生時に録画します。
なし	白	録画しません。

表55.録画設定モード

[曜日] タブ

[曜日] タブでは、システム内の接続されているすべての機器のスケジュールを作成できます。スケジュールを作成するには、「**すべての機器のスケジュールの作成**」を参照してください。**[曜日]** タブの機能の詳細については、「**表56.[スケジュール] ウィンドウの [曜日] タブ**」を参照してください。

インターフェース要素	説明
[凡例] ペイン	スケジュールグリッドでイベント録画およびカメラタイムラプスがどのように表示されるのかを示します。
[設定] ペイン	さまざまな録画設定モードを表示します。詳細については、「**表55. 録画設定モード**」を参照してください。
[カメラタイムラプス] ペイン	すべてのカメラに対するシステム全体のタイムラプスを設定します。
[情報] ペイン	選択した日時に対するカメラの設定の詳細を表示します。カメラの設定の詳細を表示するには、グリッド内で目的の日時に対応する四角の上にカーソルを置きます。
[現在の構成のコピー] ペイン	録画スケジュールを他の曜日に適用します。スケジュールを別の曜日に適用するには、曜日のチェックボックスを選択し、**[設定]** をクリックします。

表56.[スケジュール] ウィンドウの [曜日] タブ

すべての機器のスケジュールの作成

すべての機器のスケジュールを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[曜日]** タブで、該当する曜日のタブを選択します。
2. グリッドを左クリックし、録画をスケジュールしたい曜日と対応する時間の上にボックスが描かれるまで、カーソルをドラッグします。
3. **[設定]** 領域で、録画モードを選択します。スケジュールモードの詳細については、「**表55. 録画設定モード**」を参照してください。
4. **[適用]** をクリックします。

[ソース] タブ

[ソース] タブでは、接続されている単一の機器のスケジュールを作成できます。接続されている単一の機器のスケジュールを作成するには、「**単一の機器のスケジュールの作成**」を参照してください。**[ソース]** タブの機能の詳細については、「**表57. [スケジュール] ウィンドウの [ソース] タブ**」を参照してください。

インターフェース要素	説明
[カメラ] リスト	スケジュールに利用可能なカメラのリストを表示します。
[凡例] ペイン	スケジュールグリッドでイベント録画およびカメラタイムラプスがどのように表示されるのかを示します。
[設定] ペイン	さまざまなスケジュール設定モードを表示します。詳細については、「**表55. 録画設定モード**」を参照してください。
[適用先] ボタン	カメラのスケジュールを別の機器に適用します。

表57.[スケジュール] ウィンドウの [ソース] タブ

単一の機器のスケジュールの作成

単一の機器のスケジュールを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[ソース]** タブで、**[カメラ]** リストから機器を選択します。
2. グリッドを左クリックし、録画をスケジュールしたい曜日と対応する時間の上にボックスが描かれるまで、カーソルをドラッグします。
3. **[設定]** 領域で、スケジュールモードを選択します。
4. **[適用]** をクリックします。

[アーカイブ] ウィンドウ

アーカイブは、録画されたビデオと音声データのストレージと素早いアクセスおよび検索を提供します。ブックマークおよびケースデータをアーカイブする場合、アーカイブは音声およびビデオソースのみをサポートします。シリアルデータとイベントはサポートされず、exacqVision サーバー上に残ります。アーカイブの実行中は、特にシステムが限られた帯域幅のワイドエリアネットワーク上にある場合は、ビデオの録画率が制限されることがあります。ビデオの録画率が制限されないようにするために、夜間や閉店時間などのビデオの録画率が低い時間に、アーカイブをスケジュールすることができます。

[アーカイブ] ウィンドウでは、複数の exacqVision サーバーが使用できるサーバーメッセージブロック (SMB) 共有ネットワークドライブ上のビデオと他のデータのアーカイブを作成できます。

注記：[アーカイブ] ウィンドウは exacqVision Start では使用できません。

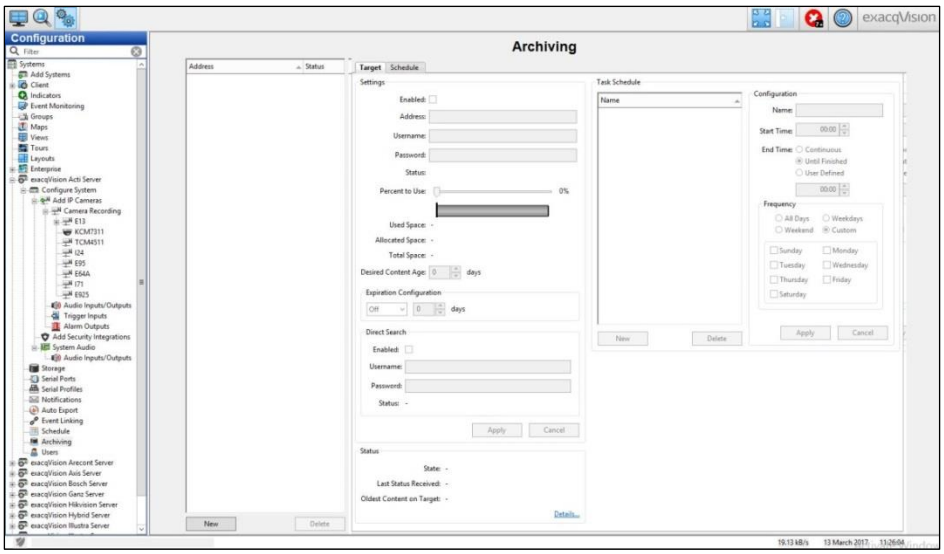


図43.[アーカイブ] ウィンドウ

［ターゲット］タブ

[ターゲット]タブでは、データ取得用に 1 つ以上の共有ネットワークドライブを構成できます。詳細については、「**表58.［スケジュール］ウィンドウの［ターゲット］タブ**」を参照してください。

インターフェース要素	説明
［状態］領域	サーバーが共有ネットワークドライブに正常に接続できるかどうかを示します。
［使用割合］スライダー	どのくらいの量のドライブをアーカイブに使用するのかを調整します。アーカイブに使用するドライブの割合を選択するには、**［使用割合］スライダー**を動かします。
	プログレスバーには、ドライブの現在の領域容量を示すためにさまざまな色が表示されます。青色は、アーカイブ用に構成している現在のドライブが使用している領域の量を示します。灰色は、未使用の領域の量を示します。赤色は、他のシステムが使用している領域の量を示します。赤色が含まれているドライブの割合を選択する場合、他のシステムはドライブのその部分をアーカイブに使用できません。
［目的とするコンテンツの経過日数］リスト	システムでデータをアーカイブする日数を選択するには、**［目的とするコンテンツの経過日数］**リストを使用します。設定した日数が経過する前にデータを削除する場合、アクションをトリガーできるイベントがシステムにより作成されます。
［有効期限の構成］領域	アーカイブされたビデオを保存できる日数に対する制限を設定します。アーカイブ内で設定した値よりも古いビデオは削除されます。データを保存する日数に対して制限を設定するには、**［最大］**を選択します。次に **［日数］**リストから日数を選択します。デフォルト値は 30 です。
［直接検索］ペイン	exacqVision サーバーを経由する必要なしに、excqVision クライアントを直接アーカイブに接続します。exacqVision クライアントをアーカイブに直接接続するには、**［有効］**チェックボックスを選択し、ユーザー名とパスワードを入力します。詳細については、「**直接検索**」を参照してください。
［状態］ペイン	現在のアーカイブタスクに関する情報を表示します。
	アーカイブタスクに関する詳細を表示するには、**［詳細］**を選択します。

表58.[スケジュール]ウィンドウの[ターゲット]タブ

アーカイブ用のドライブの構成

アーカイブ用のドライブを構成するには、以下の手順を実行します。

1. **[ターゲット]**タブで、**[新規]**をクリックします。
2. 共有ネットワークフォルダーおよびサブディレクトリのパスを**[アドレス]**フィールドに入力します。
3. 共有ネットワークドライブのユーザー名とパスワードを入力します。
4. **[使用割合]**スライダーを動かして、どのくらいの量のドライブをアーカイブに使用するのかを調整します。詳細については、「**表58.［スケジュール］ウィンドウの［ターゲット］タブ**」を参照してください。
5. **[直接検索]**領域で、exacqVision クライアントがアーカイブへのログオンに使用するユーザー名とパスワードを入力します。
6. **[適用]**をクリックします。

直接検索

直接検索機能は、exacqVision サーバーに接続することなく、exacqVision クライアントを直接アーカイブに接続します。これにより、ビデオのダウンロードの速度を上げ、ネットワーク帯域幅の消費量を減らし、関連付けられている exacqVision サーバーがオフラインになっているときに、録画されたビデオを利用できるようにします。直接検索の場合、アーカイブストアアカウントの資格情報を使用する必要があります。

[直接検索] ペインの **[状態]** 領域には、exacqVision クライアントとアーカイブ間の接続に関する情報が表示されます。詳細については、「**表59. [直接検索] ペインの [直接検索] 状態メッセージ**」を参照してください。

状態メッセージ	説明
アドレスが無効です	アドレスが有効な形式になっていません。アドレスの入力時には、以下の形式を使用してください。¥¥ipaddress or hostname¥share¥folder
ページが見つかりません	ターゲットサーバーは到達可能ですが、フォルダーが共有ネットワークドライブ上で見つかりません。
切断されました	システムは無効なアドレス、ユーザー名、またはパスワードが原因で、共有ネットワークドライブに接続できません。
接続されました	システムはターゲットサーバーに接続されています。

表59.[直接検索] ペインの [直接検索] 状態メッセージ

[タスクスケジュール] ペイン

[ターゲット] タブの **[タスクスケジュール]** ペインで、サーバーのアーカイブタスクをスケジュールできます。そのタスクの残り時間が十分である場合、アーカイブタスクの進行中に録画された該当するデータがすべてアーカイブされます。サーバー上でアーカイブタスクをスケジュールするには、「**サーバー上のアーカイブタスクのスケジュール**」を参照してください。**[タスクスケジュール]** ペインの機能の詳細については、「**表60. [ターゲット] タブの [タスクスケジュール] ペイン**」を参照してください。

インターフェース要素	説明
[終了時間] 領域	アーカイブタスクの終了時間を決定します。
	5 分ごとにアーカイブするデータについてサーバーを検索するようにシステムを構成するには、**[連続]** を選択します。
	すべての該当するデータがアーカイブされるまで、アーカイブを続けるように構成するには、**[終了するまで]** を選択します。
	[終了時間] 領域で指定した時間にアーカイブを停止するように構成するには、**[ユーザー定義]** を選択します。すべての該当するデータをアーカイブするのに、選択したアーカイブ期間では十分でなかった場合は、残りのデータは次のアーカイブ時間中にアーカイブされます。
[頻度] 領域	**[終了時間]** 領域で **[終了するまで]** または **[ユーザー定義]** を選択した場合、**[頻度]** 領域を使用して、いつアーカイブタスクを開始するのかを選択します。
	曜日を個々に選択するには、**[カスタム]** を選択します。

表60.[ターゲット] タブの [タスクスケジュール] ペイン

サーバー上のアーカイブタスクのスケジュール

サーバー上のアーカイブタスクをスケジュールするには、以下の手順を実行します。

1. サーバーを選択します。
2. **[タスクスケジュール]** タブで、**[新規]** をクリックします。
3. [構成] ペインで、アーカイブタスクの名前を **[名前]** フィールドに入力します。
4. 開始時間を選択します。
5. 終了時間のタイプと終了時間を選択します。**[終了時間]** タイプの詳細については、「**表 60. [ターゲット] タブの [タスクスケジュール] ペイン**」を参照してください。

   注記：[スケジュール] タブの基準を満たす最も古いデータが最初にアーカイブされます。**[状態]** 領域にアーカイブが完了していないというメッセージが表示される場合は、アーカイブタスクの終了時間を変更します。
6. **[頻度]** 領域で、[頻度] オプションを選択し、曜日を選択します。
7. **[適用]** をクリックします。

［アーカイブ］ウィンドウの［スケジュール］タブ

[アーカイブ]ウィンドウの**[スケジュール]**タブには、**[曜日]**タブと**[ソース]**タブという２つのタブがあります。**[曜日]**タブでは、サーバー上のすべての機器のアーカイブスケジュールを作成できます。**[ソース]**タブでは、サーバー上の単一の機器のスケジュールを作成できます。サーバー上の機器のアーカイブスケジュールを作成するには、「**サーバー内のすべての機器のアーカイブスケジュールの作成**」および「**サーバー内の単一の機器のアーカイブスケジュールの作成**」を参照してください。**[スケジュール]**タブの機能の詳細については、「**表61.［アーカイブ］ウィンドウの［スケジュール］タブ上の［曜日］タブ**」を参照してください。

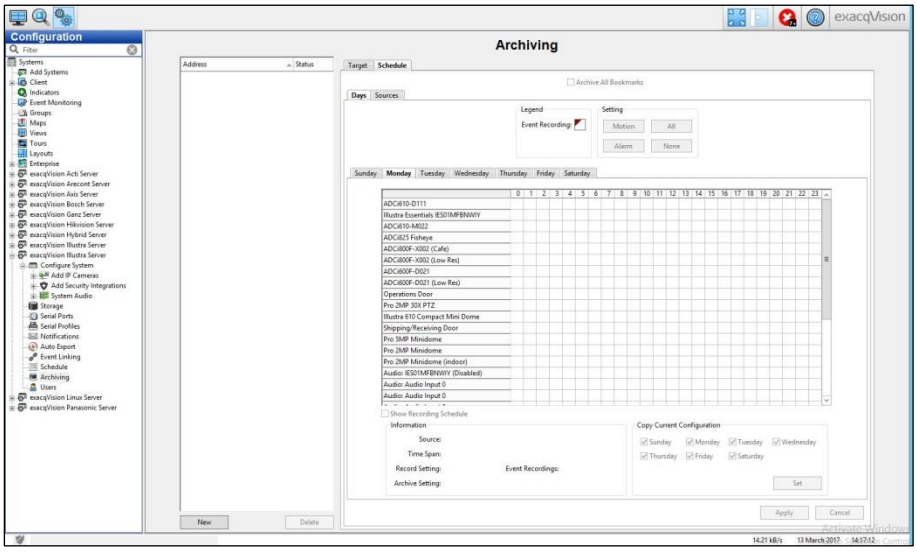


図44.[アーカイブ]ウィンドウの[スケジュール]タブ

インターフェース要素	説明
［すべてのブックマークのアーカイブ］チェックボックス	アーカイブスケジュールにない場合でも、ブックマークに含めたすべてのビデオと音声をアーカイブします。
［凡例］領域	スケジュールグリッドでイベント録画がどのように表示されるのかを示します。
［設定］領域	録画設定のモードを表示します。詳細については、「**表55. 録画設定モード**」を参照してください。
［録画スケジュールを表示］チェックボックス	基準として利用できるようにアーカイブスケジュールの後ろに、録画スケジュールを表示します。
［情報］領域	選択した時間内のカメラ設定の詳細を表示します。選択した時間内のカメラ設定を表示するには、選択したグリッド内の対応する四角の上にカーソルを置きます。
［現在の構成のコピー］領域	録画スケジュールを他の曜日に適用します。スケジュールを別の曜日に適用するには、曜日のチェックボックスを選択し、**［設定］**をクリックします。

表61.[アーカイブ]ウィンドウの[スケジュール]タブ上の[曜日]タブ

サーバー内のすべての機器のアーカイブスケジュールの作成

サーバー上ですべての機器のアーカイブスケジュールを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[曜日]** タブで、該当する曜日のタブを選択します。
2. グリッドを左クリックし、アーカイブをスケジュールしたい曜日と対応する時間の上にボックスが描かれるまで、カーソルをドラッグします。
3. **[設定]** 領域で、録画モードを選択します。録画モードの詳細については、「**表29. [カメラ設定] ウィンドウの [スケジュール]タブ**」を参照してください。
4. **[適用]** をクリックします。

サーバー内の単一の機器のアーカイブスケジュールの作成

サーバー内の単一の機器のアーカイブスケジュールを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[ソース]** タブで、**[機器]** リストから機器を選択します。
2. グリッドを左クリックし、アーカイブをスケジュールしたい曜日と対応する時間の上にボックスが描かれるまで、カーソルをドラッグします。
3. **[設定]** 領域で、録画モードを選択します。録画モードの詳細については、「**表29. [カメラ設定] ウィンドウの [スケジュール]タブ**」を参照してください。
4. **[適用]** をクリックします。

関連付けウィンドウ

[**関連付け**]ウィンドウでは、音声入力、イベントトリガー、イベントリンク、および手動録画コントロールをカメラにリンクしたり、表示設定を編集したりできます。カメラのライブビデオパネル上に表示されている[オーバーレイ]アイコンをクリックして、カメラの関連付けを管理できます。[**関連付け**]ウィンドウの機能の詳細については、「**表62**」を参照してください。

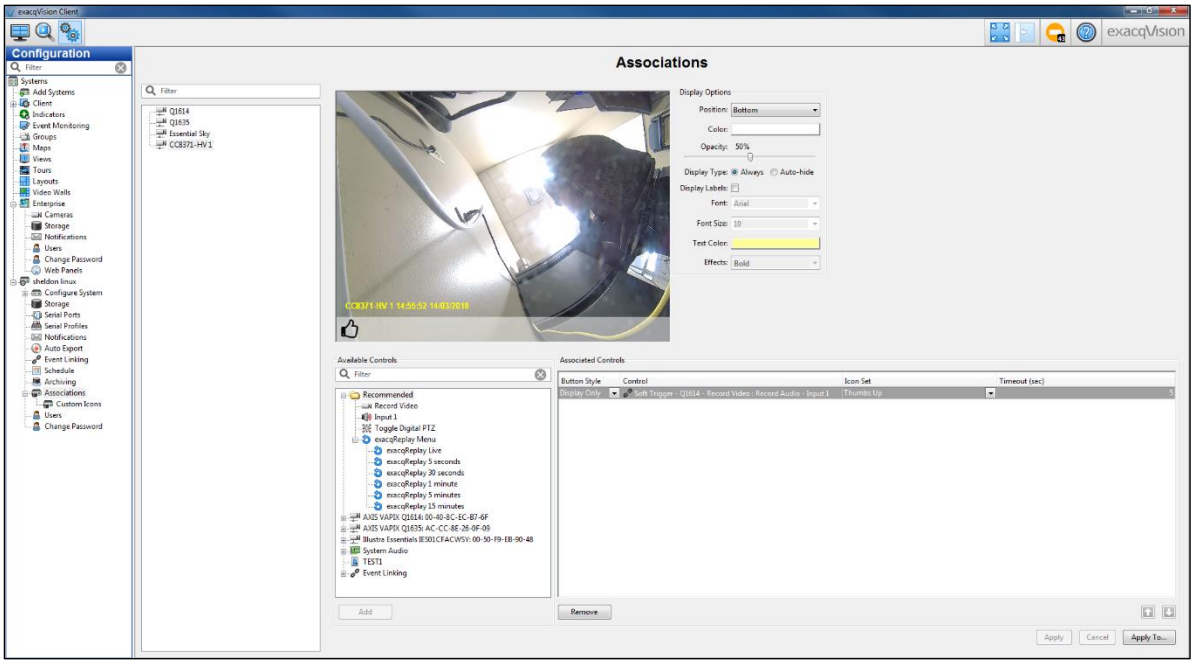


図45.関連付けウィンドウ

インターフェース要素	説明
[カメラ] リスト	関連付けを使用して構成できるカメラのリストを表示します。
[利用可能なコントロール] リスト	カメラに関連付けられるコントロールのリストを表示します。リストの **[推奨]** セクションには、カメラのすべての入力と出力が含まれます。
	[関連付けられたコントロール] ペインにコントロールを移動するには、**[利用可能なコントロール]**リストからコントロールを選択し、**[追加]** をクリックします。
[関連付けられたコントロール] ペイン	カメラに関連付けるコントロールのリストを表示します。
	リスト内でのコントロールの順序を変更するには、コントロールを選択し、右下隅にある上または下**[矢印]**アイコンをクリックします。
	コントロールを削除するには、コントロールを選択して**[削除]** をクリックします。
	アイコンのスタイルを変更するには、**[ボタン]** **[スタイル]**リストから以下のオプションのいずれかを選択します。 **表示のみ：**処理は行われません。 **継続：**アイコンをクリックすると、アイコンを再びクリックするまで、関連付けがアクティブなままになります。 **瞬時：**関連付けをアクティブにするには、アイコンをクリックして押したままにする必要があります。 **[確定]**：関連付けでアラームが発行された場合、アラームが確認されるまで、その関連付けはアラーム状態のままになります。
	[アイコンセット]の列には、関連付けが使用するカスタムアイコンが表示されます。詳細については、「**カスタムアイコン ウィンドウ**」を参照してください。
	[タイムアウト]列には、それがアラーム状態にあるときに関連付けが表示する秒数が表示されます。この列は、**[表示のみ]**の関連付けでのみ使用できます。
[表示オプション] ペイン	[関連付け] アイコンの位置と表示設定を変更します。
	カーソルをビデオパネル上に置いたときにのみ関連付けを表示するには、**[表示タイプ]** 領域で **[自動的に隠す]** を選択します。
	複数のカメラに表示設定を適用するには、**[適用先]** をクリックします。

表62.関連付けウィンドウ

カスタムアイコン ウィンドウ

[**カスタムアイコン**]ウィンドウでは、関連付けのカスタムアイコンを作成できます。

カスタムアイコン ウィンドウを開く

[**カスタムアイコン**]ウィンドウを開くには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの [**構成（セットアップ）ページ**] アイコンをクリックします。
2. ナビゲーションツリーから、カスタムアイコンを作成するサーバーを展開します。
3. [**関連付け**]ノードを展開し、[**カスタムアイコン**]を選択します。

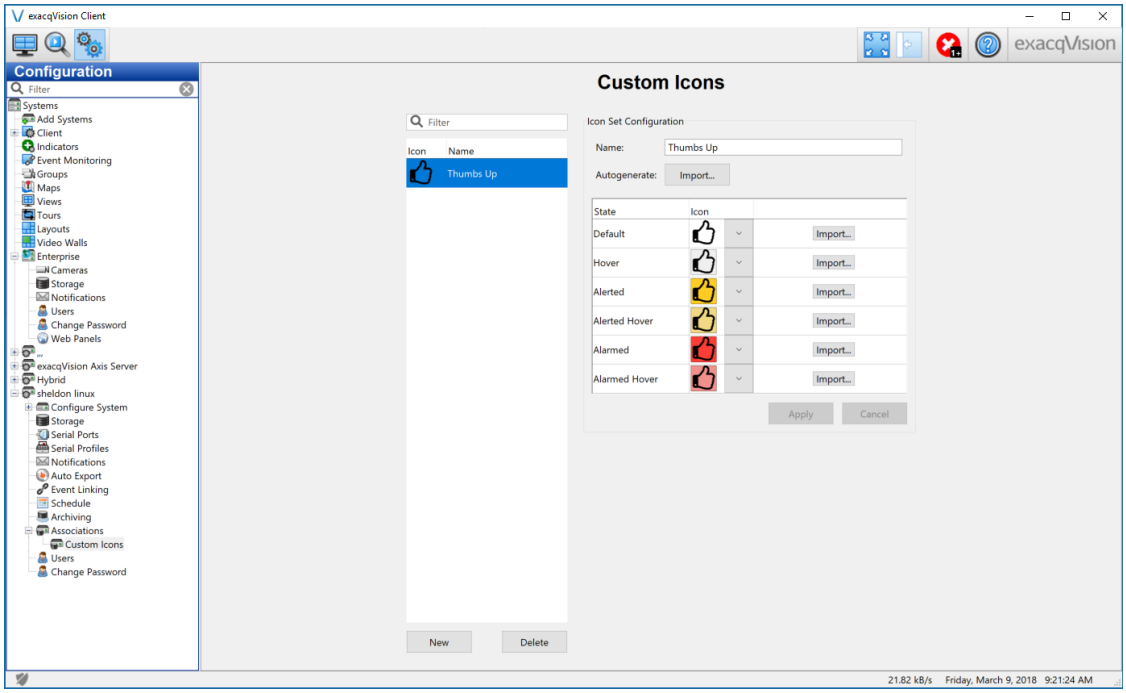


図46.カスタムアイコン ウィンドウ

関連付けのカスタムアイコンを作成する

関連付けのカスタムアイコンを作成するには、以下の手順を実行します。

1. [**カスタムアイコン**]ウィンドウで、[**新規**]を選択します。
2. [**名前**] フィールドに、カスタムアイコンの名前を入力します。
3. [**自動生成**] 領域で [**インポート**] をクリックします。
4. アイコンに移動し、[**開く**]をクリックします。システムは、選択したアイコンとの関連付けを投入します。
5. オプション。関連付けのアイコンを変更するには、変更する関連付けの横にある[**インポート**]を選択します。
6. [**適用**] をクリックします。

[ユーザー] ウィンドウ

[ユーザー] ウィンドウでは、ユーザーを追加したり、システムから削除したり、ユーザーグループのアクセスレベルを設定したり、カメラを表示する権限を割り当てたりできます。**[ユーザー]** タブの機能の詳細については、**表63** を参照してください。

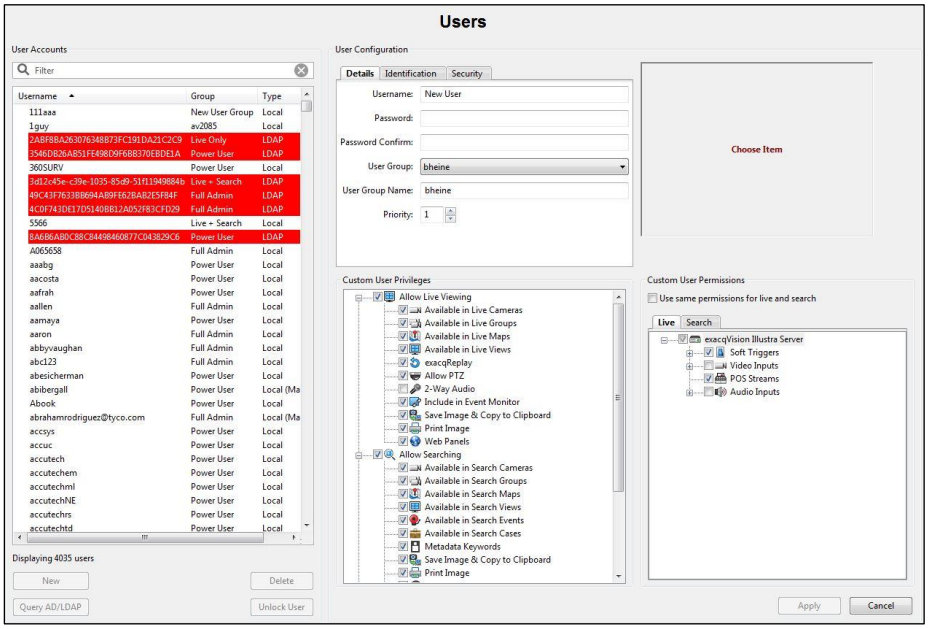


図47.[ユーザー] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[ユーザーアカウント] リスト	システムユーザーとユーザーグループのリストを表示します。
	新規ユーザーとユーザーグループを追加するには、「**システムへのユーザーの追加**」および「**システムへのユーザーグループの追加**」を参照してください。
	ユーザーまたはユーザーグループを削除するには、**[ユーザーアカウント]** リストからユーザーまたはユーザーグループを選択し、**[削除]** をクリックします。
[AD/LDAP の照会] ボタン	接続性をテストし、LDAP サーバーを照会します。
[ユーザーのロック解除] ボタン	パスワードを間違って入力したユーザーをロック解除するには、**[ユーザーのロック解除]** をクリックします。システムからロックアウトされるまでにユーザーが試行できるパスワード入力試行回数を変更するには、「ユーザーロックアウト」を参照してください。
[詳細] タブ	**[詳細]** タブの詳細については、「**表64. [ユーザー] ウィンドウの [詳細] タブ**」を参照してください。
[ＩＤ] タブ	**[メタデータ]** 領域を使用して、ユーザー検索を絞り込むためにデータフィールドを作成できます。データフィールドを追加するには、**[＋]** アイコンをクリックし、対応するフィールドに情報を入力します。
[セキュリティ] タブ	**[セキュリティ]** タブは、その機能をサポートするシステム上でのみ利用できます。詳細については、「**[ユーザー] ウィンドウの [セキュリティ]** タブ」を参照してください。
[カスタムユーザー権限] リスト	ユーザーまたはユーザーグループが exacqVision クライアントで機器を操作できるようにするために、選択できる機器のリストを表示します。
[カスタムユーザー許可] ペイン	**[カスタムユーザー許可]** リストを編集するには、**[カスタムユーザー権限]** リストの **[表示管理]**、**[ユーザー管理]**、および**[ケース管理]** チェックボックスをオフにする必要があります。
	ユーザーの許可をカスタマイズするには、「**[ライブ]ウィンドウと[検索]ウィンドウのユーザー許可をカスタマイズする**」を参照してください。
	[ライブ]と**[検索]**の両方のウィンドウで同じ許可をユーザーに適用するには、**[ライブと検索に同じ権限を使用する]** チェックボックスを選択します。

表63.[ユーザー] ウィンドウ

[ユーザー構成] ペインでは、新規ユーザーまたはユーザーグループを作成したり、アクセスレベル、許可、および権限を構成したりできます。詳細については、**表64**、**表66**、**「システムへのユーザーの追加」**、および**「システムへのユーザーグループの追加」**を参照してください。

インターフェース要素	説明
[ユーザー名] フィールド	ユーザー名には少なくとも 7 文字含める必要があります。
[パスワード] フィールド	パスワードには、関連付けられるユーザー名を含めることはできません。
[ユーザーグループ] フィールド	**[ユーザーグループ]** リストには、ユーザーの許可レベルのリストが表示されます。詳細については、「**表65**」を参照してください。**カスタム**グループオプションは exacqVision Start では使用できません。
[ユーザーグループ名] フィールド	**[ユーザーグループ名]** フィールドには、ユーザーグループの名前を入力できます。
[優先度] リスト	**[優先度]** リストには PTZ 優先度レベルが表示されます。**[優先度]** リストは exacqVision Start では使用できません。
	2 人のユーザーが同じカメラの PTZ 機能を同時に管理しようとしている場合、優先度レベルの高いユーザーに PTZ コントロールが与えられます。同じ優先度を持つユーザーによってすでに管理されているカメラ上の PTZ 機能を 2 人目のユーザーが管理しようとすると、コントロールは最初のユーザーに残ります。
	管理ユーザーは自動的に他のすべてのユーザーに対して PTZ 優先度を持ちます。パワーユーザーは、管理ユーザー以外のすべてのユーザーよりも優先されます。

表64.[ユーザー]ウィンドウの[詳細]タブ

表65では、**[ユーザー]** ウィンドウの **[ユーザーグループ]** リストで利用可能なオプションの説明を確認できます。

許可レベル	説明
完全管理者	ユーザーはシステム内のすべての機能にアクセスできます。
パワーユーザー	ユーザーは、ユーザーの追加と削除を除く、システム内のすべての機能にアクセスできます。
ライブのみ	ユーザーはすべてのカメラからライブビデオのみを表示できます。
検索のみ	ユーザーは録画されたビデオを検索できます。
ライブ＋検索	ユーザーは、すべてのカメラからライブビデオを表示したり、録画されたビデオを検索したりできます。
カスタムグループまたはユーザー	カスタムのユーザーまたはグループ用に作成する一連の許可。

表65.[ユーザー]ウィンドウの[ユーザーグループ]リスト

システムへのユーザーの追加

ユーザーをシステムに追加するには、以下の手順を実行します。

1. **[ユーザー]** ウィンドウで、**[新規]** をクリックします。
2. **[詳細]** タブで、ユーザーの名前を **[ユーザー名]** フィールドに入力します。
3. **[パスワード]** フィールドにパスワードを入力し、**[パスワードの確認]** フィールドでパスワードの確認入力を行います。
4. **[ユーザーグループ]** リストから許可レベルを選択します。許可レベルの詳細については、「**表65. [ユーザー] ウィンドウの [ユーザーグループ] リスト**」を参照してください。
5. **[優先度]** リストから PTZ 優先度レベルを選択します。
6. オプション。**[カスタムユーザー権限]** リストから、ユーザーにアクセスさせる権限を選択します。
7. オプション。[カスタムユーザー許可]ペインを使用して、ユーザーの許可をカスタマイズします。詳細については、「**[ライブ]ウィンドウと[検索]ウィンドウのユーザー許可をカスタマイズする**」を参照してください。

   注記：[カスタムユーザー許可] リストを編集するには、**[カスタムユーザー権限]** リストの **[表示管理]**、**[ユーザー管理]**、および**[ケース管理]** チェックボックスをオフにする必要があります。
8. **[適用]** をクリックします。

システムへのユーザーグループの追加

ユーザーグループをシステムに追加するには、以下の手順を実行します。

1. **[ユーザー]** ウィンドウで、**[新規]** をクリックします。
2. **[詳細]** タブで、**[ユーザーグループ]** リストから許可レベルを選択します。許可レベルの詳細については、「**表65. [ユーザー] ウィンドウの [ユーザーグループ] リスト**」を参照してください。
3. **[ユーザーグループ名]** フィールドに、ユーザーグループの名前を入力します。
4. **[優先度]** リストから PTZ 優先度レベルを選択します。
5. オプション。**[カスタムユーザー権限]** リストから、ユーザーグループにアクセスさせる権限を選択します。
6. オプション。[カスタムユーザー許可]ペインを使用して、グループの許可をカスタマイズします。詳細については、「**[ライブ]ウィンドウと[検索]ウィンドウのユーザー許可をカスタマイズする**」を参照してください。

   注記：[カスタムユーザー許可] リストを編集するには、**[カスタムユーザー権限]**リストの**[表示管理]**、**[ユーザー管理]**、および **[ケース管理]**チェックボックスをオフにする必要があります。
7. **[適用]** をクリックします。

[ライブ]ウィンドウと[検索]ウィンドウのユーザー許可をカスタマイズする

[ライブ]および**[検索]**ウィンドウのユーザー許可をカスタマイズするには、以下の手順を実行します。

注記[ライブ]および**[検索]**ウィンドウで同じ権限をユーザーに適用するには、 **表63**を参照してください。

1. **[ユーザーアカウント]** リストから、ユーザーを選択します。
2. [カスタムユーザー許可]ペインで、**[ライブ]** タブをクリックします。
3. **[ライブ]**または**[検索]**タブが利用できない場合は、以下の手順を実行します。
   - [カスタムユーザー許可]ペインで、**[ライブと検索に同じ許可を使用する]**チェックボックスをオフにします。
4. ユーザーが**[ライブ]**ウィンドウで使用できるようにするデバイスを選択します。
5. **[検索]**タブをクリックします。
6. ユーザーが**[検索]**ウィンドウで使用できるようにするデバイスを選択します。
7. **[適用]** をクリックします。

ユーザーの優先度レベルの変更

ユーザーの優先度レベルを変更するには、以下の手順を実行します。

1. **[ユーザー]** ウィンドウで、**[ユーザーアカウント]** リストからユーザーを選択します。
2. **[パスワード]** フィールドの **[詳細]** タブで、ユーザーのパスワードを入力し、**[パスワードの確認]** フィールドにそのパスワードを再び入力してパスワードを確認します。
3. **[ユーザーグループ]** リストから新しい許可レベルを選択します。許可レベルの詳細については、「**表65. [ユーザー] ウィンドウの [ユーザーグループ] リスト**」を参照してください。
4. オプション。**[カスタムユーザー権限]** リストから、ユーザーグループにアクセスさせる権限を選択します。
5. オプション。[カスタムユーザー権限]ペインを使用して、ユーザーの許可をカスタマイズします。詳細については、「**[ライブ]ウィンドウと[検索]ウィンドウのユーザー許可をカスタマイズする**」を参照してください。

   注記：[カスタムユーザー許可] リストを編集するには、**[カスタムユーザー権限]** リストの **[表示管理]** チェックボックスと **[ユーザー管理]** チェックボックスをオフにする必要があります。
6. **[適用]** をクリックします。

［ユーザー］ウィンドウの［セキュリティ］タブ

[ユーザー]ウィンドウの**[セキュリティ]**タブで、ユーザーのパスワード設定を構成したり、一時的なユーザーを作成したり、ユーザーにアクセススケジュールを割り当てたりすることができます。**[ユーザー]**ウィンドウの**[セキュリティ]**タブの機能に関する詳細は、 **表66**を参照してください。

インターフェース要素	説明
[ユーザーを無効にする]チェックボックス	ユーザーを無効にするには、ユーザーを**［ユーザーアカウント］**リストから選択し、**[ユーザーを無効にする]**チェックボックスを選択し、**[適用]**をクリックします。
[ユーザーはパスワードの変更可能]チェックボックス	これにより、ユーザーはパスワードを変更することができます。完全管理者とパワーユーザーは、常に自身のパスワードを変更する権限を持っています。詳細については、「**ユーザーにパスワードを変更する権限を与える**」を参照してください。
[ユーザーはパスワードの変更必須]チェックボックス	ユーザーにパスワードの変更を要求します。詳細については、「**ユーザーにパスワードの変更を強制する**」を参照してください。
[一時ユーザー］チェックボックス	一時ユーザーを作成するには、「**一時ユーザーの作成**」を参照してください。
[アクセススケジュール]リスト	アクセススケジュールを作成するには、「**アクセススケジュール**」を参照してください。アクセススケジュールをユーザーに割り当てるには、「**ユーザーへのアクセススケジュールの割り当て**」を参照してください。
[ロックアウト状態］領域	**[ロックアウト状態]**領域には、ユーザーがシステムからロックアウトされるかどうかが表示されます。システムからロックアウトされるまでにユーザーが試行できるパスワード入力試行回数を変更するには、**「ユーザーロックアウト」**を参照してください。
[ユーザーのロック解除]ボタン	パスワードを間違って入力したユーザーのロックを解除するには、**[ユーザーアカウント]**リストからユーザーを選択し、**[ユーザーのロック解除]**をクリックします。

表66.[ユーザー]ウィンドウの[セキュリティ]タブ

ユーザーにパスワードを変更する権限を与える

ユーザーにパスワードを変更する権限を与えるには、以下の手順を実行します

1. **[ユーザーアカウント]**リストから、ユーザーを選択します。
2. [ユーザー構成]パネルで、**[セキュリティ]**タブをクリックします。
3. **[ユーザーはパスワードの変更可能]**チェックボックスを選択します。
4. **[適用]**をクリックします。

ユーザーにパスワードの変更を強制する

ユーザーにパスワードの変更を強制するには、以下の手順を実行します。

1. **[ユーザーアカウント]** リストから、ユーザーを選択します。
2. [ユーザー構成]パネルで、**[セキュリティ]** タブをクリックします。
3. **[ユーザーはパスワードの変更必須]** チェックボックスを選択します。
4. **[適用]** をクリックします。

一時ユーザーの作成

一時ユーザーを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[ユーザーアカウント]** リストから、ユーザーを選択します。
2. **[セキュリティ]** タブで、**[一時ユーザー]** チェックボックスを選択します。
3. **[アクセス時間開始]** リストと **[アクセス時間終了]** リストから、スケジュールの開始および終了時間を選択します。
4. **[適用]** をクリックします。

ユーザーへのアクセススケジュールの割り当て

アクセススケジュールを割り当てるには、以下の手順を実行します。

1. **[ユーザーアカウント]** リストから、ユーザーを選択します。
2. [ユーザー構成]ペインで、**[セキュリティ]** タブをクリックします。
3. **[アクセススケジュール]** リストから、スケジュールを選択します。スケジュールを作成するには、「**アクセススケジュール**」を参照してください。
4. **[適用]** をクリックします。

[パスワードの変更]ウィンドウ

[パスワードの変更]ウィンドウで、ユーザーはパスワードを変更できます。**[パスワードの変更]**ウィンドウは、次の条件でのみ表示されます。

- 完全管理者とパワーユーザーの場合
- ユーザーにパスワードを変更する権限がある場合
- システムがユーザーにパスワードの変更を強制する場合

詳細については、「**［ユーザー］ウィンドウの［セキュリティ］**タブ」を参照してください。

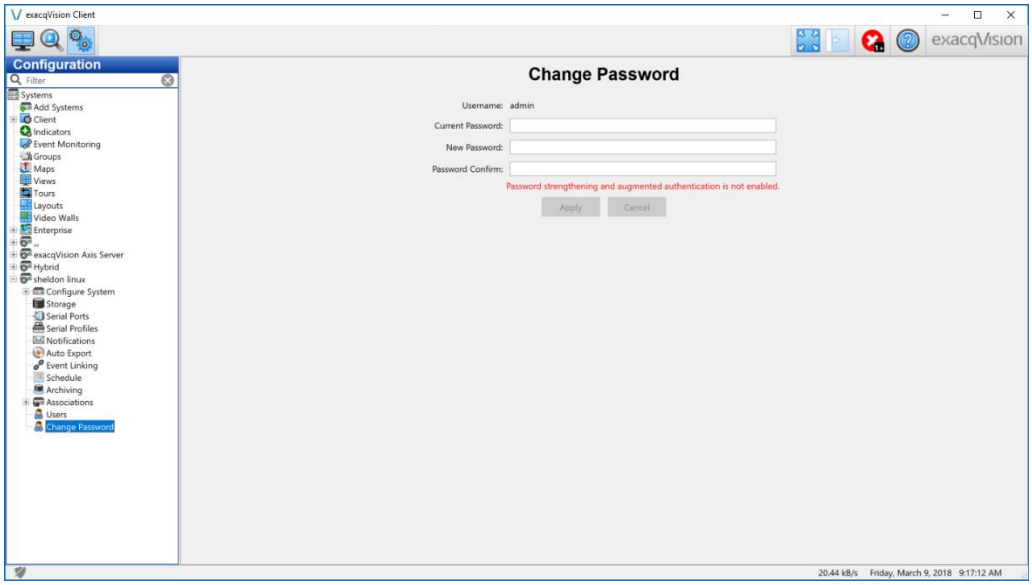


図48.[パスワードの変更]ウィンドウ

［システム］ウィンドウ

[システム] ウィンドウには、exacqVision システムに接続されるすべてのサーバーのリスト、各サーバーに関する情報、および検索を絞り込むために追加するメタデータフィールドが表示されます。メタデータフィールドの追加方法の詳細については、「**表6. [システムの構成］ウィンドウの［システム］タブ**」を参照してください。**[システム]** ウィンドウの詳細については、「**表67. [システム］ウィンドウ**」を参照してください。

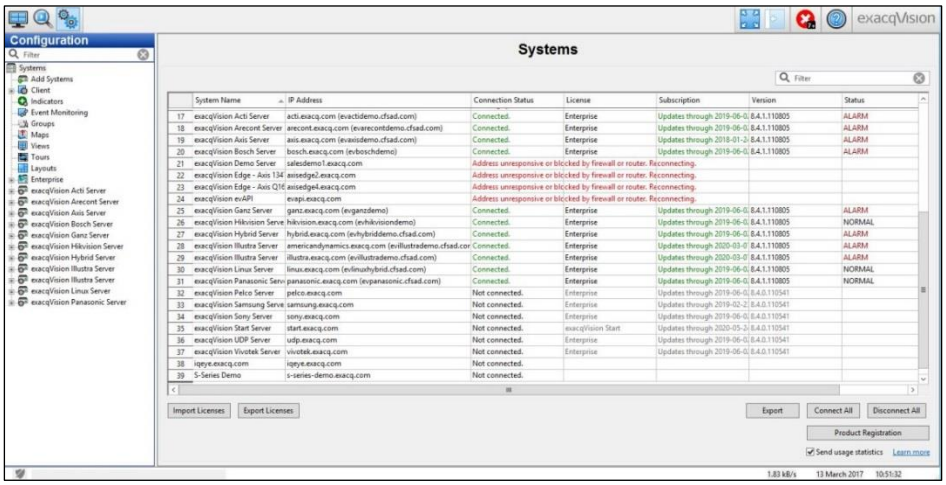


図49.[システム] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[システム名] 列	サーバーの名前を表示します。
	サーバーのモデル番号とシリアル番号情報を表示するには、**[システム名]** フィールドを右クリックします。
[シリアル番号] 列	サーバーのシリアル番号を表示します。
[IP アドレス] 列	サーバーの IP アドレスとホスト名を表示します。
[接続状態] 列	exacqVision システムから 1 つのサーバーを接続したり、削除したりするには、サーバーの接続状態を右クリックし、**[接続]** または **[切断]** を選択します。
	サーバーが exacqVision クライアントに接続されている場合に、クライアントコンピューターとサーバーの間の物理接続が中断されたときは、**[接続状態]** フィールドに **[ネットワーク活動タイムアウト]** が表示され、**[状態]** フィールドに **[切断]** が表示されます。
[ライセンス] 列	システムに Start、Enterprise、または Professional ライセンスがあるかどうかを表示し、システムのライセンスキーを更新します。ファイルまたはテキストからシステムのライセンスキーを更新できます。
	ライセンスキーを更新するには、**[ライセンス]**フィールドを右クリックし、**[更新]** を選択し、**[ファイル]** または **[テキスト]** を選択します。**[ファイル]** を選択すると、ライセンス情報を含む .KEY ファイルを参照できます。**[テキスト]** を選択すると、ライセンスキーを手動で入力できます。
[MAC アドレス] 列	サーバーの MAC アドレスを表示します。
[バージョン] 列	サーバーが現在使用しているソフトウェアバージョンを表示します。
	システムが使用しているソフトウェアバージョンに関する追加情報を表示するには、**[バージョン]** フィールドを右クリックします。
[状態] 列	サーバーの録画状態を表示します。
[日数] 列	サーバーが録画されたビデオを保存する日数を表示します。
[ライセンスのインポート] ボタン	.CSV ファイルから複数のライセンス番号をインポートするには、**[ライセンスのインポート]** をクリックします。
[ライセンスのエクスポート] ボタン	**[システム]** ウィンドウに現在表示されているライセンス番号のリストをコンパイルするには、**[ライセンスのインポート]** をクリックします。
[すべて接続] ボタン	exacqVision システムから複数のサーバーを接続するには、リストの最初のサーバーの接続状態を左クリックし、Shift を押して、他のサーバーを強調表示します。強調表示されたリストを右クリックし、メニューから **[すべて接続]** を選択します。
[すべて切断] ボタン	exacqVision システムから複数のサーバーを切断するには、リストの最初のサーバーの接続状態を左クリックし、Shift を押して、他のサーバーを強調表示します。強調表示されたリストを右クリックし、メニューから **[すべて切断]** を選択します。
[製品登録] ボタン	Web ブラウザーで [exacqVision 製品登録] ページを開きます。
[利用状況の統計を送信] チェックボックス	exacqVision カメラと機能の利用方法に関する匿名の機密でない情報をメーカーに送信します。
[詳細を確認] リンク	Web ブラウザーで [プライバシー方針] ページを開きます。

表67.[システム]ウィンドウ

［装置］ウィンドウ

[装置] ウィンドウには、exacqVision ハイブリッドビデオサーバーの圧縮ボードに関する情報が表示されます。exacqVision ハイブリッドビデオサーバーの圧縮ボードは、システムに接続されているアナログカメラを管理します。exacqVision サーバーに圧縮ボードを取り付けると、**[装置情報]** ペインに eDVR 装置のタイプと、その装置のシリアル番号が表示されます。**[装置]** ウィンドウの機能の詳細については、**「表68.［装置］ウィンドウ」**を参照してください。

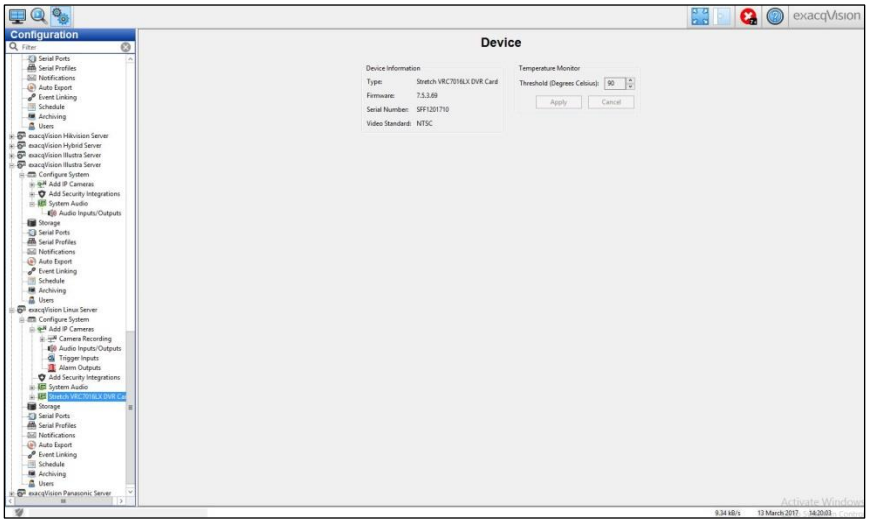


図50.[装置] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
［装置情報］ペイン	exacqVision サーバー内の eDVB 装置のタイプおよび圧縮ボードのシリアル番号を表示します。
［温度モニター］ペイン	e 圧縮ボードの温度しきい値を設定し、それをイベントにリンクさせるには、**［しきい値］**リストから温度を選択し、**［適用］**をクリックします。

表68.[装置] ウィンドウ

[クライアント] ウィンドウ

[クライアント] ウィンドウでは、exacqVision クライアントの設定をカスタマイズできます。詳細については、「**表69.[クライアント] ウィンドウ**」、「**表70.[クライアント] ウィンドウの [ライブビデオパネル] ペイン**」、および「**表71.[クライアント] ウィンドウの [デコーディング] ペイン**」を参照してください。

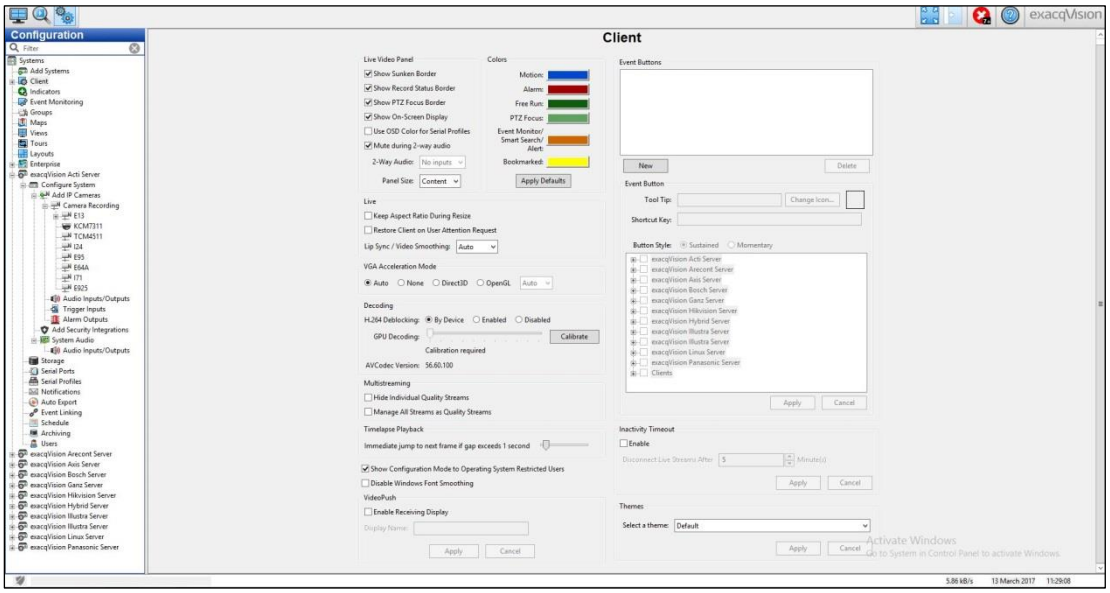


図51.[クライアント] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[ライブビデオパネル] ペイン	[ライブ] ウィンドウでウィンドウの表示および音声の設定を変更します。詳細については、「**表70.[クライアント] ウィンドウの [ライブビデオパネル] ペイン**」を参照してください。
[色] ペイン	モーション、アラーム、自由実行、PTZ フォーカス、およびイベントモニターというイベントのビデオパネル上のデフォルトの枠線色を変更します。イベント色を変更するには、イベント名の横にある色をクリックし、新しい色を選択して、**[Ok]** をクリックします。[色] ペインは exacqVision Start では使用できません。
[ライブ] ペイン	exacqVision クライアントのサイズを増減するときにビデオパネルのアスペクト比を保持するには、**[サイズ変更中にアスペクト比を保持]** を選択します。
	ユーザーアクションを必要とするイベントの発生時に最小化されたクライアントを表示するには、**[ユーザーの注意の要求]** で **[クライアントの復元]** を選択します。
	音声およびビデオ再生を確実に同期させるには、**[リップシンク/ビデオスムージング]** リストから **[有効]** を選択します。このオプションは、ビデオと音声を最大 5 秒バッファに格納し、断続的ビデオストリームを補完することができます。ただし、これにより、メモリの使用量とビデオの待機時間も増します。
[VGA アクセラレーション] ペイン	ビデオの更新間隔と他の表示の問題の改善を試みることにより、ビデオカードが引き起こす表示の問題を解決します。VGA アクセラレーションオプションを使用できるかどうかは、取り付けているビデオカードによって異なります。[VGA アクセラレーション] ペインは exacqVision Start では使用できません。
[デコーディング] ペイン	exacqVision クライアントのビデオの画質を高めます。詳細については、「**表71.[クライアント] ウィンドウの [デコーディング] ペイン**」を参照してください。
[マルチスクリーミング] ペイン	**[ライブ]** ウィンドウのナビ下―ジョンツリーでカメラの 2 次ストリームを非表示にし、クライアントで表示する最適なストリームを判断できるようにするには、**[個々の品質ストリームを非表示]** を選択します。
	2 次ストリームのアスペクト比が主ストリームと異なる場合でも、品質ストリームであるかのようにクライアントですべての 2 次ストリームを処理させるには、**[すべてのストリームを品質ストリームとして管理]** を選択します。
[タイムラプス再生] ペイン	タイムラプス録画または不連続なモーションの結果である、ビデオギャップ間隔を制御します。デフォルトでは、1 秒のギャップの後に次のビデオフレームに自動的にジャンプします。このギャップを増減するには、**[ギャップが 1 秒を超えた場合、次のフレームに直ちにジャンプ]** スライダーを動かします。[タイムラプス再生] ペインは exacqVision Start では使用できません。
[オペレーティングシステムの制限されたユーザーに対する構成モードを表示] チェックボックス	Window の設定で制限されたユーザーに対し、**[構成 (セットアップ) ページ]** アイコンを非表示にします。この機能は、exacqVision Start では使用できません。
[Windows のフォントスムージングを無効にする] チェックボックス	デフォルトでは、テキストフォントをシャープにするために、フォントスムージング技術が利用されます。この技術を無効にするには、**[Windows のフォントスムージングを無効にする]** チェックボックスを選択します。
[ビデオプッシュ] ペイン	exacqVision クライアントが Enterprise ライセンスを持つ 別の exacqVision クライアントから項目を受信する場合、**[表示の受信を有効にする]** を選択します。
	exacqVision クライアントの名前を **[表示名]** フィールドに入力すると、リモートで接続する exacqVision クライアントのタイトルバー上にその名前が表示されます。
	ビデオプッシュ機能の詳細については、「**[ビデオプッシュ]** ウィンドウ」を参照してください。
[イベントボタン] ペイン	構成済みのソフトトリガーのショートカットを作成します。ソフトトリガーのショートカットを作成するには、「**ソフトトリガーのショートカットの作成**」を参照してください。[イベントボタン] ペインは exacqVision Start では使用できません。
[非アクティブタイムアウト] ペイン	非アクティブの設定時間後、ライブビデオストリームが自動的に切断されます。 非アクティブ時間を設定するには、**[有効にする]** を選択し、**[設定時間後にライブストリームを切断]** リストから分数を選択し、**[適用]** をクリックします。
[テーマ] ペイン	exacqVision クライアントの色テーマを変更するには、**[テーマの選択]** リストを使用します。
[カメラプレビュー] ペイン	カメラプレビュー機能を使用して、カメラを素早く特定できます。カメラプレビュー機能をオフにするには、**[プレビューなし]** を選択します。
	カーソルがカメラの上に置かれたときに表示するカメラビューの画像を表示するには、**[サムネイル]** を選択します。
	カーソルがカメラの上に置かれたときにカメラからビデオストリームを表示するには、**[ビデオ]** を選択します。
24時制	この機能は、Mac コンピューターでのみ使用可能です。

表69.[クライアント]ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[くぼんだ枠線を表示] チェックボックス	ビデオパネル間の間隔を減らします。
[双方向音声中はミュートにする] チェックボックス	双方向音声機能の使用中は、すべての音声をミュートにします。
[双方向音声] リスト	クライアントコンピューターに接続するマイクロフォンのリストを表示します。クライアントからサーバーへ音声を送信するには、**[双方向音声]** リストからマイクロフォンを選択します。
[パネルサイズ] リスト	ライブビデオのビデオパネルサイズオプションのリストを表示します。
	現在表示中のビデオパネルの寸法を使ってビデオパネルを表示するには、**[コンテンツ]** を選択します。ディスプレイ上の大部分のビデオパネルが 16 × 9 をキャプチャする場合、すべてのビデオパネルは 16 × 9 で表示されます。
	[ライブ] ウィンドウの寸法を使ってビデオパネルを表示するには、**[ウィンドウ]** を選択します。
	ビデオパネルを 4 × 3 で表示するには、**[4 × 3]** を選択します。
	ビデオパネルを 16 × 9 で表示するには、**[16 × 9]** を選択します。ビデオパネルに 16 × 9 で表示する場合、 ワイドスクリーンレイアウトアイコンは使用できません。

表70.[クライアント]ウィンドウの[ライブビデオパネル]ペイン

インターフェース要素	説明
[H.264 非ブロック化] 領域	ビデオをストリーミングするすべてのカメラに非ブロック化を適用するには、**[装置ごと]** を選択します。
	常にカメラに非ブロック化を適用するには、**[有効]** を選択します。このオプションは、最大表示フレームレートを減らすことができます。
	非ブロック化を無効にするには、**[無効]** を選択します。
	[H.264 非ブロック化] ペインは、管理者とパワーユーザーのみが一部のカメラで利用できます。
[GPU デコーディング] スライダー	ビデオストリームの録画を加速します。GPU 録画を設定し、**[GPU デコーディング]** スライダーを動かし、**[較正]** をクリックします。

表71.[クライアント]ウィンドウの[デコーディング]ペイン

ソフトトリガーのショートカットの作成

ソフトトリガーのショートカットを作成するには、以下の手順を実行します。

1. [イベントボタン]ペインで、**[新規]** をクリックします。
2. ソフトトリガーの説明を **[ツールヒント]** フィールドに入力します。
3. **[変更] アイコン**をクリックし、デフォルトまたはカスタムのアイコンをアップロードします。
4. オプション。キーボードショートカットキーを入力します。
5. 以下のいずれかのボタンスタイルを選択します。
   - **継続：** コマンドを 1 回有効にするか、または該当する場合はラッチ効果を出します。
   - **瞬時：** アイコンをクリックしている間、短い説明効果を有効にします。
6. リストからソフトトリガーを選択します。
7. **[適用]** をクリックします。

［ジョイスティック］ウィンドウ

[ジョイスティック]ウィンドウでは、exacqVision システムにより標準の USB ジョイスティックを構成できます。詳細については、「**表72.［ジョイスティック］ウィンドウ**」および「**表73.［ジョイスティック］ウィンドウの［ジョイスティック構成］領域**」を参照してください。

注記[ジョイスティック]ウィンドウは exacqVision Start では使用できません。

インターフェース要素	説明
［現在のジョイスティック］リスト	現在構成されているジョイスティックと以前に構成したジョイスティックのリストを表示します。
	ジョイスティックが静止位置にあるときにずれる場合、**［構成］**をクリックして制御を取り戻します。
［ジョイスティック構成］領域	ジョイスティックの位置制御、ズーム、および再生速度を変更します。詳細については、「**表73.［ジョイスティック］ウィンドウの［ジョイスティック構成］領域**」を参照してください。
［位置制御源］領域	ジョイスティックに視点（POV）ソースがある場合、**［POV］**を選択することで、ジョイスティック機能を X/Y 軸から POV に切り替えることができます。
ボタン	ジョイスティックのプログラムを作成するために使用できるアクションのリストを表示します。アクションは、ジョイスティックのモデルによって異なります。
［デフォルトにリセット］ボタン	工場出荷時のデフォルト設定を適用します。

表72.[ジョイスティック]ウィンドウ

インターフェース要素	説明
［X/Y 軸］領域	位置制御の感度を増減するには、**［感度］**スライダーを動かします。
	カメラまたはビューの方向性を反転するには、**［Y 軸を反転］**チェックボックスを選択します。
	ジョイスティックを開始点に適合させるには、ジョイスティックを目的の位置を動かし、**［較正］**をクリックします。
［Z 軸］領域	ズーム感度を増減するには、**［感度］**スライダーを動かします。
	ズームの方向を反転するには、**［Z 軸を反転］**チェックボックスを選択します。
	カメラのズームを調整する場合、**［Z 軸］**領域の［Z 軸］ボックスが緑色になり、ズームの方向を示します。
［X 位置］領域	再生速度を増減するには、**［感度］**スライダーを動かします。
	再生速度の方向を反転するには、**［X 軸を反転］**チェックボックスを選択します。
	再生速度を調整する場合、**［X 軸］**領域の［X 軸］ボックスが緑色になり、ズームの方向を示します。

表73.[ジョイスティック]ウィンドウの[ジョイスティック構成]領域

［インジケータ］ウィンドウ

インジケータは、システム内を検索するときに問題が生じた場合に、システム構成候補をユーザーに提示します。**[インジケータ]**ウィンドウでは、インジケータを表示し、編集できます。詳細については、**「表74.［インジケータ］ウィンドウ」**および**「表75.［インジケータ構成］ペイン」**を参照してください。

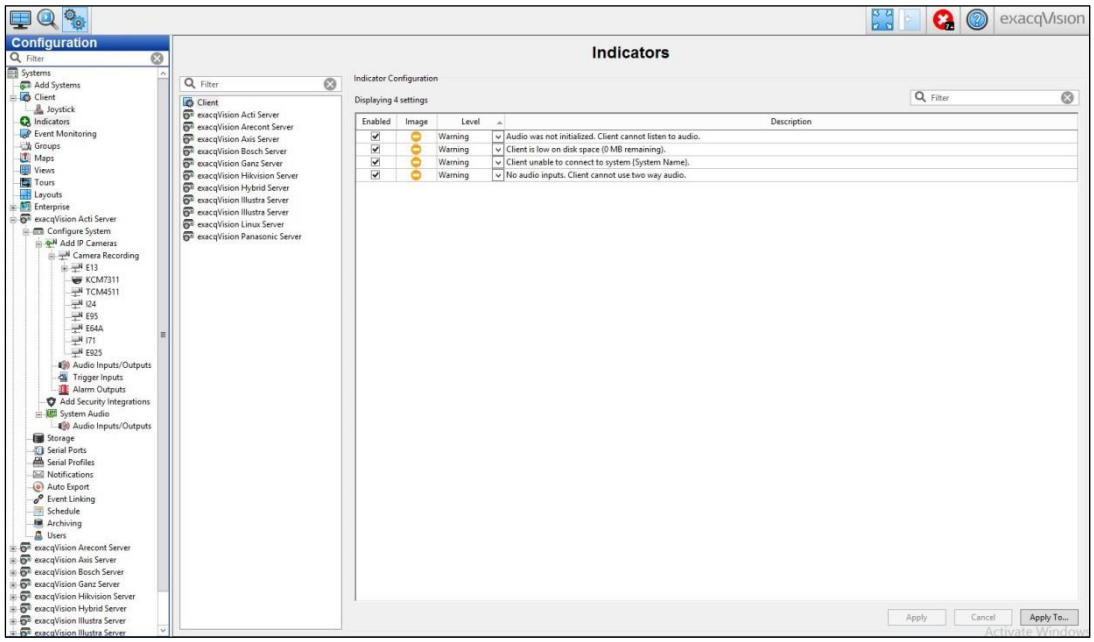


図52.[インジケータ]ウィンドウ

インターフェース要素	説明
［インジケータ］リスト	インジケータ機能をサポートする接続されている exacqVision サーバーのリストを表示します。
［インジケータ構成］ペイン	システム構成候補のリストを表示します。詳細については、**「表75.［インジケータ構成］ペイン」**を参照してください。
［インジケータアイコン］リスト	サーバーの現在のエラーおよび警告メッセージのリストを表示します。アイコンの右下隅にある数は、システムが検出したエラーおよび警告の数を示しています。
	［インジケータアイコン］リストを表示するには、ツールバーの右下隅にある**［インジケータ］**アイコンをクリックします。

表74.[インジケータ]ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[有効] チェックボックス	サーバーのインジケータメッセージを有効にするには、**[有効]** チェックボックスを選択します。
[画像] 列	インジケータメッセージが警告なのかエラーなのかを示す画像を表示します。画像は、**[レベル]** 列のメッセージのレベルタイプを変更すると、自動的に変化します。
[レベル] 列	インジケータメッセージを警告またはエラーに設定するには、**[レベル]** リストから **[警告]** または **[エラー]** を選択します。
	エラーメッセージは、警告よりも優先度が高くなっています。
[無視] 列	インジケータの設定を編集するために使用できるオプションのリストを表示します。
	クライアントセッションの残りのインジケータを削除するには、**[無視]** を選択します。クライアントが再起動すると、インジケータが再び表示されます。
	同じレベルのメッセージを持つすべてのインジケータを削除するには、**[このタイプのすべてを無視]** を選択します。クライアントが再起動すると、インジケータが再び表示されます。
	サーバー上のインジケータを完全に削除するには、**[このシステムに対して無効にする]** を選択します。
	すべてのシステム上のインジケータを完全に無効にするには、**[接続されているシステムに対して無効にする]** を選択します。

表75.[インジケータ構成] ペイン

[グループ] ウィンドウ

[グループ] ウィンドウでは、複数のサーバーからのカメラおよび装置のグループを作成し、グループ内のビデオとデータを検索できます。グループを作成した後、**[ライブ]** ウィンドウで、同じビデオパネルレイアウト内のグループのすべての項目からライブまたは録画されたビデオを表示できます。グループを作成するには、「**新規グループの作成**」を参照してください。**[グループ]** ウィンドウの機能の詳細については、**表76** を参照してください。

注記：[グループ] ウィンドウは exacqVision Start では使用できません。

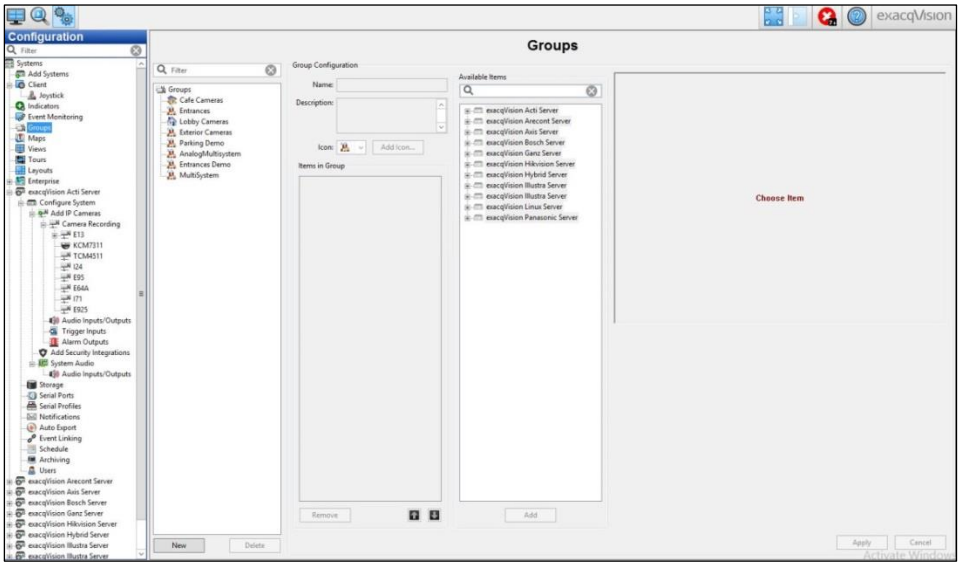


図53.[グループ] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[グループ] リスト	作成されるグループのリストを表示します。
	グループを [グループ] リストに追加するには、「**新規グループの作成**」を参照してください。
	[グループ] リストからグループを削除するには、グループを選択し、[削除] をクリックします。
[グループ内の項目] リスト	選択したか、または作成しているグループの項目のリストを表示します。
	[グループ] リスト内の項目から項目を削除するには、項目を選択し、[削除] をクリックします。
	リストの項目の順番を変更するには、項目を選択してから、**矢印**アイコンをクリックします。
[利用可能な項目] リスト	グループに追加できる利用可能な装置のリストを表示します。装置をグループに追加し、[利用可能な項目] リストから装置を選択してから、[追加] をクリックします。

表76.[グループ] ウィンドウ内のリスト

新規グループの作成

新しいグループを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[グループ]** ウィンドウで、**[新規]** をクリックします。
2. [グループ構成] ペインで、グループの名前と説明を入力します。
3. **[アイコン]** リストから、グループを表すアイコンを選択します。アイコンがナビゲーションツリーに表示されます。

   注記：[アイコンの追加] をクリックして、カスタムアイコンを選択することもできます。
4. **[利用可能な項目]** からカメラ、サーバー、または装置を選択し、**[追加]** をクリックします。この手順を繰り返して、より多くの項目をグループに追加します。

   注記： サーバーを選択すると、サーバー内のすべてのカメラと装置がグループに追加されます。
5. **[適用]** をクリックします。

［マップ］ウィンドウ

[マップ] ウィンドウでは、場所または建物のマップ画像をアップロードしたり、カメラ、ソフトトリガー、および他の装置をそれに関連付けたりして、カスタムマップを作成できます。カスタムマップを作成するには、「**カスタムマップの作成**」を参照してください。**[マップ]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表77.[マップ] ウィンドウ**」を参照してください。

注記：[マップ] ウィンドウは exacqVision Start では使用できません。

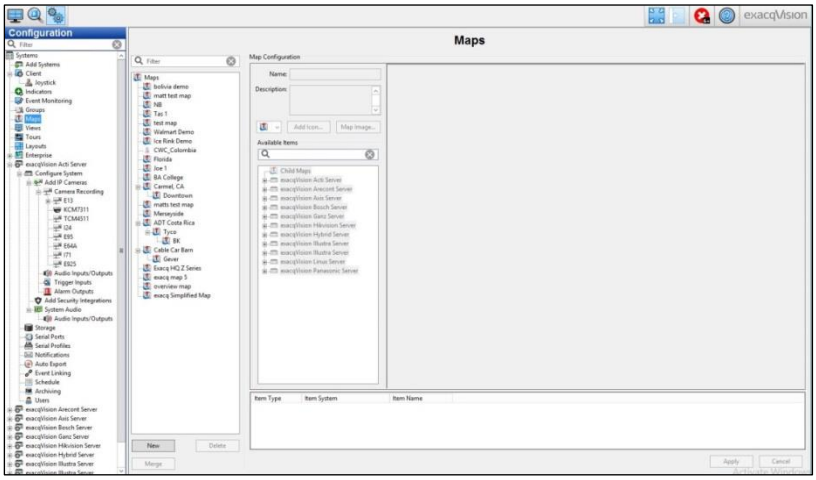


図54.[マップ] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
［マップ］リスト	カスタムマップとそれらのサーバーのリストを表示します。
	既存のマップの子マップを作成するには、［**新規**］をクリックする前に［**マップ**］リストからマップを選択します。マップを作成すると、子マップのアイコンがマップの上に表示されます。
マップ画像	マップから項目を削除するには、マップ上でその項目のアイコンを右クリックし、［**選択した項目の削除**］を選択します。
	マップ上の項目の方向を反転するには、アイコンを右クリックし、［**ミラー**］アイコンを選択します。
	マップ上の装置を回転するには、装置アイコンをクリックし、［**アイコンの回転**］を選択します。
	マップ上でアイコンの外観を変更するには、アイコンを選択し、［**アイコンバルーン**］をクリックします。
［項目］リスト	マップに現在含まれている項目とそれらのサーバーのリストを表示します。

表77.[マップ] ウィンドウ

カスタムマップの作成

カスタムマップを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[マップ]** ウィンドウで、**[新規]** をクリックします。
2. [マップ構成] ペインで、マップの名前と説明を入力します。
3. **[マップ画像]** をクリックして、使用するマップの画像ファイルをアップロードします。

   注記： 応答時間を改善するには、PNG または JPEG ファイルを使用します。
4. [アイコン] リストから、マップを表すアイコンを選択します。

   注記：[アイコンの追加] をクリックして、カスタムアイコンを選択することもできます。
5. **[利用可能な項目]** リストから項目を選択し、マップ上にドラッグすることにより、項目をマップに関連付けます。
6. **[適用]** をクリックします。

［ビュー］ウィンドウ

[ビュー]ウィンドウでは、**[カメラ]**リスト、**[グループ]**リスト、および**[マップ]**リストからカメラを組み合わせてカスタムのビューを作成できます。ビューには３つのカテゴリがあります。ビューを作成するには、「**ビューの作成**」を参照してください。ビューカテゴリの詳細については、「**表78.ビューカテゴリ**」を参照してください。**[ビュー]**ウィンドウの機能の詳細については、「**表79.[ビュー]ウィンドウ**」を参照してください。

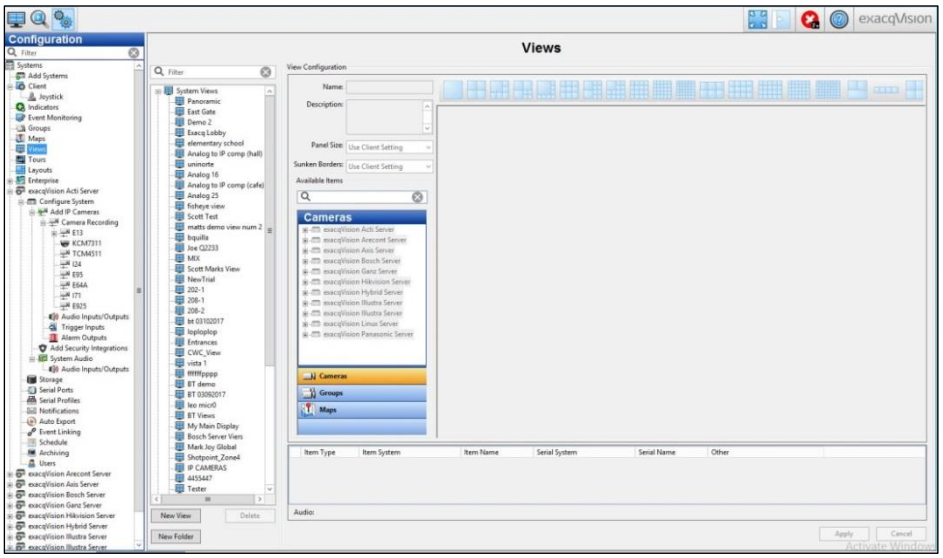


図55.[ビュー]ウィンドウ

インターフェース要素	説明
システムビュー	サーバーに接続しているすべてのユーザーが利用できます。
ユーザーグループビュー	許可レベルアクセス権を持つユーザーが利用できます。ユーザーグループビューは exacqVision Start では使用できません。
ユーザービュー	そのビューを作成したユーザーしか利用できません。ユーザービューオプションは exacqVision Start では使用できません。

表78.ビューカテゴリ

インターフェース要素	説明
［ビューカテゴリ］リスト	ビューカテゴリおよびユーザーが作成したビューとビューフォルダーのリストを表示します。
［新規フォルダー］ボタン	新しいフォルダーを**［ビューカテゴリ］**リストに追加します。
［利用可能な項目］リスト	**［カメラ］**リスト、**［グループ］**リスト、および**［マップ］**リストから項目のリストを表示します。
［項目］リスト	ビューに現在含まれている項目とそれらのサーバーのリストを表示します。

表79.[ビュー]ウィンドウ

ビューの作成

ビューを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[ビューカテゴリ]** リストからビューカテゴリを選択し、**[新規ビュー]** をクリックします。
2. ビューの名前と説明を **[ビュー構成]** 領域に入力します。
3. [ビュー構成] ペインの上部で、ビデオパネルレイアウトを選択します。
4. 装置を追加するには、**[利用可能な項目]** リストから装置を選択し、ビデオパネル上にドラッグします。装置は **[カメラ]** リスト、**[グループ]** リスト、または **[マップ]** リストから追加できます。
5. オプション。イベントモニタープロファイルを追加するには、ビデオパネルを右クリックし、**[イベントモニター]** を選択します。
6. **[適用]** をクリックします。

［ツアー］ウィンドウ

[ツアー] ウィンドウでは、ツアーを作成し、既存のツアーを構成できます。新しいツアーを作成するには、「**新規ツアーの作成**」を参照してください。**[ツアー]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表80.[ツアー] ウィンドウ**」を参照してください。

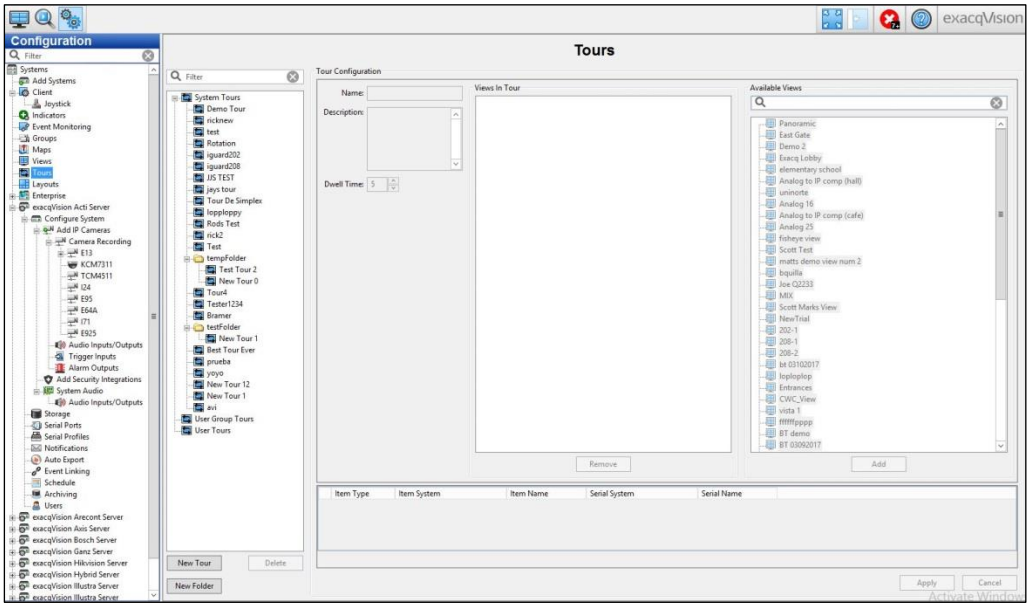


図56.[ツアー] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
［ツアー］リスト	既存のツアーとツアーフォルダーのリストを表示します。
［新規フォルダー］ボタン	新しいフォルダーを **［ツアー］** リストに追加します。
［休止時間］リスト	システムで各ビューを表示する秒数。
［ツアー内のビュー］リスト	作成している新しいツアーのビューのリスト、または既存のツアーからビューのリストを表示します。
	［ツアー内のビュー］ リストにビューを追加するには、**［利用可能なビュー］** リストからビューを選択し、**［追加］** をクリックします。
	［ツアー内のビュー］ リストからビューを削除するには、リスト内のビューを選択し、**［削除］** をクリックします。
［利用可能なビュー］リスト	ツアーに追加するために使用できるビューとビューフォルダーのリストを表示します。
［項目］リスト	ツアーに現在含まれている項目とそれらのサーバーのリストを表示します。

表80.[ツアー] ウィンドウ

新規ツアーの作成

新しいツアーを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **［ツアー］** ウィンドウで、**［新規ツアー］** をクリックします。
2. ツアーの名前と説明を [ツアー構成] ペインに入力します。
3. **［利用可能なビュー］** リストからビューを選択し、**［追加］** をクリックします。この手順を繰り返して、より多くのビューをツアーに追加します。
4. **［ツアー内のビュー］** リストでビューを選択し、**［休止時間］** を選択します。
5. **［適用］** をクリックします。

［レイアウト］ウィンドウ

[レイアウト]ウィンドウでは、カスタムビデオパネルレイアウトを作成して、**[ライブ]**ウィンドウに追加できます。カスタムビデオパネルレイアウトを作成するには、「

カスタムビデオパネルレイアウトの作成。**[レイアウト]**ウィンドウの機能の詳細については、「**表81.［レイアウト］ウィンドウ**」を参照してください。

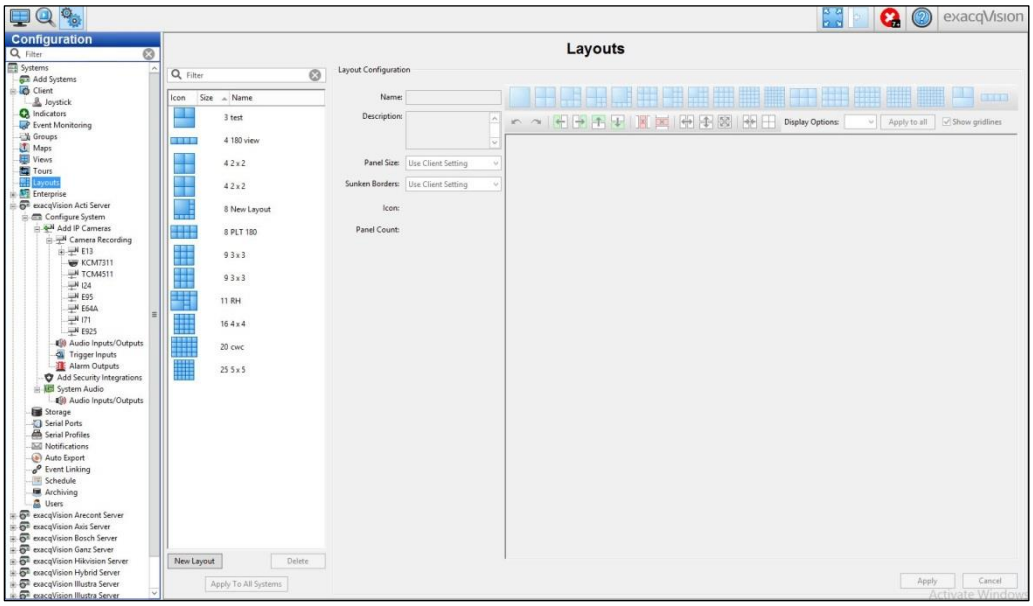


図57.[レイアウト]ウィンドウ

インターフェース要素	説明
［レイアウト］リスト	カスタムビデオパネルレイアウトのリストを表示します。
［パネルサイズ］リスト	レイアウト全体のビデオパネルサイズのリストを表示します。
［くぼんだ枠線］リスト	くぼんだ枠線の設定のリストを表示します。
	デフォルトのクライアント設定を使用するには、**［くぼんだ枠線］**リストから**［クライアント設定の使用］**を選択します。
［アイコン］領域	カスタムレイアウトディスプレイを**［ライブ］**ウィンドウでアイコンとして表示する方法を示します。
［パネル数］領域	レイアウト内にあるビデオパネルの数を表示します。レイアウトでのパネルの上限は 48 パネルです。
［構成］アイコン	それぞれの**［構成］**アイコンの機能の説明を表示するには、アイコンの上にカーソルを置きます。 1 つ以上のビデオパネルを選択するまで、アイコンはアクティブになりません。
［表示オプション］リスト	ビデオパネルの表示オプションを選択するには、ビデオパネルを選択し、**［表示オプション］**リストから表示オプションを選択します。
	表示オプションをすべてのビデオパネルに適用するには、**［表示オプション］**リストから表示オプションを選択し、**［すべてに適用］**をクリックします。
［グリッド線の表示］チェックボックス	ビデオパネルのサイズを比較します。

表81.[レイアウト]ウィンドウ

カスタムビデオパネルレイアウトの作成

カスタムビデオパネルレイアウトを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[レイアウト]** ウィンドウで、**[新規レイアウト]** をクリックします。
2. **[レイアウト構成]** 領域で、レイアウトの名前と説明を入力します。
3. **[パネルサイズ]** リストから、レイアウト全体のサイズを選択します。
4. [レイアウト構成] ペインの上部で、作成するカスタムレイアウトによく似たレイアウトオプションを選択します。
5. 1 つ以上のビデオパネルを選択します。

   注記： 複数のビデオパネルを選択するには、Ctrl キーを押し、ビデオパネルを選択します。
6. **[構成]** アイコンを使って、以下のアクションのうち 1 つ以上を実行します。
   - 2 つのパネルを結合するには、ビデオパネルの角を選択し、それを別のビデオパネル内にドラッグします。
   - ビデオパネルを削除するには、ビデオパネルを右クリックし、**[削除]** をクリックします。
   - ビデオパネルを分割するには、ビデオパネルを右クリックし、**[分割]** を選択します。
7. **[適用]** をクリックします。

[ビデオウォール] ウィンドウ

[ビデオウォール]ウィンドウでは、カスタムビデオウォールを作成して、複数のexacqVisionアプリケーションを同時にウィンドウ内に表示することができます。ビデオウォールを作成する方法については、**カスタムビデオウォールを作成する**を参照してください。**[ビデオウォール]**ウィンドウの機能についての詳細は、**表82**を参照してください。

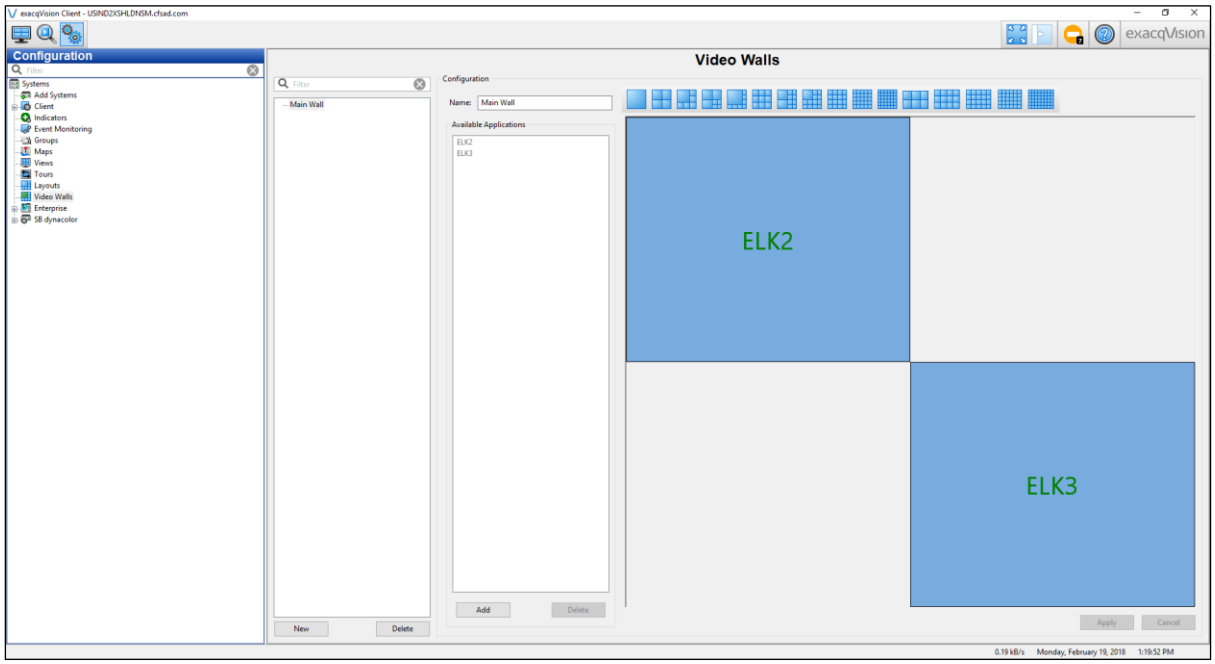


図58.[ビデオウォール]ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[ビデオウォール]レイアウトリスト	カスタムアプリケーションのレイアウトのリストを表示します。
[利用可能なアプリケーション] リスト	カスタムアプリケーションのレイアウトを作成するときに使用できるアプリケーションのリストを表示します。

表82.[ビデオウォール]ウィンドウ

カスタムビデオウォールを作成する

カスタムビデオウォールを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[ビデオウォール]**ウィンドウで**[新規]**をクリックします。
2. **[構成]**領域の**[名前]**フィールドにビデオウォールの名前を入力します。
3. **[構成]**領域の上部で、レイアウトのオプションを選択します。
4. **[利用可能なアプリケーション]**リストから、アプリケーションを選んでパネルにドラッグします。
5. **[適用]** をクリックします。

ビデオウォールを削除する

ビデオウォールを削除するには、以下の手順を実行します。

1. **[ビデオウォールのレイアウト]**リストから、削除するレイアウトを選択します。
2. **[削除]**をクリックします。

[システム情報] ウィンドウ

[システム情報] ウィンドウでは、システムにログオンしている現在のユーザーに関する情報、プラグインファイルのバージョン情報、およびシステムログを表示できます。**[システム情報]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表83.[システム情報] ウィンドウ**」を参照してください。

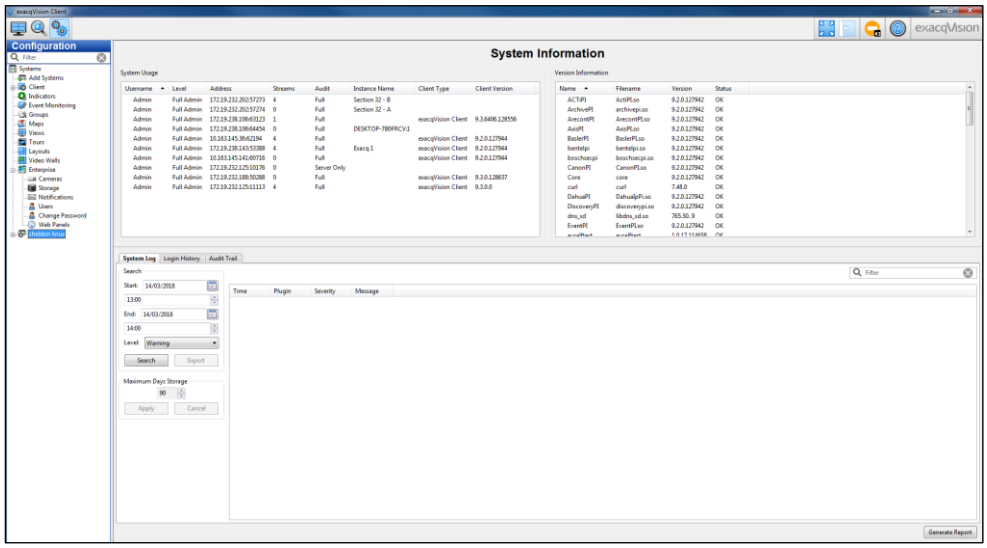


図59.[システム情報] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[システムの使用状況] ペイン	システムにログオンする現在のユーザー、ユーザーのアクセスレベル、IP アドレス、および表示するストリームの数を表示します。
[バージョン情報] ペイン	各システムファイルのソフトウェアバージョンを表示します。
[システムログ] タブ	システムログを検索するには、「**システムのログの検索**」を参照してください。
	リスト内の列見出しのいずれかをクリックして、**表示中の記録**のリストを並べ替えることができます。
	テキストエディタでシステムログを開くには、**[エクスポート]** をクリックします。
	システムログにエントリを保存しておく日数に期限を適用するには、**[保管する最大日数]** リストから日数を選択し、**[適用]** をクリックします。
[ログイン履歴] タブ	システムのユーザーのログイン履歴を表示します。**[ログイン履歴]** タブは exacqVision Start では使用できません。
	ログイン履歴を表示するには、開始日時および終了日時を選択し、**[検索]** をクリックします。
	ログ履歴を別のログファイルとして保存するには、**[エクスポート]** をクリックします。
	[ログイン履歴] タブを表示するには、互換性のあるシステムに接続する必要があります。
[監査証跡] タブ	システム上で実行されたアクションのリストを表示します。
	[監査証跡] リストを表示するには、開始日時および終了日時を選択し、**[検索]** をクリックします。**[監査証跡]** タブは exacqVision Start では使用できません。
	システムでアクションを保存しておく日数に期限を適用するには、**[保存する最大日数]** リストから日数を選択し、**[適用]** をクリックします。
	アクションを XML で表示するには、**表示中の記録** のリストのエントリをダブルクリックします。
	[監査証跡] タブを表示するには、互換性のあるシステムに接続する必要があります。
[生成]ボタン	システムのカメラとセキュリティとの統合設定に関する情報を含むPDFレポートを生成します。ユーザーは、レポートに含める内容を選択できます。詳細については、「**レポートの生成**」を参照してください。

表83.[システム情報] ウィンドウ

システムのログの検索

システムのログを表示するには、以下の手順を実行します。

1. **[検索]** 領域の **[システムログ]** タブで、開始日時を選択し、終了日時を選択します。
2. **[システムログレベル]** リストから、システムのログ内で検索するメッセージの種類を選択します。
3. **[検索]** をクリックします。

レポートの生成

システムのカメラとセキュリティの統合に関するレポートを生成するには、次の手順を実行します。

1. **[システム情報]** ウィンドウで、**[レポートの生成]** をクリックします。
2. **[タイトル]** フィールドに、レポートの名前を入力します。
3. **[項目]** および **[列]** リストから、レポートに含めたいシステムの機能を選択します。
4. **[並べ替え方法]** リストから、レポートのソート方法を選択します。
5. **[並べ替え]** 領域から次のオプションの一つを選択します。
   - **昇順**
   - **降順**
6. **[作成]** をクリックします。

Chapter 4. ［ライブ］ウィンドウ

［ライブ］ウィンドウの概要

[ライブ] ウィンドウで、以下のことを実行できます。

- カメラ、グループ、マップ、およびWebサイトを表示し、管理します。
- ライブビデオにブックマークを付けます。
- 他のクライアントシステムとの間で情報と音声を送受信します。
- exacqReplayを使ってビデオを再生します。

［ライブ］ウィンドウを開く

[ライブ] ウィンドウを開くには、以下の手順を実行します。

- ツールバーの **[ライブ]** ウィンドウアイコンをクリックします。

  注記： マルチストリーミング用に構成するカメラは、黄色の星の付いたナビゲーションツリー内に表示されます。マルチストリーミングの詳細については、「**マルチストリーミング**」を参照してください。

［ライブ］ウィンドウの機能

表84には、［ライブ］ウィンドウ内のアイコンの機能概要が示されています。

アイコン	名前	説明
	レイアウト	［レイアウト］アイコンを使用して、ビデオパネルのレイアウトを変更できます。詳細については、「ビデオパネル」を参照してください。
	ソフトトリガー	［ソフトトリガー］アイコンを使用して、ソフトトリガーの状態を表示する［ソフトトリガー］ウィンドウを開くことができます。詳細については、「［ソフトトリガー］ウィンドウ」を参照してください。
	ビデオプッシュ	［ビデオプッシュ］アイコンを使用して、ビューと他の項目を別の exacqVision システムに送信できる［ビデオプッシュ］ウィンドウを開くことができます。詳細については、「［ビデオプッシュ］ウィンドウ」を参照してください。
	双方向音声	［双方向音声］アイコンを使用して、音声を送受信できる［双方向音声］ウィンドウを開くことができます。詳細については、「［双方向音声］ウィンドウ」を参照してください。
	ブックマーク	［ブックマーク］アイコンを使用して、ライブビデオのブックマークを作成できます。Enterprise ライセンスを持つシステムの場合、［ケースの作成］アイコンがこのアイコンに取って代わります。
	ケースの作成	［ケースの作成］アイコンを使用して、ケースという複数のブックマークを作成できます。［ケースの作成］アイコンは、Enterprise ライセンスを持つシステムでのみ使用できます。
	PTZ コントロール	［PTZ コントロール］アイコンを使用して、PTZ カメラのコントロールにアクセスできます。詳細については、「 **アイコンをクリックします。**［ライブ］ウィンドウ内の PTZ カメラ。
	全画面モード	［全画面モード］アイコンを使用して、ナビゲーションツリーとツールバーを非表示にし、ビデオパネルを画面に合わせて拡大することができます。
	ナビゲーションパネル	［ナビゲーションパネル］アイコンを使用して、ナビゲーションツリーを非表示にしたり、拡張したりできます。
	インジケータ	［インジケータ］アイコンを使用して、システムのサーバーのヒント、エラー、および警告のリストを開くことができます。
	ヘルプ	［ヘルプ］アイコンを使用して、状況依存のヘルプを開くことができます。

表84.［ライブ］ウィンドウのアイコン

ビデオパネル

ビデオパネルは、ライブまたは録画されたビデオ、およびカメラまたは他の装置からキャプチャされた画像を表示します。**[ライブ]** ウィンドウでは、ツールバー上の **[レイアウト]** アイコンを使用してビデオパネルのレイアウトを変更できます。レイアウトをツールバーから選択すると、ナビゲーションツリー内のカメラがビデオパネルに自動的に追加されます。このレイアウトは、ビデオパネルのデフォルトレイアウトにもなります。利用可能な **[レイアウト]** アイコンは、接続するカメラの数および exacqVision クライアントウィンドウの幅によって異なります。カスタムレイアウトを作成するには、「

カスタムビデオパネルレイアウトの作成. ビデオパネルの機能の詳細については、「**表85.ビデオパネルの機能**」を参照してください。

機能	説明
ビデオパネルの追加	1 つのビデオパネルを追加するには、カメラをナビゲーションツリーからビデオパネルにドラッグアンドドロップします。そのパネルは空にするか、ビデオを表示することができます。
	すべてのビデオパネルにカメラを追加するには、ナビゲーションツリー内でカメラをダブルクリックします。カメラは左上のパネルに表示され、残りのパネルにはリスト内の次のカメラが追加されます。サーバーをビデオパネルにドラッグアンドドロップすると、ビデオパネルにそのサーバー内のカメラを追加することができます。
カメラの設定を開く	カメラの設定にアクセスするには、ビデオパネルを右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
カメラの削除	カメラをビデオパネルから削除するには、そのパネルを右クリックし、**[ビデオの切断]** を選択します。
画像の保存	ビデオパネル内の画像を保存するには、そのパネルを右クリックし、**[画像に名前を付けて保存]** または **[画像の保存]** を選択します。

表85.ビデオパネルの機能

[ライブ] ウィンドウでのクイック検索の実行

[ライブ] ウィンドウでクイック検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーションツリーから、検索する 1 つのカメラまたは複数のカメラをビデオパネルにドラッグします。
2. ビデオパネルを右クリックし、**[検索]** を選択します。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - **ビデオ：** 選択したビデオパネル内でカメラを検索します。
   - **レイアウト：** ビデオパネルレイアウト内ですべてのカメラを検索します。
4. **[検索]** ウィンドウが開き、選択した 1 つのカメラまたは複数のカメラから過去 2 時間分のビデオが再生されます。ビデオの検索の詳細については、「**[検索] ウィンドウの概要**」を参照してください。

グループの表示

[ライブ] ウィンドウでは、複数のサーバーからカメラと装置のグループを表示できます。グループの作成方法の詳細については、「**新規グループの作成**」を参照してください。

注記： グループ機能は exacqVision Start では使用できません。

グループを表示するには、以下の手順を実行します。

1. **[ライブ]** ウィンドウで、**[グループ]** をクリックします。
2. ナビゲーションツリーから、グループ内の最初のカメラをダブルクリックします。

   注記： ビデオパネルレイアウトにグループ内にあるカメラよりも多くのパネルが含まれている場合、リスト内の次のグループからの最初のカメラは、残りのパネル内に表示されます。

マップの表示

[ライブ] ウィンドウでは、場所または間取り図のマップ、およびマップに関連付けたカメラを表示できます。マップにリンクしたソフトトリガーとアラームを表示したり、有効にしたりすることもできます。マップにリンクされたカメラまたは装置を有するサーバーは、マップにアクセスできます。マップ上の [カメラ] アイコンの色が異なっている場合があります。それぞれの色は、装置の録画状態を表します。各色の意味の詳細については、「**表55.録画設定モード**」を参照してください。マップを作成したり、カメラ、アラーム、またはソフトトリガーをマップに関連付けたりする方法の詳細については、「**[マップ]** ウィンドウ」を参照してください。マップ表示機能の詳細については、「**表86. マップ表示機能**」を参照してください。

注記：マップ機能は exacqVision Start では使用できません。

マップを表示するには、以下の手順を実行します。

1. **[ライブ]** ウィンドウで、**[マップ]** をクリックします。
2. ナビゲーションツリーから、マップをビデオパネルにドラッグします。

機能	説明
マップとカメラを開く	マップおよびそのマップに関連付けられたカメラを開くには、**[レイアウト]** アイコンを選択し、ナビゲーションツリーからマップの名前をダブルクリックします。
関連付けられたカメラを開く	マップに関連付けられたカメラを開くには、ナビゲーションツリーでカメラをクリックし、それをビデオパネルにドラッグします。
トリガーまたはアラームの有効化	トリガーまたはアラームを有効にするには、マップ上でトリガーまたはアラームアイコンをダブルクリックします。
子マップを開く	子マップを開くには、ビデオパネルの右上隅にある子マップのアイコンをダブルクリックします。
マップにアクセスできるサーバーのリストを開く	マップにアクセスできるサーバーのリストを開くには、ビデオパネルでマップを右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。

表86.マップ表示機能

ビューへのアクセス

[ライブ] ウィンドウでは、**[ビュー]** ウィンドウで作成した既存のビューとツアーにアクセスし、追加のビューを作成できます。**[ライブ]** ウィンドウでビューを作成するには、「**[ライブ] ウィンドウでのビューの作成**」を参照してください。**[ビュー]** ウィンドウでビューまたはツアーを作成するには、「**ビューの作成**」および「**新規ツアーの作成**」を参照してください。

ビューまたはツアーにアクセスするには、以下の手順を実行します。

1. **[ライブ]** ウィンドウで、**[ビュー]** をクリックします。
2. ナビゲーションツリーから、ビューまたはツアーの名前をダブルクリックします。

   注記： ビューまたはツアー内にあるカメラおよびサーバーの名前を表示するには、ナビゲーションツリー内でビューの名前の上にカーソルを置きます。

[ライブ] ウィンドウでのビューの作成

[ライブ] ウィンドウでビューを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[ライブ]** ウィンドウで、ツールバーからカメラレイアウトを選択します。
2. ナビゲーションツリーから、目的とする装置をビデオパネルにドラッグします。
3. ナビゲーションツリーから、**[ビューの保存]** をクリックします。
4. ビューの名前と説明を **[ビューの保存]** ウィンドウに入力し、**[保存]** をクリックします。

[ライブ] ウィンドウでのブックマークの作成

[ライブ] ウィンドウでは、ライブビデオのブックマークを作成できます。Enterprise ライセンスを持つシステムの場合、ケースという複数のブックマークを作成できます。ブックマークとケースおよびそれらにアクセスする方法の詳細については、「**ブックマーク**」を参照してください。

[ライブ] ウィンドウでブックマークを作成するには、以下の手順を実行します。

1. ブックマークを付けようとするカメラがビデオパネルに表示されていることを確認してください。
2. ツールバーから、**[ブックマークの作成]** アイコンをクリックします。

   注記： Enterprise ライセンスを持つシステムの場合、**[ケースの作成]** アイコンが **[ブックマークの作成]** アイコンに取って代わります。
3. **[ライブケース]** ウィンドウに、ブックマークの作成の名前を入力します。

ブックマークを終了する場合は、**[録画の停止]** をクリックします。システムでビデオパネル内のカメラにブックマークが付けられている間に別のカメラを選択すると、新しいカメラが録画されます。ライブビデオブックマークにアクセスするには、「**ブックマーク検索の実行**」を参照してください。

[ビデオプッシュ] ウィンドウ

[ビデオプッシュ] ウィンドウを使用して、ビュー、レイアウト、ビデオウォール、グループ、カメラ、ツアー、マップ、プロファイル、およびシステム全体を、同じネットワーク上の別の exacqVision クライアントに送信できます。項目をパブリックビューモニターまたはビデオウォールに送信するには、本システムの起動時に実行されるように受信側 exacqVision クライアントを構成する必要があります。初めてクライアントソフトウェアをインストールする際に、このオプションを有効にすることができます。**[ビデオプッシュ]** ウィンドウを開くには、**[ライブ]** ウィンドウでツールバーから **[ビデオプッシュ]** アイコンをクリックします。**[ビデオプッシュ]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表87. [ビデオプッシュ] ウィンドウ**」を参照してください。

注記： ビデオプッシュ機能は、exacqVision Enterprise のみで使用できます。

デフォルトでは、パワーユーザーと完全管理ユーザーがビデオプッシュを使用できます。他のすべてのユーザーの場合、**[ユーザー]** ウィンドウの **[カスタムユーザー権限]** リストを使用してアクセス権を与える必要があります。詳細については、「**[ユーザー]** ウィンドウ」を参照してください。

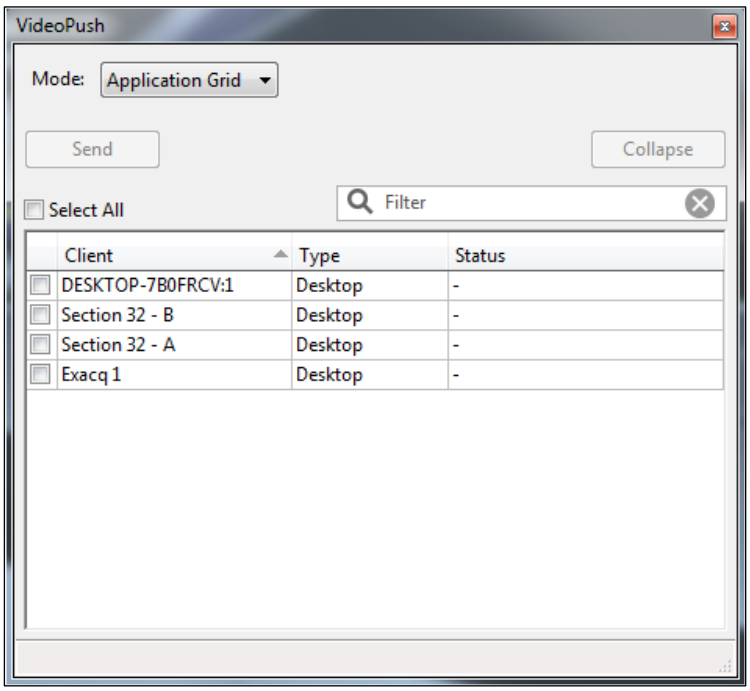


図60.[ビデオプッシュ] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
モードリスト	アプリケーションのリストを表示するには、**[アプリケーション]**を選択します。
	利用可能なビデオウォールのレイアウトを表示するには、**[ビデオウォール]**を選択します。
[クライアント] リスト	ビデオプッシュを使用して、項目を送信できる利用可能なクライアントのリストを表示します。
	ビデオプッシュ機能を使用して項目を受信するには、受信側の exacqVision クライアントが送信側と同じネットワーク上にあり、**[クライアント]** ウィンドウで **[表示の受信を有効にする]** チェックボックスを選択する必要があります。詳細については、「**[クライアント]** ウィンドウ」を参照してください。
	全画面モードで項目を送信するには、**[クライアント]** リストから exacqVision クライアントを右クリックし、**[全画面のプッシュ]** を選択します。
[状態] リスト	ビデオプッシュアクションが成功したかどうかに関する情報が表示され、exacqVision クライアントが正常に受信した項目の数が示されます。受信側の exacqVision クライアントが、送信される 1 つ以上の項目に関連付けられているシステムに接続されていない場合、クライアントは項目を受信できません。
[折りたたむ] ボタン	**[ビデオプッシュ]** ウィンドウのサイズを縮小して、**[ライブ]** ウィンドウ内のビデオパネルが見えるようにします。
	[ビデオプッシュ] ウィンドウのサイズを縮小するには、**[折りたたむ]** をクリックします。**[折りたたむ]** をクリックする前に **[クライアント]** リスト内で選択したすべての exacqVision クライアントは選択されたままになります。
[送信] ボタン	他の exacqVision クライアントに項目を送信します。項目を別の exacqVision クライアントに送信するには、**[クライアント]** リストからクライアントを選択し、**[送信]** をクリックします。

表87.[ビデオプッシュ]ウィンドウ

[ビデオプッシュ] ウィンドウを使用した情報の送信

[ビデオプッシュ] ウィンドウを使用して情報を送信するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーで、**[ビデオプッシュ]** アイコンをクリックします。
2. **[クライアント]** リストから対象のクライアントを 1 つまたは複数選択します。
3. **[送信]** をクリックします。

注記： 情報が正常に送信されると、短いメッセージが **[ライブ]** ウィンドウのステータスバーの左下隅に表示されます。その情報は、対象のクライアントのナビゲーションツリーに表示されます。実行していたタスクに戻るには、ツールバーから **[戻る矢印]** アイコンをクリックします。

[ライブ] ウィンドウ内の PTZ カメラ

パンチルトズーム (PTZ) カメラは、リモートで物理的に調整できるカメラです。PTZ カメラはジョイスティックを使用するか、または使用せずに制御できます。ジョイスティックを使って PTZ カメラを制御するには、「**[ジョイスティック]** ウィンドウ」を参照してください。ジョイスティックを使用せずに PTZ カメラを制御するには、カメラのビデオパネルの上にカーソルを置いて PTZ カメラコントロールを表示するか、またはツールバーから **[PTZ コントロール]** アイコンをクリックして **[PTZ コントロールパネル]** ウィンドウを使用します。**[PTZ コントロールパネル]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表88.[PTZ コントロールパネル] ウィンドウ**」を参照してください。

注記： **[PTZ コントロール]** アイコンは、**[ライブ]** ウィンドウ内のビデオパネルに PTZ カメラが表示されている場合にのみ表示されます。

ユーザーが起動した PTZ コマンドは、PTZ コマンドにリンクされているイベントよりも優先されます。これらのコマンドは、PTZ プリセットツアーよりも優先されます。2 つ以上の PTZ コマンドが同時に発生した場合に、最も高い優先度のコマンドが発生したときは、他のコマンドは一定時間の間無視されます。**[カメラ設定]** ウィンドウの **[機械的 PTZ]** タブで、**[再開時間]** を設定できます。詳細については、「**表27. [機械的 PTZ] タブの [プリセット] タブ**」を参照してください。

インターフェース要素	説明
[プリセット] リスト	PTZ カメラ用に保存されたビューのリストを表示します。
	プリセットをカメラに適用するには、**[プリセット]** リストからプリセットを選択します。
[パン/チルト] 領域	カメラの向きと向きの速度を調整します。
[ズーム] 領域	カメラのズームとズーム速度を調整します。
[アイリス] 領域	カメラのアイリスを調整します。**[アイリス]** 領域は、一部のカメラでのみ使用可能です。
[ツアーを有効にする] ボタン	PTZ プリセットツアーを有効にします。このボタンは、PTZ 管理許可を持つユーザーのみが使用できます。
[フォーカス] 領域	カメラのフォーカスを調整します。**[フォーカス]** 領域は、一部のカメラでのみ使用可能です。

表88.[PTZ コントロールパネル] ウィンドウ

[ライブ] ウィンドウ内のデジタル PTZ カメラ

デジタル PTZ カメラは物理的に移動しませんが、カメラのビューをズームし、ビュー内を移動することができます。デジタル PTZ カメラのコントロールを有効にするには、ビデオパネルを右クリックし、**[デジタル PTZ]** を選択します。

> **注記：** デジタル PTZ カメラを調整するには、システムのセットアップ時にデジタル PTZ を有効にする必要があります。魚眼カメラの場合、ビデオをデワープするための **[魚眼]** メニューが [デジタル PTZ] オプションに取って代わります。

ライブビデオ上でのズーム

ライブビデオの特定領域にズームインするために、領域ズーム機能を使用できます。

注記：この領域ズーム機能は、一部のカメラでのみ使用可能です。

ライブビデオ上でズームインするには、以下の手順を実行します。

1. **[ライブ]** ウィンドウで、ズームするビデオパネルをダブルクリックします。
2. Ctrl キーを押したままにします。

   注記：カーソルが **[虫眼鏡]** アイコンに変わります。
3. ビデオパネルを左クリックし、拡大する領域の周りにボックスが描かれるまで、虫眼鏡を対角線上にドラッグします。カーソルを放すと、カメラはボックス内にズームインします。

[双方向音声] ウィンドウ

音声の送受信のために双方向音声を使用できます。**[双方向音声]** ウィンドウでは、音声出力コネクターを通じて、カメラまたは装置から別のシステムまたは装置に音声を送信できます。**[双方向音声]** ウィンドウを開くには、**[ライブ]** ウィンドウでツールバーの **[音声]** アイコンをクリックします。

注記：[双方向音声] ウィンドウは、exacqVision Start では使用できません。

音声の送受信

[双方向音声] ウィンドウで音声を送信するには、以下の手順を実行します。

1. **[ライブ]** ウィンドウで、ツールバーの **[音声]** アイコンをクリックします。
2. オプション。現在表示されているカメラに関連付けられているサーバーからの音声出力のみを表示するには、**[ライブパネルに関するフィルター]** チェックボックスを選択します。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - **[出力]** リスト内のすべての利用可能な出力に音声を送信するには、**[通話]** をクリックします。
   - 個々の出力に音声を送信するには、**[出力]** リストから **[通話]** をクリックします。

exacqReplay を使用したビデオの再生

exacqReplay を使用して、1 台のカメラから、または **[ライブ]** ウィンドウで現在実行されている複数のカメラから、最新のライブビデオ録画を表示できます。exacqReplay がビデオを再生できる最大時間は、15 分間です。

exacqReplay を使用してビデオを再生するには、以下の手順を実行します。

1. **[ライブ]** ウィンドウで、ビデオパネルを右クリックし、**[exacqReplay]** を選択します。
2. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - **ビデオ：**選択したビデオパネル内でカメラを再生します。
   - **レイアウト：**ビデオパネルレイアウト内ですべてのカメラを再生します。
3. プレイバックを開始する時間を選択します。
4. ビデオを再生するには、exacqReplay ビデオコントロールを使用します。exacqReplay ビデオコントロールの詳細については、「**表 89. exacqReplay ビデオコントロール**」を参照してください。

[exacqReplay] ウィンドウ

[exacqReplay] ウィンドウでは、ビデオコントロール機能にアクセスして、exacqReplay ビデオ内をナビゲートしたり、**[タイムライン]** ペインの緑色のバーを使用して exacqReplay ビデオのダウンロード進行状況を追跡したり、exacqReplay ビデオを再生して検索したりできます。ビデオセグメント内でダウンロードされたフレームの数とフレームの総数は、**[タイムライン]** ペインの下にあるステータスバーに表示されます。exacqReplay ビデオコントロールの詳細については、「**表 89. exacqReplay ビデオコントロール**」を参照してください。

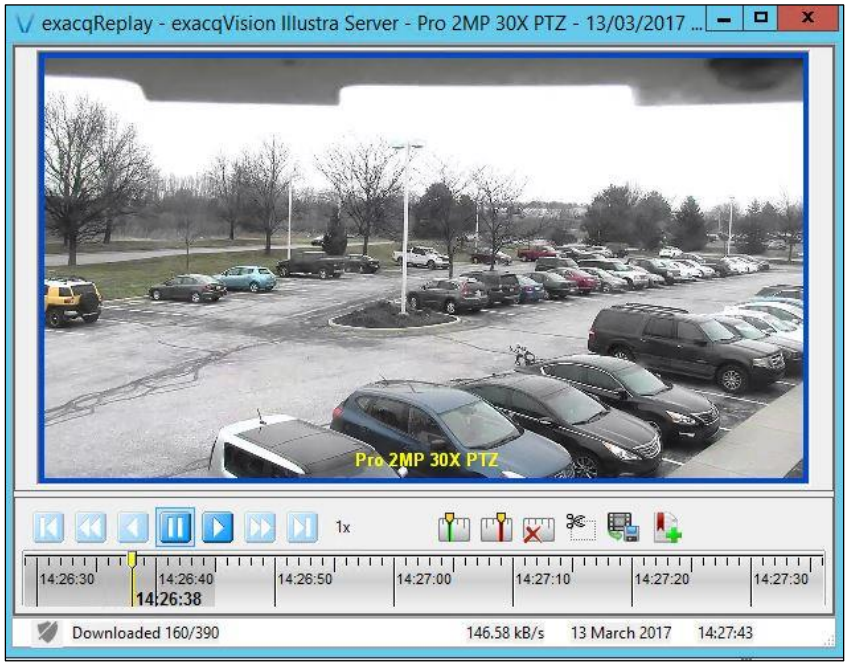


図 61. [exacqReplay] ウィンドウ

アイコン	説明
	1 度に 1 フレームずつ後方にビデオを再生します。
	ビデオを巻き戻します。
	ビデオを素早く巻き戻します。
	ビデオを一時停止します。
	ビデオを早送りします。
	ビデオを素早く早送りします。
	1 度に 1 フレームずつビデオを早送りします。

表 89. exacqReplay ビデオコントロール

イベント監視

[ライブ] ウィンドウで、イベントモニター機能を使用して、イベントを監視し、イベントの発生時に有効になるようにイベントトリガーを設定します。**[イベント監視]**リストを表示するようにイベントプロファイルを構成した場合、イベントモニター機能を有効にした後、イベントを監視するビデオパネルの下にそのリストが表示されます。イベントが発生すると、ユーザーがそのイベントを確認するまで、またはタイムアウト範囲が終了するまで、そのイベントが自動的にそのリストに表示されます。

注記：[仮想マトリックス]モードでイベントプロファイルを構成すると、**[イベント監視]**リストは表示されません。

[イベント監視]リストの詳細については、**「表90. イベント監視リスト機能」**を参照してください。イベントプロファイルを作成するには、**「イベント監視プロファイルの作成」**を参照してください。

注記イベント監視機能は exacqVision Start では使用できません。

機能	説明
イベントの再生	イベントを再生するには、青色の **[更新]** アイコンをクリックします。
イベントの確認	イベントを確認し、それをリストから削除するには、赤色の **[キャンセル]** アイコンを選択します。
すべてのイベントの削除	すべてのイベントをリストから削除するには、**[表示項目を消去]** をクリックします。
イベントの監視の停止	イベントの監視を停止するには、ビデオパネルを右クリックし、**[無効]** を選択します。

表90.イベント監視リスト機能

[ライブ] ウィンドウ内でのイベントの監視

[ライブ] ウィンドウでイベントを監視するには、以下の手順を実行します。

1. **[ライブ]** ウィンドウで、イベントを監視するビデオパネルを右クリックし、[イベントモニター]を選択します。
2. **[プロファイル]** リストから、イベントプロファイルを選択します。

   注記：監視するビデオパネルの周りに、オレンジ色の枠線が表示されます。イベントがトリガーされるまで、そのビデオは表示されません。

［ソフトトリガー］ウィンドウ

[ソフトトリガー]ウィンドウで、**[イベントリンク]**ウィンドウで作成したイベントのソフトトリガーを有効にしたり無効にしたりできます。**[ソフトトリガー]**ウィンドウを開くには、**[ライブ]**ウィンドウでツールバーの**[ソフトトリガー]**アイコンをクリックします。**[ソフトトリガー]**ウィンドウの機能の詳細については、「**表91：[ソフトトリガー]ウィンドウ**」を参照してください。

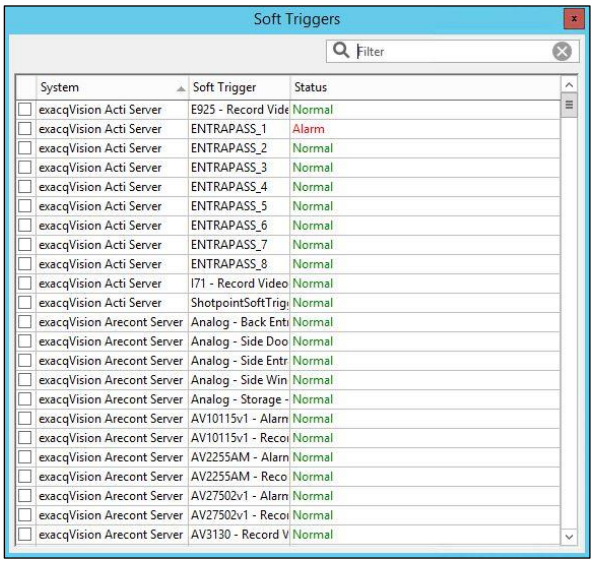


図62.[ソフトトリガー]ウィンドウ

インターフェース要素	説明
［ソフトトリガー］列	［イベントリンク］ウィンドウで作成したイベントを有効にするソフトトリガーの一覧を表示します。
	ソフトトリガーを有効にするには、ソフトトリガーのチェックボックスをオンにします。
	ソフトトリガーを無効にするには、ソフトトリガーのチェックボックスをオフにします。
［状態］列	［通常］は、ソフトトリガーが有効でないことを示します。 ［アラーム］は、ソフトトリガーが有効であることを示します。

表91：[ソフトトリガー]ウィンドウ

Chapter 5. ［検索］ウィンドウ

[検索] ウィンドウの概要

[検索] ウィンドウでは、以下の検索方法を使用してカメラ、グループ、およびマップから、録画されたビデオ、音声、およびイベントを検索し、再生できます。

- タイムライン検索
- サムネイル検索
- リスト検索
- スマート検索
- シリアルリスト検索

[検索] ウィンドウでは、ブックマークを検索したり、管理ファイルをエクスポートしたりできます。検索を実行すると、カメラまたは装置の名前をタイムラインに表示できます。録画バーは、さまざまな色で表示され、録画されたビデオのさまざまなモードを表します。各色の意味の詳細については、**[検索範囲]** 領域の下にある **[凡例の表示]** チェックボックスを選択します。

［検索］ウィンドウの機能

表92には、**[検索]**ウィンドウ内のアイコンの機能概要が示されています。

アイコン	名前	説明
	**タイムライン検索モード**	**[タイムライン検索モード]** アイコンを使用して、指定した時間範囲を使って項目を検索できます。詳細については、「**タイムライン検索**」を参照してください。
	**サムネイル検索モード**	**[サムネイル検索モード]** アイコンを使用して、1 台のカメラからビデオを検索し、指定した時間間隔からのサムネイル画像をキャプチャできます。詳細については、「**サムネイル検索**」を参照してください。
	**リスト検索モード**	**[リスト検索モード]** アイコンを使用して、定義した検索条件によって、カメラ、装置、およびイベントのリストを作成できます。詳細については、「**リスト検索**」を参照してください。
	**スマート検索**	**[スマート検索]** アイコンを使用して、モーションの発生を検索できます。詳細については、「**スマート検索**」を参照してください。
	**画像の保存**	**[画像の保存]** アイコンを使用して、キャプチャしたビデオ画像を保存できます。
	**エクスポート**	**[エクスポート]** アイコンを使用して、ビデオ、音声、およびシリアルデータをシステムからエクスポートできます。詳細については、「**ファイルのエクスポート**」を参照してください。
	**印刷**	**[印刷]** アイコンを使用して、保存したビデオ画像を印刷できます。
	**CD/DVD への書き込み**	**[CD/DVD への書き込み]** アイコンを使用して、保存したファイルを CD または DVD に書き込むことができます。詳細については、「**[ディスクの書き込み] ウィンドウ**」を参照してください。
	**ファイルの管理**	**[ファイルの管理]** アイコンを使用して **[ファイルの管理]** ウィンドウを開き、ファイルディレクトリからエクスポートしたコンテンツを開いたり、保存したり、削除したりできます。詳細については、「**[ファイルマネージャー] ウィンドウ**」を参照してください。
	**直接検索**	**[直接検索]** アイコンを使用して、exacqVision サーバーに接続することなく、exacqVision クライアントを直接アーカイブに接続できます。詳細については、「**直接検索**」を参照してください。
	**凡例の表示/非表示**	タイムラインの凡例を表示および非表示にします。
	**解析オーバーレイの表示/非表示**	解析オーバーレイを表示および非表示にします。
	**キーワードとシリアルデータの表示/非表示**	キーワードペインを表示および非表示にします。
	**ビデオプッシュ**	VideoPushウィンドウを開きます。詳細については、「**[検索]ウィンドウのVideoPush**」を参照してください。

表92.[検索]ウィンドウのアイコン

タイムライン検索

タイムライン検索は、指定した時間範囲内のカメラ、グループ、マップ、ビュー、音声、またはイベントを検索できます。

タイムライン検索の実行

タイムライン検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. **[検索]** ウィンドウで、**[タイムライン検索]** アイコンをクリックします。
2. ナビゲーションツリーから、検索する項目を選択します。
3. **[検索範囲]** 領域で、検索を開始し、終了する日時を選択します。

   注記：開始時間と終了時間のデフォルトの間隔は、2 時間です。開始時間を変更すると、設定された間隔が保たれるように終了時間が調整されます。
4. **[検索]** をクリックします。

サムネイル検索

サムネイル検索は、1 台のカメラからビデオを検索し、特定の時間間隔からのサムネイル画像をキャプチャできます。サムネイル検索を使用して、カメラ、およびグループとマップ内のカメラを検索できます。サムネイル検索の実行後は、タイムライン内にオレンジ色の線が表示され、各サムネイルのキャプチャ時間が示されます。サムネイル機能の詳細については、「**表93.サムネイル検索機能**」を参照してください。

注記：exacqVision ソフトウェアバージョン 4.9 以上を使用している exacqVision サーバーに接続されている場合にのみ、サムネイル検索を実行できます。

サムネイル検索の実行

サムネイル検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. **[検索]** ウィンドウで、**[サムネイル検索]** アイコンをクリックします。
2. ナビゲーションツリーから、カメラを選択します。
3. **[検索範囲]** 領域で、検索を開始し、終了する日時を選択します。
4. **[検索]** をクリックします。

機能	説明
サムネイルからのビデオ再生	サムネイルからビデオを再生するには、サムネイルをダブルクリックするか、サムネイルの **[再生]** アイコンをクリックします。
検索の中心化	サムネイルを検索の中心点にするには、**[+]** アイコンまたは **[−]** アイコンをクリックします。
サムネイルレイアウトの変更	サムネイル画像をより多くまたはより少なく表示するには、ツールバーから **[レイアウト]** アイコンを選択します。

表93.サムネイル検索機能

リスト検索

リスト検索では、カメラ、装置、およびイベントのリストを作成するために、期間やイベントタイプなどの検索条件を定義します。**[リスト検索]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表94. [リスト検索] ウィンドウ**」を参照してください。

注記： リスト検索オプションは、exacqVision ソフトウェアバージョン 7.2 以上でのみ利用できます。

リスト検索の実行

リスト検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. **[検索]** ウィンドウで、ツールバーから **[リスト検索]** アイコンを選択します。
2. ナビゲーションツリーから、1 つ以上のカメラ、装置、またはイベントを選択します。
3. **[検索範囲]** 領域で、検索を開始し、終了する日時を選択します。
4. **[検索]** をクリックします。

インターフェース要素	説明
[ソース] リスト	検索範囲内で行われるすべてのイベントのリストと画像を表示します。
	イベントを再生するには、タイムライン内でイベントをダブルクリックします。
	[exacqReplay] ウィンドウを開いてイベントを再生するには、イベントを強調表示し、**Enter** キーを押します。
[画像サイズ] ペイン	**[ソース]** リスト内の画像サイズを調整します。画像サイズを調整するには、スライダーを **[より大きく]** に向けて動かします。
[結果フィルター] ペイン	特定のタイプのイベントによって **[ソース]** リストをフィルター処理します。
	モーションまたはアラームイベントでないイベントを表示するには、**[イベント]** チェックボックスを選択します。
	モーションイベントを表示するには、**[モーション]** チェックボックスを選択します。モーションイベントはタイムライン内で青色に表示されます。
	アラームイベントを表示するには、**[アラーム]** チェックボックスを選択します。アラームイベントはタイムライン内で赤色に表示されます。

表94.[リスト検索] ウィンドウ

ビデオ再生

検索の実行後、ビデオ再生コントロールパネルを使用してビデオを再生できます。デフォルトでは、ビデオ再生のために検索したすべてのカメラが選択されています。ビデオ再生コントロールパネルの機能の詳細については、「**表95.ビデオ再生コントロールパネル**」を参照してください。

インターフェース要素	説明
タイムライン	ビデオ再生用にカメラを無効にしたり、有効にしたりするには、カメラの名前をクリックします。
	タイムライン内のビデオバーは色が変化し、ビデオのダウンロードの進行状況が示されます。**[凡例]** 領域でビデオのダウンロード色の詳細について確認できます。
	ダウンロードされたビデオを削除するには、タイムラインを右クリックし、**[すべてのキャッシュの消去]** または **[選択した項目キャッシュの消去]** を選択します。
ビデオパネル	1 台のカメラを表示するには、表示するカメラのビデオパネルをダブルクリックします。複数のカメラの表示に戻すには、ビデオパネルを再度ダブルクリックします。
カーソルライン	1 つまたは複数のビデオのダウンロード後に、カーソルを左右に動かすと、ビデオを素早く検索できます。
[再生] アイコン	一定の間隔でビデオを再生するには、タイムライン内で希望する時点でビデオバーをダブルクリックし、**[再生]** アイコンをクリックします。
[停止] アイコン	ビデオのダウンロードを停止します。ビデオのダウンロードを停止するには、**[停止]** アイコンをクリックします。この場合でも、**[停止]** アイコンをクリックする前にダウンロードされたすべてのビデオを表示できます。

表95.ビデオ再生コントロールパネル

ビデオ再生と販売時点管理（POS）

POS データに関連付けられているビデオを再生する場合、ビデオは再生時にそのデータと同期されます。POS データはビデオパネルの横に表示されます。1 つ以上の装置から検索する場合、各装置は別個のタブに表示されます。

注記：印刷できない文字は、データ表示から自動的に削除されます。

ビデオ再生でのイベントモーションの特定

アナログカメラでは、イベントトリガーの原因を特定するために、カメラの視点の領域を探すことができます。この機能は、風に吹かれている木の枝など、イベントの原因を特定するのが難しい場合に役立ちます。

イベントを特定するには、以下の手順を実行します。

- ビデオパネルを右クリックし、**[モーションの表示]** を選択します。青色のボックスは、モーションが発生している領域を示します。ビデオパネルを再び右クリックし、**[モーションの表示]** を選択すると、青色のボックスを取り除くことができます。

  注記この機能は、一部のカメラでのみ使用可能です。

スマート検索

スマート検索を使用して、カメラの視点の特定の領域内でモーションの発生を検索できます。1 × 1 ビデオパネルレイアウトでのみスマート検索を実行できます。

注記スマート検索機能は exacqVision Start では使用できません。

スマート検索の実行

スマート検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. 検索を実行します。
2. ツールバーから、**[スマート作成]** アイコンをクリックします。

   注記：[スマート作成] アイコンを有効にする場合は、1 つのカメラのみを選択し、そのビデオがダウンロードされていることを確認してください。
3. ビデオパネルを左クリックし、検索する領域の上にボックスが描かれるまで、カーソルをドラッグします。
4. **[スマート検索]** ウィンドウでモーション感度を調整するには、**[感度]** スライダーを右に動かします。

   注記：一部のカメラとサーバーハードウェアでは、**[埋め込みデータの使用]** オプションもサポートしています。このオプオションは、ビデオの録画中にモーション値を取得し、使用することにより、スマート検索の速度を上げることができます。
5. [OK] をクリックし、次に、タイムライン内でフレームを表示するために [OK] をクリックします。スマート検索が完了すると、選択した領域からのモーションを含むフレームの数が表示されます。

   注記：スマート検索フレームはタイムライン内にオレンジ色で表示されます。

ビデオを再生すると、そのビデオではスマート検索フレームのみが再生されます。

マップ検索

マップ検索を使用して、マップに関連付けられているカメラ内のビデオを見つけることができます。マップ画像をアップロードし、カスタムマップを作成する方法の詳細については、「**[マップ]** ウィンドウ」を参照してください。

注記：マップ検索機能は exacqVision Start では使用できません。

マップ検索の実行

マップ検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. **[検索]** ウィンドウで、**[マップ]** を選択します。
2. ナビゲーションツリーから、検索するマップを選択します。

   注記：マップを選択すると、そのすべての子マップおよびマップに関連付けられているカメラも選択できます。子マップまたはカメラを削除するには、ナビゲーションツリー内でそれらを消去します。
3. **[検索範囲]** 領域で、検索を開始し、終了する日時を選択します。
4. **[検索]** をクリックします。

ビュー検索

ビュー検索を使用して、カスタムビューからビデオを検索できます。

ビュー検索の実行

ビュー検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. **[検索]** ウィンドウで、**[ビュー]** を選択します。
2. ナビゲーションツリーから、検索するビューを選択します。

   注記：ナビゲーションツリー内でビューの上にカーソルを置くと、どのカメラがビュー内にあるのかを確認することができます。
3. **[検索範囲]** 領域で、検索を開始し、終了する日時を選択します。
4. **[検索]** をクリックします。

イベント検索

イベント検索を使用して、**[イベントリンク]**ウィンドウで以前に構成した特定のイベントに検索を絞り込むことができます。イベント検索を使用して、イベントに関連付けられているビデオと音声を検索することもできます。

注記イベント検索機能は exacqVision Start では使用できません。

イベント検索の実行

イベント検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. **[検索]**ウィンドウで、**[イベント]**を選択します。
2. ナビゲーションツリーから、検索するイベントを選択します。
3. **[検索範囲]**領域で、検索を開始し、終了する日時を選択します。
4. **[検索]**をクリックします。
5. オプション。タイムライン内の赤色のバーは、ビデオまたは音声が録画のためにトリガーされたときを示しています。ナビゲーションツリー内でカメラを選択し、イベントによる検索を実行することで、そのイベントが属するビデオを検索できます。

[検索]ウィンドウのVideoPush

[検索]ウィンドウでは、録画されたビデオを検索し、VideoPush機能を使用して別の exacqVisionクライアントに送信することができます。VideoPushの詳細については、**[ビデオプッシュ]**ウィンドウを参照してください。

[検索]ウィンドウでVideoPushを使用してビデオを送信する

[検索]ウィンドウでVideoPushを使用してビデオを送信するには、以下の手順を実行します。

1. **[検索]**ウィンドウで、検索を実行します。
2. ツールバーから、**[VideoPush]**アイコンをクリックします。
3. **[VideoPush]**ウィンドウで、**[モード]**リストからオプションを選択します。詳細については、「**[ビデオプッシュ]**ウィンドウ」を参照してください。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - **送信:** ビデオ全体を送信します。
   - **フレームを送信:** ビデオの静止フレームを送信します。

ブックマーク

ブックマークは、永続的に保存し、exacqVision クライアントで容易にアクセスできるビデオクリップです。作成したブックマークのリストにアクセスするには、**[検索]** ウィンドウで **[ブックマーク]** を選択します。**[新規ブックマーク]** タブの機能の詳細については、「**表96.[新規ブックマーク] タブ**」を参照してください。

注記： ブックマーク機能は exacqVision Start では使用できません。

インターフェース要素	説明
チェックボックスの保存後にブックマークに移動	ブックマークの保存直後にブックマークを表示するには、**[保存後にブックマークに移動]** チェックボックスを選択します。
[新規ケース] ボタン	ブックマークの集まりを作成します。

表96.[新規ブックマーク] タブ

[検索] ウィンドウでのブックマークの作成

[検索] ウィンドウでブックマークを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[検索]** ウィンドウで、ツールバーの **[ブックマーク]** アイコンをクリックします。
2. [タイムライン] ペインで、**[ブックマークの開始]** アイコンまたは **[ブックマークの終了]** アイコンを選択します。デフォルトのブックマーククリップが表示されます。
3. ブックマークを付けるビデオクリップの開始と終了にマークを付けるために、カーソルラインを調整します。

   注記： 緑色のカーソルは、ブックマーククリップの開始にマークを付け、赤色のカーソルクリップは、ブックマーククリップの終了にマークを付けます。
4. [タイムライン] ペインで、**[ブックマークの作成]** アイコンをクリックします。
5. **[新規ブックマーク]** タブで、ブックマークの名前と説明を入力します。
6. **[適用]** をクリックします。

ブックマーク検索の実行

ブックマーク検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - Enterprise ライセンスを持つシステムの場合、**[ケース]** をクリックします。
   - Professional ライセンスを持つシステムの場合、**[ブックマーク]** をクリックします。
2. ナビゲーションツリーから、検索するブックマークを選択します。
3. **[検索範囲]** 領域で、検索を開始し、終了する日時を選択します。
4. **[検索]** をクリックします。

ケース検索の実行

Enterprise ライセンスを持つシステムは、**[ライブ]** ウィンドウでケースを作成できます。詳細については、「**[ライブ] ウィンドウでのブックマークの作成**」を参照してください。ケース検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. **[検索]** ウィンドウで、**[ケース]** をクリックします。
2. ナビゲーションツリーから、検索するケースを選択します。
3. **[検索範囲]** 領域で、検索を開始し、終了する日時を選択します。
4. **[検索]** をクリックします。

シリアル検索

キーワードまたはルールにリンクされているイベントについて装置を検索するには、シリアル検索を実行します。キーワードまたはルールの作成方法の詳細については、「**シリアルデータ文字列検索のルールの作成**」を参照してください。

シリアル検索の実行

この機能は、シリアル装置をサポートするサーバーに対してのみ利用できます。シリアル検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーションツリーから装置を選択します。
2. **[シリアル検索]** フィールドに、キーワードを入力します。
3. オプション。ルールまたはキーワードを変更するには、**[鉛筆]** アイコンをクリックします。
4. **[検索範囲]** 領域で、検索を開始し、終了する日時を選択します。
5. **[検索]** をクリックします。時間範囲内で発生したすべてのキーワードまたはルールは、タイムラインに赤色で表示されます。関連付けられているビデオは青色で表示されます。

キーワード検索

キーワード検索を使用して、そのキーワードについてサーバー上の装置を検索できます。システムでキーワードの記録を無効にするには、「**キーワードの無効化**」を参照してください。

注記この機能は、セキュリティ統合をサポートするサーバーに対してのみ利用できます。

キーワード検索の実行

キーワード検索を実行するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーションツリーから装置を選択します。
2. **[キーワード検索]** フィールドに、キーワードを入力します。

   注記シリアル装置とセキュリティ統合装置の両方を選択した場合、**[シリアルの検索]** フィールドも表示されます。詳細については、「**シリアル検索**」を参照してください。
3. オプション。キーワード条件を変更するには、**[鉛筆]** アイコンをクリックします。
4. **[検索範囲]** 領域で、検索を開始し、終了する日時を選択します。
5. **[検索]** をクリックします。検索結果は、ビデオパネルの右側に表示されます。

解析オーバーレイ

解析オーバーレイは、カメラが分析イベントを識別する領域、（例えば**入力されたオブジェクト**、**終了したオブジェクト**、および**顔検出**など）を表します。

注記カメラの解析を設定するには、カメラの解析Webページに移動します。

解析メタデータ検索の実行

解析メタデータ検索を実行するには、以下の手順を実行します:

1. ナビゲーションツリーから、検索する解析オーバーレイを選択します。
2. **[検索範囲]** 領域で、検索を開始し、終了する日時を選択します。
3. オプション。検索を絞り込むには、**[フィルターを表示]**チェックボックスをオンにします。詳細については、「**表97**」を参照してください。
4. **[検索]** をクリックします。検索結果は、ビデオパネルの右側に表示されます。

インターフェース要素	説明
[ソース]リスト	検索を1つのキーワードに制限するには、**[ソース]** リストを使います。
[キー]リスト	**[キー]**リストを使うと、オブジェクトIDを選択するか、または検索する領域の周囲に境界ボックスを描画することにより、検索を絞り込むことができます。
	境界ボックスを作成するには、**[キー]**リストから**[境界ボックス]**を選択し、検索したい場所の周囲にボックスが描かれるまで、ビデオパネル上でカーソルを対角にドラッグします。
数値フィールド	数値番号で検索します

表97.キーワード/解析条件ペイン

ファイルのエクスポート

Professional または Enterprise ライセンスを持つカメラ最大 16 台からファイルをエクスポートできます。Start ライセンスでは、1 台のカメラからファイルをエクスポートできます。

ビデオファイルのエクスポート

ビデオファイルをエクスポートするには、以下の手順を実行します。

1. **[検索]** ウィンドウで、検索を実行します。ビデオ検索の実行方法の詳細については、「**[検索] ウィンドウの概要**」を参照してください。
2. [タイムライン]ペインで、タイムライン内のビデオクリップの開始位置を特定し、**[開始にマーク付け]** を選択します。
3. ビデオクリップの開始と終了にマークを付けるために、カーソルラインを調整します。

   注記：緑色のカーソルは、ビデオの開始にマークを付け、赤色のカーソルクリップは、ビデオの終了にマークを付けます。
4. オプション。エクスポートするビデオの特定の領域を選択するには、**[エクスポートのトリミング]** アイコンをクリックし、エクスポートするビデオの領域を選択します。

   注記：ビデオ再生のために 1 台のカメラを選択する場合にのみ、このオプションを利用できます。
5. ツールバーから **[ビデオのエクスポート]** アイコンをクリックします。
6. **[ビデオのエクスポート]** ウィンドウで、ファイル名を入力します。
7. ファイルの位置とファイルタイプを選択し、**[保存]** をクリックします。

   注記：デフォルトのファイルタイプは .exe（スタンドアロンの実行可能ファイル）です。exacqVision クライアントにアクセスできないユーザーが実行可能なプレーヤーでは .exw ファイルを起動できます。また、.psx、パッケージ化された .ps、.avi、.mov、および mp4 ファイル形式を選択できます。

システムがエクスポート処理中に切断された場合、エクスポート処理はシステムの再接続後に自動的に再開されます。

エクスポートプレーヤー

以下のリンクを使用して、プレーヤーをダウンロードできます。

- Windows Media プレーヤー
  http://www.microsoft.com/windows/windowsmedia/default.mspx
- Quicktime プレーヤー
  http://www.apple.com/quicktime/download
- VLC プレーヤー
  http://www.videolan.org/vlc
- MPlayer
  http://www.mplayerhq.hu/design7/dload.html

以下のリンクを使用して、コーデックをダウンロードできます。

- 3ivx MPEG4 デコーダー
  http://store.3ivx.com/3ivxStore/?features=dec&platform=win&license=plus&Go=Go
- DivX デコーダー
  http://www.divx.com/en/downloads
- Quicktime コーデックリソース
  http://www.apple.com/quicktime/resources/components.html?os=Windows&ctype=696d6463&csubtype=48323634
- Quicktime 用 Perian コーデック
  http://www.perian.org

表98には、オペレーティングシステムの互換性に関する情報が示されています。

	Windows プレーヤー			Linux プレーヤー		Mac プレーヤー
ビデオ形式	WMP*	Quicktime プレーヤー	VLC	MPlayer	VLC	Quicktime プレーヤー
AVI MJPEG	●	● DivX デコーダー併用	●	●	●	● DivX デコーダー併用
AVI MPEG4	● DivX 併用	● DivX デコーダー併用	●	●	●	● DivX デコーダー併用
AVI MPEG4 ASP 併用	● DivX 併用	● DivX デコーダー併用	●	●	●	● DivX デコーダー併用
AVI H.264	● DivX 併用	● DivX デコーダー併用	●	●	●	● DivX デコーダー併用
Quicktime MJPEG		●	●	●	●	●
Quicktime MPEG4		●	●	●	●	●
Quicktime MPEG4 ASP 併用		● 3ivx MPEG4 デコーダー併用	●	●	●	● 3ivx MPEG4 デコーダー併用
Quicktime H.264		●	●	●	●	●
mp4 MJPEG			●		●	
mp4 MPEG4		●	●	●	●	●
mp4 MPEG4 ASP 併用		● 3ivx MPEG4 デコーダー併用	●	●	●	● 3ivx MPEG4 デコーダー併用
mp4 H.264		●	●	●	●	●

表98.QuicktimeおよびAVIファイルエクスポートプレーヤー

[ディスクの書き込み] ウィンドウ

[ディスクの書き込み] ウィンドウを使用して、ファイルを CD または DVD に書き込むことができます。**[ディスクの書き込み]** ウィンドウを開くには、ツールバーから **[CD/DVD への保存]** アイコンをクリックします。**[ディスクの書き込み]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表99.[ディスクの書き込み] ウィンドウ**」を参照してください。

> **注記：**お使いのコンピューター上に CD バーナーがない場合、**[CD/DVD への保存]** アイコンは使用できません。

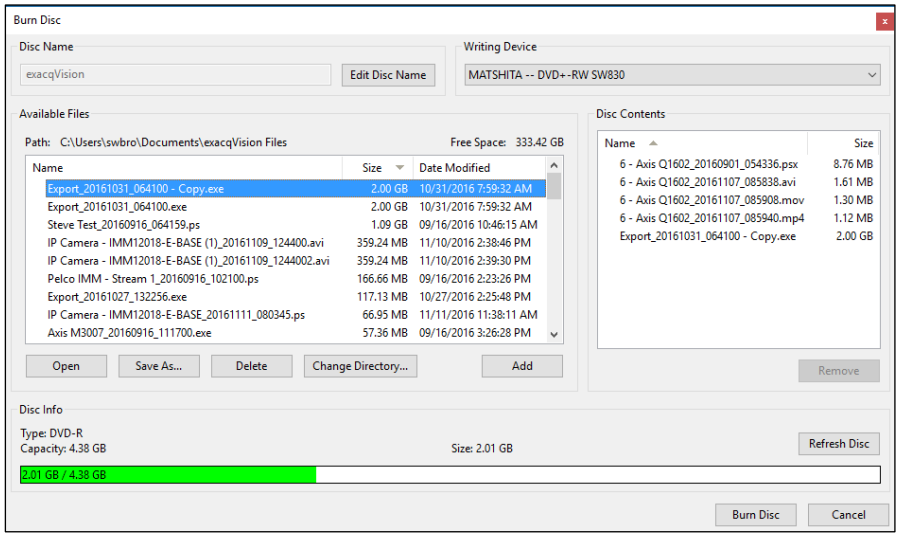


図63.[ディスクの書き込み] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[ディスク名の編集] ボタン	ディスク名を編集するには、**[ディスク名の編集]** をクリックします。
[利用可能なファイル] リスト	ディレクトリ内のビデオクリップを表示します。
	ビデオクリップをディスクに追加するには、ビデオクリップを選択し、**[追加]** をクリックします。
	ビデオクリップをディレクトリから削除するには、ビデオクリップを選択し、**[削除]** をクリックします。
	ビデオクリップを開くには、そのファイルを選択し、**[開く]** をクリックします。
	ディレクトリを変更するには、**[ディレクトリの変更]** をクリックします。
[ディスクの内容] リスト	書き込みに利用可能なファイルリストから選択した内容を表示します。
	ビデオクリップをディスクから削除するには、ビデオクリップを選択し、**[削除]** をクリックします。
[ディスク情報] ペイン	ディスク容量に関する情報を表示します。
	読み込みバーには、ディスクの容量が表示され、**[ディスクの内容]** リストの内容を書き込むために必要になる領域量が示されます。ディスクが存在しない場合、読み込みバーには 0 が表示されます。ディスクを挿入したり交換したりした場合、**[ディスクの更新]** をクリックします。
[ディスクの書き込み] ボタン	**[ディスクの書き込み進行状況]** ウィンドウを開きます。
	[ディスクの書き込み進行状況] ウィンドウでディスクの書き込み処理を開始するには、**[ディスクの書き込み]** をクリックし、**[書き込み]** をクリックします。

表99.[ディスクの書き込み] ウィンドウ

[ファイルマネージャー] ウィンドウ

[ファイルマネージャー] ウィンドウでは、ファイルディレクトリからエクスポートした内容を表示し、開き、保存し、削除することができます。この機能は、アクセス制限のあるシステムユーザー、およびディスクの書き込みを行う適切なメディアドライブのないコンピューターにとって役立ちます。**[ファイルマネージャー]** ウィンドウを開くには、ツールバーの **[ファイルの管理]** アイコンをクリックします。**[ファイルマネージャー]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表100. [ファイルマネージャー] ウィンドウ**」を参照してください。

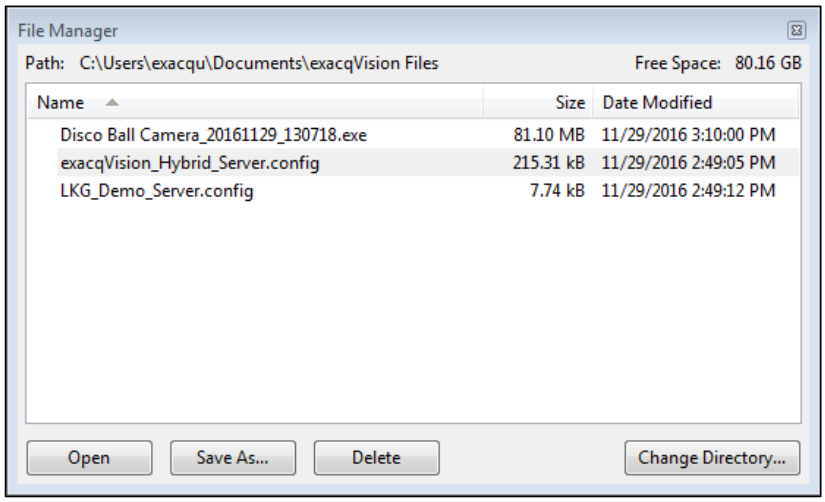


図64.[ファイルマネージャー] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[ディレクトリファイル] リスト	ディレクトリからのファイルのリストを表示します。
	ディレクトリを変更するには、**[ディレクトリの変更]** をクリックします。
[開く] ボタン	ディレクトリからファイルを開くには、**[ディレクトリファイル]** リストからファイルを選択し、**[開く]** をクリックします。
[名前を付けて保存] ボタン	ディレクトリからのファイルを保存するには、**[ディレクトリファイル]** リストからファイルを選択し、**[保存]** をクリックします。
[削除] ボタン	ディレクトリからのファイルを削除するには、**[ディレクトリファイル]** リストからファイルを選択し、**[削除]** をクリックします。

表100.[ファイルマネージャー] ウィンドウ

Chapter 6. Enterprise 管理

Enterprise 管理の概要

Enterprise 管理セクションには、exacqVision Enterprise のみで使用できる機能が含まれています。

注記：Enterprise 管理機能は、exacqVision Enterprise のみで使用できます。

[Enterprise システム] ウィンドウ

[Enterprise システム] ウィンドウでは、システム構成を他のサーバーに送信し、発信接続を管理し、手動フェールオーバー機能を有効にし、システム全体にタイムサービスを適用することができます。

[Active Directory/LDAP] タブ

LDAP 構成は、ネットワークまたは企業全体にわたって同一です。**[Active Directory/LDAP]** タブでは、1 台のサーバーの構成を読み込み、それを他のすべての exacqVision Enterprise サーバーに送信できます。詳細については、「**表101.[Enterprise システム] ウィンドウの [Active Directory/LDAP] タブ**」および「**[Enterprise システム]** ウィンドウ」を参照してください。

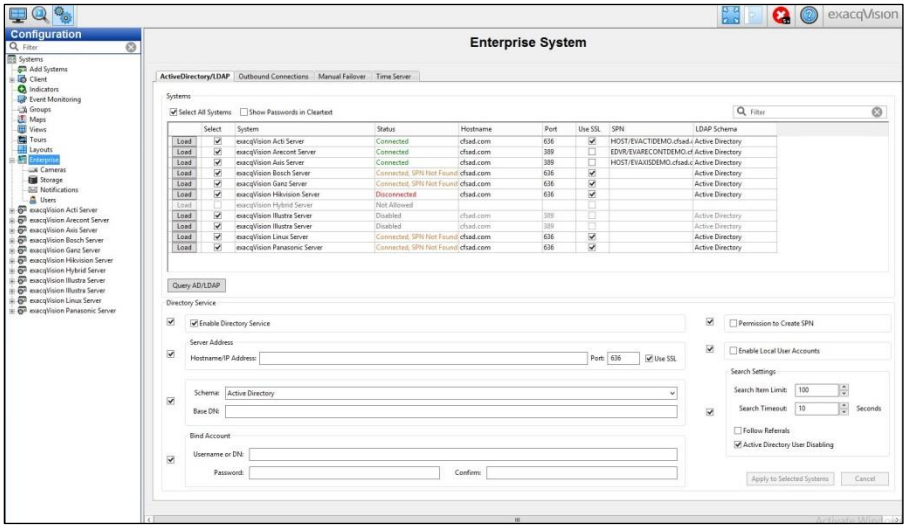


図65.[Enterprise システム] ウィンドウの [Active Directory/LDAP] タブ

インターフェース要素	説明
[システム] ペイン	Enterprise ライセンスを持ち、LDAP 構成に利用できる exacqVision サーバーのリストを表示します。
	[ディレクトリサービス] ペインのフィールドにサーバーの LDAP 構成情報を入力するには、そのサーバーを選択し、**[読み込み]** をクリックします。
[ディレクトリサービス] ペイン	[ディレクトリサービス] ペインの構成設定を [システム] ペインに送信するには、各構成領域の横にあるチェックボックスを選択し、**[選択したシステムへの適用]** をクリックします。

表101.[Enterprise システム] ウィンドウの [Active Directory/LDAP] タブ

［発信接続］タブ

[発信接続] タブでは、**[システム]** ウィンドウで各サーバーに対して構成した発信接続を管理し、接続の状態を表示できます。詳細については、「**表102.[Enterprise システム] ウィンドウの [発信接続] タブ**」を参照してください。

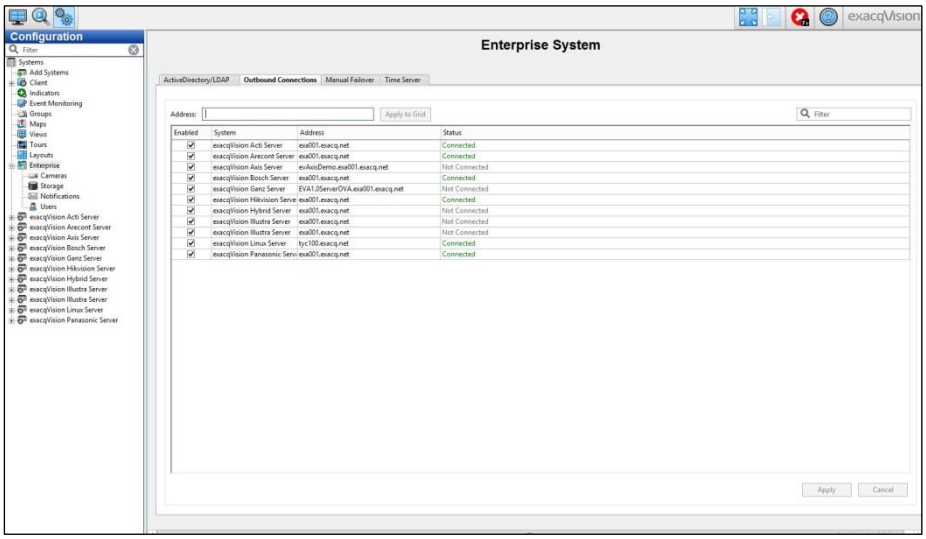


図66.[Enterprise システム] ウィンドウの [発信接続] タブ

インターフェース要素	説明
［システム］リスト	サーバーの接続を有効にするには、**［有効］**チェックボックスを選択します。
	サーバーの接続を無効にするには、**［有効］**チェックボックスをオフにします。
	アドレスをサーバーに適用するには、アドレスをシステムの **［アドレス］**列に入力します。ドメイン名を入力すると、exacqVision システムはそのバーサーを自動的に識別します。
［アドレス］フィールド	アドレスを **［システム］**リスト内のすべてのシステムに適用するには、**［アドレス］**フィールドにアドレスを入力し、**［適用］**をクリックします。

表102.[Enterprise システム] ウィンドウの [発信接続] タブ

［手動フェールオーバー］タブ

ESM (Enterprise System Manager) は、exacqVision サーバー用のフェールオーバー機能です。監視対象のすべての exacqVision サーバーにわたってフェールオーバー処理を自動的に管理するように、ESM を構成できます。ただし、ESM モニターがサーバーを監視するものの、サーバーに対するフェールオーバー機能は管理しない場合、**[Enterprise システム]** ウィンドウの **[手動フェールオーバー]** タブでフェールオーバーを適用できます。詳細については、「**表103.[Enterprise システム] ウィンドウの [手動フェールオーバー] タブ**」を参照してください。

> **注記：［手動フェールオーバー］** タブは、ESM がフェールオーバーのためにそのサーバーを監視している場合にのみ表示されます。

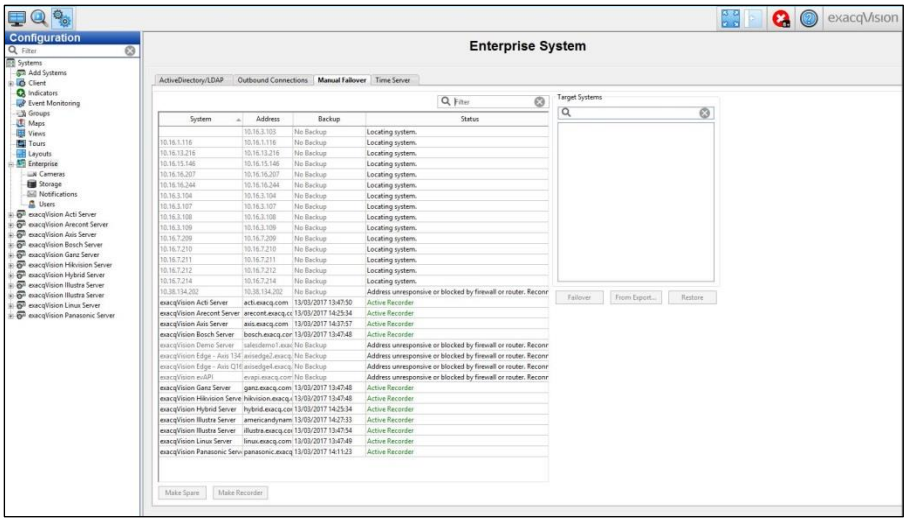


図67.[Enterprise システム] ウィンドウの [手動フェールオーバー] タブ

インターフェース要素	説明
［システム］リスト	フェールオーバーに利用可能なサーバーのリストを表示します。
［対象システム］ペイン	手動フェールオーバーを適用するには、［対象システム］ペインからサーバーを選択し、**［フェールオーバー］** をクリックします。
	フェールオーバーサーバーを復元するには、［対象システム］ペインからサーバーを選択し、**［復元］** をクリックします。
	サーバーのリストを［対象システム］ペインにインポートするには、**［エクスポートから］** をクリックします。
［予備の作成］ボタン	他のサーバーがフェールオーバーする対象としてサーバーを再起動します。
［レコーダーの作成］ボタン	サーバーを exacqVision レコーダーとして再起動します。

表103.[Enterprise システム] ウィンドウの [手動フェールオーバー] タブ

［タイムサーバー］タブ

[Enterprise システム] ウィンドウで **[タイムサーバー]** タブを使用して、企業全体にわたるタイムサーバーとタイムサービスを表示し、適用できます。**[タイムサーバー]** タブを使用するには、各サーバーに Enterprise ライセンスが必要です。詳細については、「**表104.[Enterprise システム]**」を参照してください。

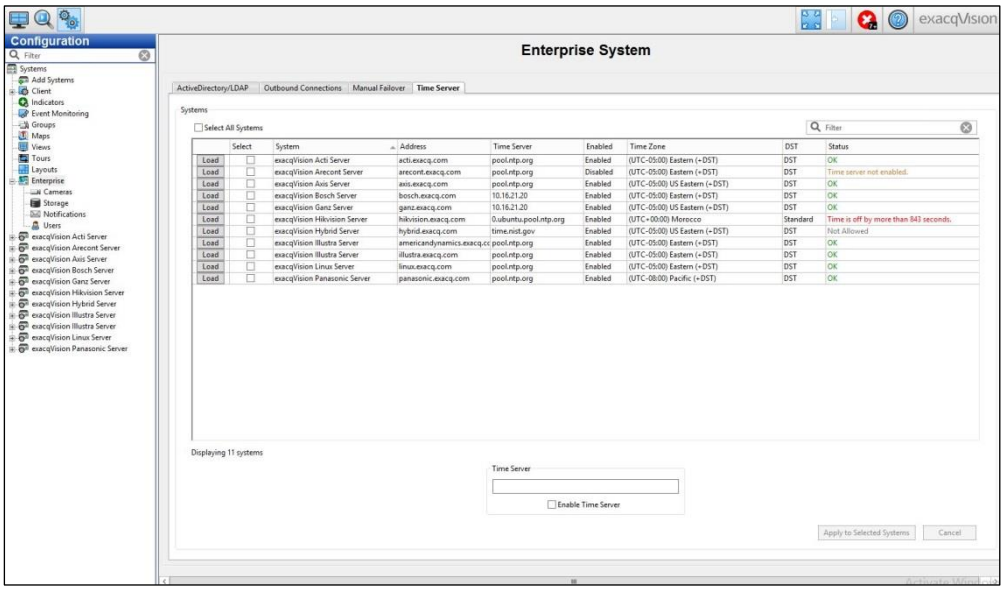


図68.[Enterprise システム] ウィンドウの [タイムサーバー] タブ

インターフェース要素	説明
［システム］リスト	システム内で Enterprise ライセンスを持つサーバーのリストを表示します。
	システム内のすべてのサーバーを選択するには、**［すべてのシステムの選択］** チェックボックスを選択します。
	サーバーのタイムサーバー設定を他のサーバーに適用するには、そのサーバーの横にある **［読み込み］** をクリックし、設定を適用するサーバーを選択し、**［選択したシステムへの適用］** をクリックします。
［タイムサーバー］ペイン	インターネットまたはローカルネットワークタイムサーバーを、**［システム］** リストで選択したシステムに適用します。
	［システム］ リストで選択したシステムにタイムサーバーを適用するには、**［タイムサーバー］** フィールドにタイムサーバーを入力し、**［タイムサーバーを有効にする］** チェックボックスを選択し、**［選択したシステムへの適用］** をクリックします。

表104.[Enterprise システム]ウィンドウの [タイムサーバー] タブ

[セキュリティ] タブ

[Enterprise システム]ウィンドウの**[セキュリティ]** タブでは、セキュリティ設定を適用したり、サーバー内のすべてのユーザーアカウントのアクセススケジュールを変更することができます。

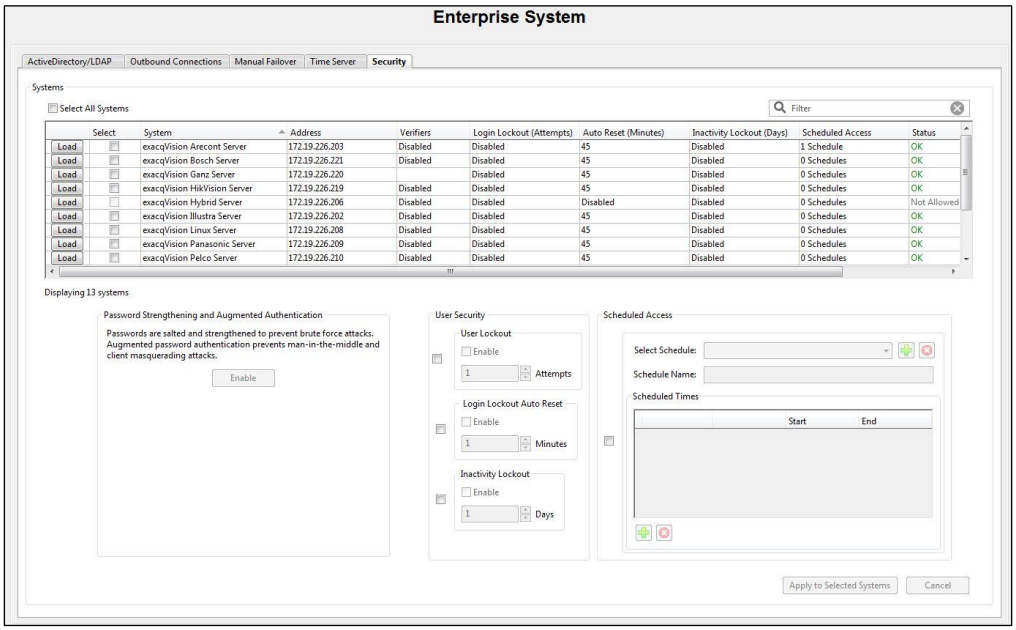


図69.[Enterprise システム]ウィンドウのセキュリティタブ

サーバーのユーザーロックアウト試行回数制限を設定する

サーバーのユーザーロックアウト試行回数制限を設定するには、以下の手順を実行します。

1. **[システム]** リストから、１つ以上のサーバーを選択します。
2. [ユーザーセキュリティ]ペインで、**[ユーザーロックアウト]**領域の横にあるチェックボックスをオンにします。
3. **[ユーザーロックアウト]**領域で**[有効にする]**チェックボックスを選択します。
4. **[試行回数]** リストから、ユーザーがシステムからロックアウトされるまでに与えられる、パスワードの入力試行回数を選択します。
5. **[選択システムへの適用]**をクリックします。

サーバーのユーザーロックアウトのリセット時間を設定する

サーバーのユーザーロックアウトのリセット時間を設定するには、以下の手順を実行します。

1. **[システム]** リストから、１つ以上のサーバーを選択します。
2. [ユーザーセキュリティ]ペインで、**[ログインロックアウト自動リセット]**領域の横にあるチェックボックスをオンにします。
3. **[ログインロックアウト自動リセット]**領域で**[有効にする]**チェックボックスを選択します。
4. **[分]** リストから、リセットされるまでに、ユーザーをシステムからロックアウトする時間を選択します。
5. **[選択システムへの適用]**をクリックします。

サーバーの非活動ロックアウト時間を設定する

非活動ロックアウト時間を設定するには、以下の手順を実行します。

1. **[システム]** リストから、１つ以上のサーバーを選択します。
2. [ユーザーセキュリティ]ペインで、**[非活動ロックアウト]**領域の横にあるチェックボックスをオンにします。
3. **[非活動ロックアウト]**領域で**[有効にする]**チェックボックスを選択します。
4. **[日数]** リストから、ユーザーがシステムからロックアウトされるまでにシステム上で非アクティブな状態でいられる日数を選択します。
5. **[選択システムへの適用]**をクリックします。

サーバーの新しいアクセススケジュールを作成する

サーバーのアクセススケジュールを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[システム]** リストから、１つ以上のサーバーを選択します。
2. [アクセスのスケジュール]ペインで、**[スケジュールされた時間]**領域の横にあるチェックボックスをオンにします。
3. **[プラス]**アイコンをクリックします。
4. **[スケジュール名]** フィールドに、スケジュールの名前を入力します。
5. 日数を選択し、ユーザーにアクセス権を与える期間の開始および終了時間を選択します。
6. **[選択システムへの適用]**をクリックします。

サーバー上のパスワードセキュリティを強化する

サーバーのパスワードセキュリティを強化するには、以下の手順を実行します。

1. **[システム]** リストから、１つ以上のサーバーを選択します。
2. [パスワード強化と拡張認証]ウィンドウで、**[有効にする]**をクリックします。
3. **[パスワード]** フィールドに、パスワードを入力します。
4. **[有効にする]**をクリックします。

   注記[有効にする]をクリックすると、変更を元に戻すことはできません。 古いソフトウェアバージョンのexacqVisionクライアントは、ソフトウェアをアップグレードするまでサーバーに接続できません。

[Enterprise カメラ] ウィンドウ

[Enterprise カメラ] ウィンドウでは、ESM に接続するサーバー内のすべてのカメラに関する情報を表示できます。詳細については、「**表105. [Enterprise カメラ] ウィンドウの機能**」を参照してください。

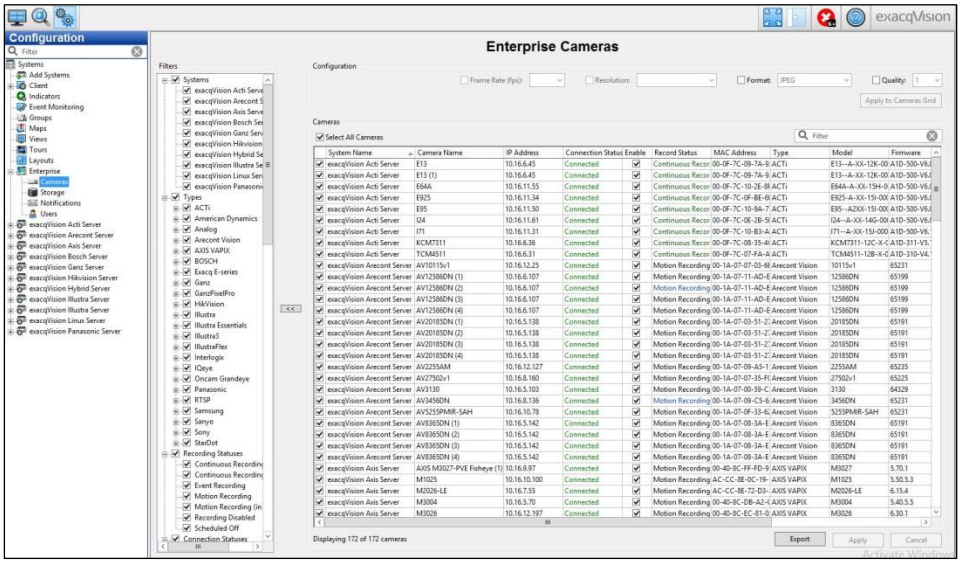


図70.[Enterprise カメラ] ウィンドウ

機能	説明
設定	カメラの設定を表示するには、カメラの名前をダブルクリックします。
exacqReplay	カメラの **[exacqReplay]** ウィンドウを開くには、そのカメラの **[録画の状態]** 列を右クリックします。exacqReplay の詳細については、「**[exacqReplay]** ウィンドウ」を参照してください。

表105.[Enterprise カメラ] ウィンドウの機能

[Enterprise ストレージ] ウィンドウ

[Enterprise ストレージ] ウィンドウでは、すべてのストレージ装置を表示し、S シリーズおよびサーバーストレージを構成できます。また、S シリーズストレージサーバーを選択し、アーカイブまたは拡張ストレージあるいはその両方のために構成し、exacqVision システムと関連付けることができます。

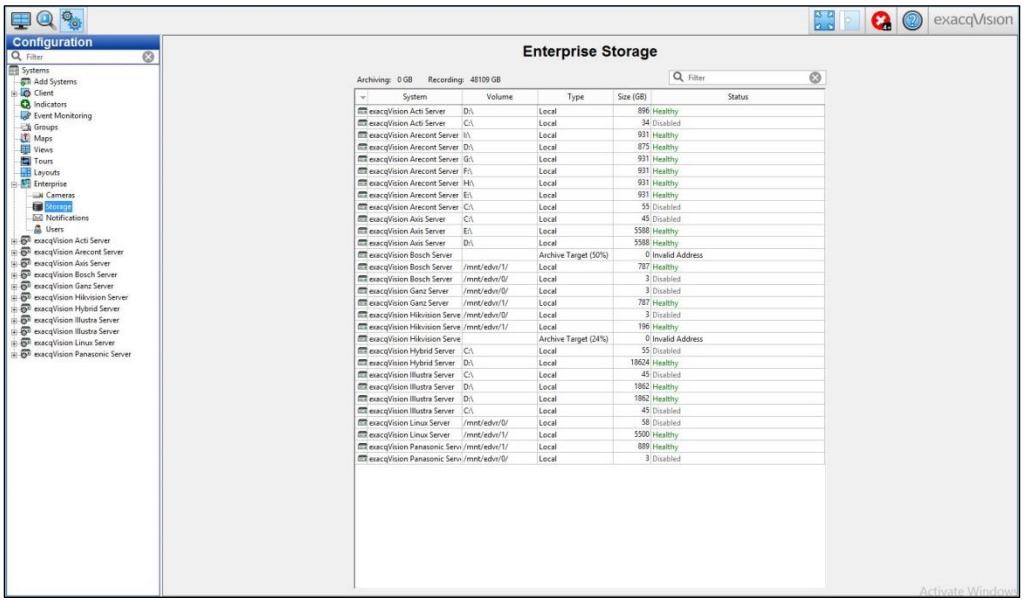


図71.[Enterprise ストレージ] ウィンドウ

[Enterprise 通知] ウィンドウ

[Enterprise 通知] ウィンドウでは、複数のサーバー上で同時に通知プロファイルと電子メールサーバーを構成できます。通知プロファイルの作成方法の詳細については、「**[通知]** ウィンドウ」を参照してください。

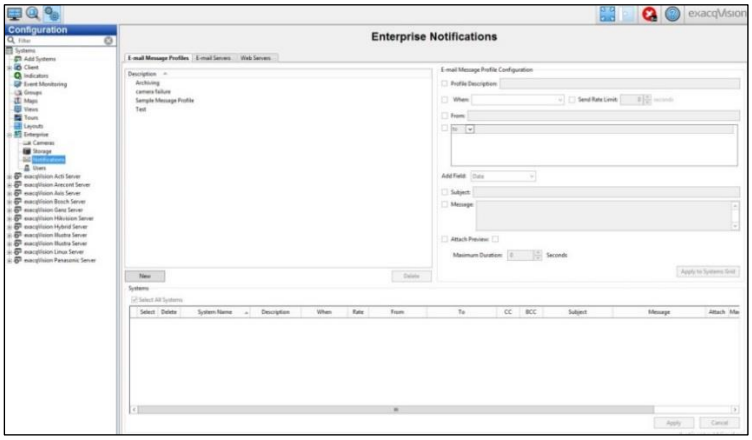


図72.[Enterprise 通知] ウィンドウ

通知プロファイルとサーバーとの関連付け

通知プロファイルとサーバーを関連付けるには、以下の手順を実行します。

1. **[電子メールメッセージプロファイル]** タブで、**[新規]** をクリックします。
2. [電子メールメッセージプロファイル構成] ペインに、電子メールの内容の短い説明を入力します。
3. オプション。**[送信速度制限]** リストから、電子メール通知が送信される間隔の最小秒数を調整します。詳細については、「**[電子メールメッセージプロファイル] タブ**」を参照してください。
4. **[差出人]** フィールドには、電子メールを送信する人の電子メールアドレスを入力します。**[受信者]** フィールドには、受信者の電子メールアドレスを入力します。
5. 電子メールの件名を入力し、**[メッセージ]** フィールドに電子メールメッセージを入力します。
6. **[システムグリッドに適用]** をクリックします。

送信 SMTP メールサーバーの構成

送信 SMTP メールサーバーを構成するには、以下の手順を実行します。

1. **[電子メールサーバー]** タブで、**[新規]** をクリックします。
2. [電子メールサーバー構成] ペインに、電子メールの内容の短い説明を入力します。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - SSL/TLS
   - STARTTLS

   注記： Microsoft Office 365 を使用している場合は、**[STARTTLS]** を選択します。
4. **[送信メールサーバー]** 領域に、送信メールサーバーの IP アドレスとポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は 25 です。
5. **[システムグリッドに適用]** をクリックします。

[Enterprise ユーザー] ウィンドウ

[Enterprise ユーザー] ウィンドウでは、LDAP 統合を使用するか、使用せずに複数のシステムのユーザーまたはグループアカウントを同時に作成できます。ユーザーまたはユーザーグループを作成するには、「**LDAP 統合を利用したユーザーまたはグループの作成**」および「**LDAP 統合を利用しないユーザーまたはグループの作成**」を参照してください。**[Enterprise ユーザー]** ウィンドウの機能の詳細については、「**表106.[Enterprise ユーザー] ウィンドウ**」を参照してください。

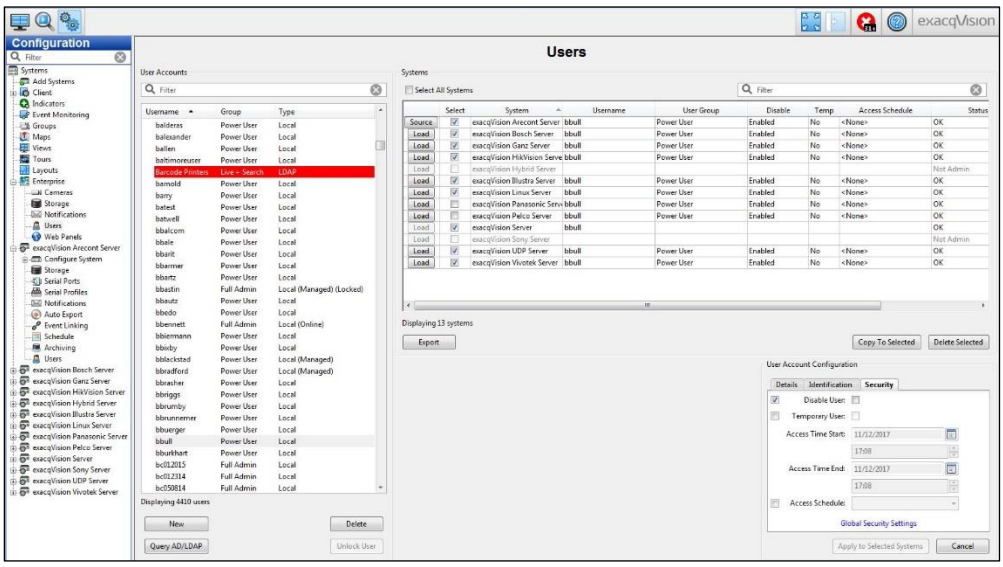


図73.[Enterprise ユーザー] ウィンドウ

インターフェース要素	説明
[ユーザーのロック解除] ボタン	ユーザーのロックを解除するには、**[ユーザーアカウント]** リストからユーザーを選択し、**[ユーザーのロック解除]** をクリックします。
[すべてのシステムの選択] チェックボックス	ユーザーのアカウント設定を、exacqVision **[システム]** リスト内のすべてのサーバーのデフォルト設定として適用するには、**[すべてのシステムの選択]** チェックボックスをオンにします。
[選択項目にコピー]ボタン	ユーザーをシステムにコピーするには、**[ユーザーアカウント]**リストからユーザーを選択し、**[システム]**リストからシステムを選択し、**[選択項目にコピー]**をクリックします。
[選択項目を削除]ボタン	システムからユーザーを削除するには、**[ユーザーアカウント]**リストからユーザーを選択し、 **[システム]**リストからシステムを選択し、**[選択項目を削除]**をクリックします。
[エクスポート] ボタン	ユーザーのリストを含む Enterprise ユーザー構成ファイルを保存するには、**[エクスポート]** をクリックします。その後、このファイルを **[システム]** リストにインポートできます。
[ＩＤ] タブ	**[ID]** タブを使用して、ユーザー検索を絞り込むためにデータフィールドを作成できます。データフィールドを作成するには、**[プラス]**アイコンの横にあるチェックボックスをクリックし、対応するフィールドに情報を入力します。
[セキュリティ] タブ	**[セキュリティ]**タブでは、一時的なユーザーを作成し、ユーザーにアクセススケジュールを割り当て、ユーザーのアカウントを無効にすることができます。詳細については、「**ユーザーアカウントの無効化**」、「**exacqVision Enterpriseでの一時ユーザーの作成**」、および「**exacqVision Enterpriseのユーザーへのアクセススケジュールの割り当て**」を参照してください。

表106.[Enterprise ユーザー] ウィンドウ

LDAP 統合を利用したユーザーまたはグループの作成

LDAP 統合を利用してユーザーまたはグループを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[Enterprise ユーザー]** ウィンドウで、**[AD/LDAP の照会]** をクリックします。
2. **[ユーザーまたはグループの選択]** ウィンドウで、ユーザーまたはグループのドメインを **[ベース DN の選択]** リストから選択します。
3. **[検索する名前の入力]** フィールドに、ユーザー名を入力します。

   注記：ユーザー名は、ユーザーまたはグループがネットワークへのログオンに使用するユーザー名です。
4. 適合するユーザーまたはグループを表示するには、**[検索]** をクリックします。
5. ユーザーまたはグループの名前を選択し、**[選択]** をクリックします。

   注記：[ユーザーまたはグループの選択] ウィンドウの **[状態]** 領域に **[接続されました]** が表示されていない場合、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
6. [システム]ペインで、ユーザーまたはグループがアクセスできるようにするサーバーを選択します。

   注記赤色で強調表示されている [exacqVision システム] ペイン内のサーバーは、LDAP 用に構成されていますが、接続されていません。
7. **[選択システムへの適用]**をクリックします。
8. **[システムの追加]** ウィンドウで、**[シングルサインオンの使用]** を選択します。

   注記：[システムの追加] ウィンドウで **[シングルサインオンの使用]** を選択しないと、そのユーザーまたはグループはサーバーへのログオンに失敗する可能性があります。詳細については、「**システムの手動追加**」を参照してください。

LDAP 統合を利用しないユーザーまたはグループの作成

LDAP 統合を利用しないでユーザーまたはグループを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[Enterpriseユーザー]** ウィンドウで、**[新規]** をクリックします。
2. [システム]ペインで、ユーザーまたはユーザーグループがアクセスできるようにするサーバーを選択します。
3. **[詳細]**タブで、ユーザー名を入力します。
4. パスワードを **[パスワード]** フィールドに入力し、次に **[確認]** フィールドでパスワードを確認します。
5. **[ユーザーグループ]** リストから、ユーザーグループを選択します。
6. **[選択システムへの適用]**をクリックします。

ユーザーアカウントの無効化

ユーザーアカウントを無効にするには、以下の手順を実行します。

1. **[ユーザーアカウント]** リストから、ユーザーを選択します。
2. [ユーザーアカウント構成]ペインで、**[セキュリティ]**タブをクリックします。
3. **[セキュリティ]**タブで、**[ユーザーを無効にする]**の横にあるチェックボックスをオンにします。
4. **[ユーザーを無効にする]**チェックボックスをオンにします。
5. **[選択システムへの適用]**をクリックします。

exacqVision Enterpriseでの一時ユーザーの作成

一時ユーザーを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **[ユーザーアカウント]**リストからユーザーを選択します。
2. **[システム]**リストから、ユーザーにアクセスさせるシステムを選択します。
3. [ユーザーアカウント構成]ペインで、**[セキュリティ]**タブをクリックします。
4. **[セキュリティ]**タブで、**[一時ユーザー]**の横にあるチェックボックスをオンにします。
5. **[一時ユーザー]**チェックボックスをオンにします。
6. **[アクセス時間開始]** リストと **[アクセス時間終了]** リストから、スケジュールの開始および終了時間を選択します。
7. **[選択システムへの適用]**をクリックします。

exacqVision Enterpriseのユーザーへのアクセススケジュールの割り当て

ユーザーにアクセススケジュールを割り当てるには、以下の手順を実行します。

1. **[ユーザーアカウント]** リストから、ユーザーを選択します。

   注記完全な管理権限を持つユーザーにスケジュールを割り当てることはできません。
2. **[システム]**リストから、システムを選択します。
3. [ユーザーアカウント構成]ペインで、**[セキュリティ]**タブをクリックします。
4. **[アクセススケジュール]**リストから、スケジュールを選択します。
5. **[選択システムへの適用]**をクリックします。

[Enterpriseパスワードの変更]ウィンドウ

Enterpriseシステムにおける**[パスワードの変更]**ウィンドウで、Enterpriseシステム内の1つ以上のexacqVisionクライアントサーバーで現在のユーザーのパスワードを変更できます。

[Enterpriseパスワードの変更]ウィンドウは、以下の状況では表示されません。

- 現在のユーザーはLDAPユーザーです。
- ユーザーにはパスワードを変更する権限がありません。詳細については、「**[ユーザー]ウィンドウの［セキュリティ］**タブ」を参照してください。

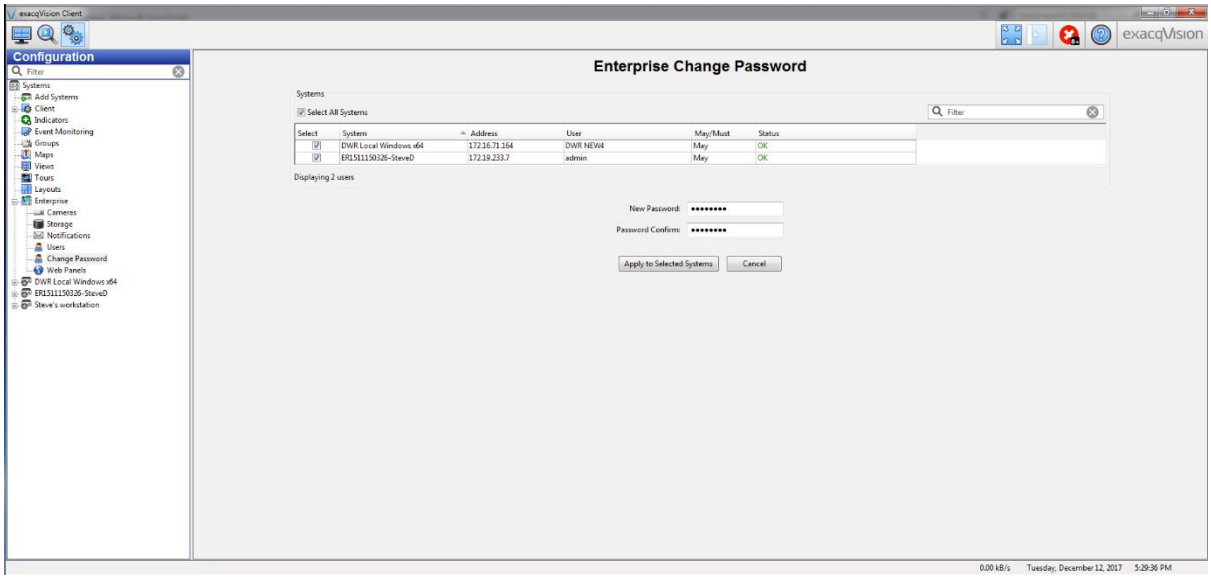


図74.[Enterpriseパスワードの変更]ウィンドウ

システムのパスワードの変更

EnterpriseシステムのexacqVisionクライアントサーバー上の現在のユーザーのパスワードを変更するには、以下の手順を実行します。

> **注記**ユーザーにはパスワードを変更する権限がありません。詳細については、「**[ユーザー]ウィンドウの［セキュリティ］**タブ」を参照してください。

1. ナビゲーションツリーから、**[パスワードの変更]**を選択します。
2. [システム]ペインで、システムを選択します。
3. **[新規パスワード]**フィールドで、新しいパスワードを入力してから、**[パスワードの確認]**フィールドにそのパスワードを再び入力してパスワードを確定します。
4. **[選択システムへの適用]**をクリックします。
5. 新しいパスワードを適用する各システムの古いパスワードを入力します。
6. オプション。すべてのシステムで同じパスワードを使用する場合は、**[すべてに使用]**チェックボックスを選択することができます。
7. **[OK]**をクリックします。

[Enterprise Web パネル] ウィンドウ

[Web パネル] ウィンドウでは、Web サイトをシステムに追加し、それらの Web サイトを **[ライブ]** ウィンドウ内のビデオパネルに表示できます。

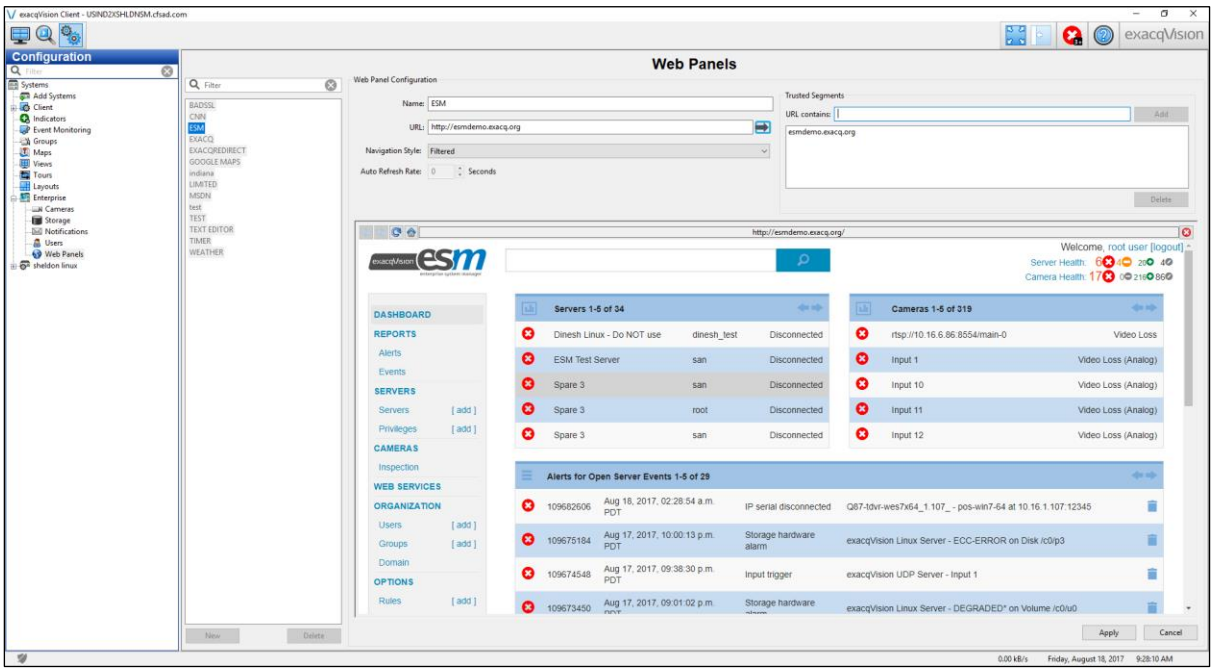


図75.[Enterprise Web パネル] ウィンドウ

Web サイトの追加

Web サイトを追加するには、以下の手順を実行します。

1. **[Web パネル]** ウィンドウで、**[新規]** をクリックします。
2. [Web パネル構成] ペインに、追加する Web サイトの名前を入力します。
3. **[URL]** フィールドに、Web サイトの IP アドレスを入力します。
4. **[ナビゲーションスタイル]** リストから、以下のいずれかのオプションを選択します。
   - **表示のみ：** Web ページとやり取りできますが、別のページにリダイレクトすることはできません。
   - **フィルタ適用：** Web ページとやり取りしたり、構成されたリンクにアクセスしたりできます。リンクの追加方法の詳細については、**「Web サイトナビゲーションスタイルフィルターの追加」** を参照してください。
   - **完全にナビゲーション可能：** 機能している Web ブラウザーと同じ機能を利用できます。
5. **[自動更新速度]** リストから、Web サイトを更新する頻度を選択します。
6. **[適用]** をクリックします。

Web サイトナビゲーションスタイルフィルターの追加

ナビゲーションスタイルフィルターを追加するには、以下の手順を実行します。

1. **[Web サイト]** リストから、フィルターを追加する Web サイトを選択します。
2. **[信頼済みセグメント]** ペインに、追加する URL を入力します。
3. **[追加]** をクリックします。

Chapter 7.　テクニカルサポート

Exacq Technologies は、卓越した技術およびエンジニアリングサポートを提供することに尽力しています。exacqVision 製品について手助けが必要である場合は、エラーメッセージまたはエラーを再現するための説明を含め、問題の詳細な記述を準備してください。

テクニカルサポートには以下の方法で連絡できます。

Exacq Technologies, Inc.
11955 Exit Five Parkway, Bldg 3
Fishers, IN 46037 USA

電話：+1-317-845-5710
FAX番号：+1-317-845-5720
電子メール：support@exacq.com
ウェブ：http://www.exacq.com

Chapter 8. 規制通知

FCC（Federal Communications Commission：連邦通信委員会）
Radio Frequency Interference Statement（無線周波数干渉に関する声明）

Exacq 製品は、偶発的無線周波数発生回路を含んでいるため、適切に設置され、使用されない場合、無線およびテレビの受信への干渉が起こる可能性があります。本装置は、連邦通信委員会 (FCC) 規則の Part 15 Subpart J に従って試験を受け、Class A コンピューター機器の制限に適合するものと認定されています。これらの制限は、装置を商業環境で動作させた場合に、当該の干渉に対して妥当な保護を提供することを目的とするものです。住宅地で本装置を動作させると、無線およびテレビの受信への干渉が起きる可能性があり、その場合、ユーザーが自己負担で干渉の問題を是正する必要があります。本装置が無線またはテレビの受信への干渉を起こしている場合（これは装置の電源のオン/オフの切り替えで判断できます）、ユーザーは以下の 1 つまたは複数の方法によって干渉の補正を試みるよう推奨されます。テレビまたは無線の受信アンテナの方向を変えたり、Exacq 製品および無線またはテレビの設置位置を互いに対して変えたりしてください。必要に応じて、ユーザーは補足提案についてメーカーまたは経験を積んだ無線/テレビ技術者に助言を求める必要があります。ユーザーにとって役立つ資料としては、連邦通信委員会が作成した小冊子『How to Identify and Resolve Radio-TV Interference Problems』が挙げられます。この小冊子は、米国政府印刷局（Washington DC, 20402（ストック番号 004-000-00345-4））から入手できます。

CE 通知

CE記号のマーキングは、本装置が欧州共同体の EMC 指令に適合していることを示しています。当該のマーキングは、本装置が以下の技術規格を満たしているか、上回っていることを示しています。

- EN55022：伝導エミッション
- EN55022：放射エミッション
- 61000-4-2 静電放電
- 61000-4-3 放射イミュニティ
- 61000-4-4 電気的ファストトランジェント
- 61000-4-5 サージイミュニティ
- 61000-4-6 伝導イミュニティ

電磁適合性 (EMC) は、ユーザーにより追加されるすべての配線に対して、シールドケーブルおよびフェライト磁心の使用を求めます。適切な遮蔽技術をユーザーのシステムに適用する必要があります。

Chapter 9. 保証

限定的保証および責任の制限

限定的保証。Exacq のハードウェア製品は、Exacq が製品をお客様に出荷した日から 3 カ月間、材料および仕上がりにおいて欠陥がないことを保証するものとします。すべてのソフトウェア製品は、適切な Exacq Technologies ライセンスの条件に基づき、お客様にライセンスを許諾します。納入日から 90 日の間、Exacq ソフトウェア製品（Exacq ハードウェア製品に適切にインストールされている場合）は、(a) 付属の資料に従って実質的に機能し、(b) ソフトウェア製品が記録される媒体は通常の使用および業務の下で材料および仕上がりにおいて欠陥がないことを保証するものとします。ライセンスの許諾を受けたソフトウェア製品の交換は、本来の保証期間の残余期間または 30 日間のいずれか長い期間、保証されるものとします。お客様は、保証期間中に製品を Exacq に返品する前に、Exacq から RMA（返品承認）番号を取得する必要があります。お客様は、修理または交換された製品の Exacq との間の発送費用を支払うものとします。返品された製品は検査され、試験された後、その製品に欠陥がないと Exacq が断定した場合、お客様に通知します。その製品はお客様の負担で返却され、この調査と試験の費用はお客様に請求させていただきます。本限定的保証は、以下のことを原因として製品または部品が損傷している場合には無効となります。(a) 不適切な取り扱い、通常の使用による摩損、事故、盗難、器物損壊、火災、水害、他の危険、(b) 電力、温度湿度、埃、または電光など、本製品の動作に関する仕様の範囲外の状況、(c) 該当する Exacq ソフトウェアとの併用を目的としていないお客様支給のサードパーティソフトウェア、(d) 不適切なハードウェアまたはソフトウェアキーの利用、または (e) Exacq Technologies, Inc. またはその正規サービスセンターあるいは公認技術者によって行われたのではない製品の不適切な使用、過失、修理、改ざん、または保守。

顧客救済措置前述の限定的保証に関して Exacq が負う義務（およびお客様の唯一の救済手段）は、その自由裁量により、支払った費用の返済または欠陥がある製品の修理/交換とします。ただし、これは該当する保証期間中にかかる欠陥について Exacq が書面による通知を受けることが条件となります。お客様は、訴訟原因の発生から 1 年以上経ってから、前述の限定的保証に基づいた救済措置を強制するために訴訟を提起することはできません。

返品/取消条件。お客様は、納入日から 30 日以内に不要な製品を返品できます。お客様は、Exacq に返品した不要な製品に対し、20% の返品手数料を支払うものとします。30 日間の返品期間の終了後、返品は受け付けられません。特殊な装置またはサービスが関係している場合、お客様はすべての進行中の関連業務に責任を負うものとします。ただし、Exacq は、お客様から書面による取消通知を受け取り次第、損害を軽減するために責任ある措置を講じるものとします。製品を返品するには、RMA 番号を Exacq から入手する必要があります。Exacq は、当社に対してお客様が行なった説明が誤っているか誤解を与えるものであった場合、注文を解除できます。

その他の保証の排除。上記の明示的に定められた保証を除き、本製品は、「現状のまま」で提供され、一切の保証を伴いません。また、商品性、特定目的適合性、権利、または不侵害の黙示保証、あるいは商慣習や取引の過程で発生する可能性のあるその他の保証を含みますが、これに限定されるものではなく、明示黙示の如何を問わず、本製品についてその他の保証は一切行いません。Exacq は、本製品の使用またはその使用の結果に関し、正確性、精度、信頼性、またはその他の点について一切の保証または表明を行うものではなく、本製品の操作が中断なく行えること、またはエラーがないことを保証しません。Exacq はここに記載されていないあらゆる保証を明示的に放棄します。

派生的損害に対する法的責任の除外。Exacq とそのライセンサー、ディストリビューター、およびサプライヤー（これらの役員、取締役、従業員、および代理業者を含む）の全責任は、前述のとおりです。適用法によって認められる最大の限度で、Exacq とそのライセンサー、ディストリビューター、およびサプライヤー（これらの取締役、役員、従業員、および代理業者を含む）は、その損害が発生する可能性を通告されていた場合においても、特別、直接的、間接的、付随的、懲罰的、または派生的に生じた損害、費用、利益の逸失、貯蓄の損失、業務への支障、業務に関する情報の逸失、またはその他の本製品の使用あるいは使用不能を含みますが、これに限定されるものではなく、いかなる損害に対しても一切の責任を負いません。お客様は、適用される購入価格またはライセンス料がこのリスク配分を考慮して決定されていることを認めます。一部の州/司法管轄区では、間接的や偶発的な損害に対する責任の除外または制限が認められない場合があるため、前述の制限は適用されないことがあります。上訴不可能な最終審判において管轄を有する裁判所により、お客様に販売されたか、ライセンスを許諾された Exacq 製品に欠陥があり直接的に人体の損傷、死亡事故、または物的損害を引き起こしたと決定されたために、前述の責任の制限が効力を有しない場合には、物的損害に対する Exacq の責任の上限は、50,000 ドルまたはかかる損害を引き起こした特定の製品に支払われた料金のいずれか大きい方の金額とします。

警告：いかなる用途においても、本製品の動作の信頼性は、電源供給の変動、コンピューターハードウェアの動作不良、コンピューターのオペレーティングシステムソフトウェアの適合性、アプリケーション開発に使用するコンパイラおよび開発ソフトウェアの適合性、インストール時のエラー、ソフトウェアとハードウェアの互換性の問題、電子監視装置あるいは制御装置の動作不良または故障、電子装置（ハードウェアまたはソフトウェアあるいはその両方）の一時的故障、想定されていない使用や誤使用、またはユーザーやアプリケーション設計者の過失などを含みますがこれらに限定されない有害な要素（これらの有害な要素を以下「システムの故障」と総称します）により損なわれることがあります。システムの故障が人体または所有物に損傷の危険（人体の損傷および死亡の危険性を含む）をもたらすような用途に関しては、システムの故障の危険があるため、単独の形態の電子システムのみに頼ってはならないものとします。損害、損傷、または死亡を回避するために、ユーザーやアプリケーション設計者は、システムの故障を防ぐための合理的にみて慎重な処置（バックアップまたはシャットダウン機構を含みますがこれに限定されません）を取らなければなりません。各エンドユーザーシステムはカスタマイズされ、Exacq のテストプラットフォームとは異なるものであるため、あるいはユーザーまたはアプリケーション設計者は Exacq により評価または検討されていない方法で Exacq 製品を他の製品と組み合わせて使用している可能性があるため、ユーザーまたはアプリケーション設計者は、Exacq 製品がシステムまたはアプリケーションに組み込まれている場合は常に、Exacq 製品の適合性（かかるシステムまたはアプリケーションの適切な設計、プロセス、および安全レベルを含みますがこれに限定されません）を検証し、確認する最終的な責任を負います。